

ル丙ト數回通スルモ只一ノ姦通罪ナリ然レトモ甲カ丙ト通シタル後更ニ丁ノ妻タル戊ト通スルトキハ同一ノ法律利益ニ對スルニアラサルヲ以テ之ヲ一ニ連續スルコトヲ得ス又甲カ數度乙ノ倉庫ニ入り米俵ヲ竊取スル行爲ハ連續犯ナルモ其後ニ至リ乙ノ發見スル所ト爲リ之ニ暴行脅迫ヲ加ヘ以テ強取シタルトキノ如キハ連續犯ニアラス方法ノ異ナルノミナラス前後ノ罪名同一ニアラサルヲ以テナリ要スルニ連續犯タルニハ數個ノ行爲アルコト其行爲カ連續スルコト及ヒ同一ノ罪名ニ觸ル、コトノ三條件ヲ具備スルコトヲ要ス而シテ此場合ニ於テハ一罪トシテ之ヲ處斷スルモノトス蓋シ假令數罪トスルモ一罪ノ刑ヲ科スルヲ至當トスルカ故ニ其結果同一ナルノミナラス其犯行ノ時モ相互ニ近接スルヲ以テ之ヲ法律上一罪ト見ルコト便宜ナルヲ以テナリ

第十章 累犯

○本章ハ舊刑法ノ所謂再犯ニ關スル規定ヲ修正シタルモノニシテ再犯ナル文字ヲ累犯ト改メタル所以ハ三犯四犯等モ凡テ包含セシメンカ爲メナリ故ニ初犯ニ對シテ其以後ノ罪ヲ再犯ト云ヒ再犯ニ對シテ再犯ノ關係ヲ有スルモノヲ三犯ト云フ再犯三犯等ヲ包含スル名稱ハ即チ累犯ナリ

舊刑法ニ於テ再犯及ヒ初犯間ノ日數ニ付キ重罪輕罪ニ關シテ何等ノ制限ナク初犯後數十年ヲ經タル後ト雖モ更ニ犯罪アレハ之ヲ再犯ト爲セリ是レ犯人ニ對シ酷ニ失スルモノニシテ再加重ヲ爲ス所以ノ趣旨ニ添ハサルモノトス特ニ再犯ハ初犯後久シカラサル期限内ニ於テ最モ多ク發生スルヲ以テ本法ハ此點ニ對シテ一ノ制限ヲ設ケ初犯後或年限内ニ非サルハ再犯例ヲ適用セサルコト、シタリ

併合罪ト再犯トハ同一人ニシテ數罪ヲ犯シタル點ニ付テハ異ナルコトナキモ裁判確定前ニ數罪ヲ犯シタルコトヲ要スルト一罪ノ裁判確定後更ニ罪ヲ犯シタルコトヲ要スル點ニ於テ同シカラス然レトモ一罪ノ裁判確定

後更ニ罪ヲ犯シタルトキハ常ニ法律上ノ所謂再犯ナルニアラス再犯トシ
ヲ加重スルニハ種々ノ條件ヲ要ス

第五十六條

懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執
行ノ免除アリタル日ヨリ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲
役ニ處ス可キトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者
其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減
輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨ
リ前項ノ期間内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キト
キ亦同シ
併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス

可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再
犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス

○本條ハ再犯例ヲ適用スヘキ場合ヲ定メタルモノニシテ第一項ニ依レ
ハ懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ
五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處スヘキトキハ之ヲ再犯トス故ニ再
犯タルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 懲役ニ處セラレタル者ナルコト 先ニ罪ヲ犯シテ懲役ニ處セラ
レタル者ニアラサレハ後ニ如何ナル罪ヲ犯スモ再犯タラス故ニ禁錮ニ
處セラレタル者ニハ再犯ナシ (内亂ニ關スル罪即チ所謂國事犯其他禁
錮ニ處スヘキ罪ヲ犯シタル者ニハ刑事政策上敢テ再犯例ヲ適用スル必
要ナキヲ以テナリ) 又現ニ懲役ニ處セラレタルコトヲ要ス故ニ例ヘハ
偽證罪若クハ誣告罪ヲ犯シタルモ其刑ヲ免除セラレ又ハ殺人罪等ノ中

止犯ナルカ爲メ刑ノ免除ヲ受ケタル者ノ如キハ再ヒ罪ヲ犯スモ法律ト
ノ再犯ニアラス但シ現ニ處セラレタル刑カ懲役ナレハ足ル敢テ無期タ
ルト有期タルトヲ問ハス

二 其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタルコト 故ニ懲役ニ處スト
ノ裁判確定シタルノミニテハ其後更ニ罪ヲ犯スモ再犯ヲ以テ論スル
ト能ハス刑ノ執行中ナルトキ亦然リ再犯タルニハ後ノ罪カ前ノ罪ニ因
リテ處セラレタル懲役ノ刑ノ執行ヲ全ク終リタルカ若クハ特赦等ノ原
因ニヨリ執行ノ免除アリタル後ニ犯サレタル場合ナラサルヘカラス刑
ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サル、コトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタル
場合ニ於テハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フヲ以テ此場合ハ條文執行ノ免除
ノ語中ニ包含セス故ニ後再ヒ罪ヲ犯スモ再犯タラス

三 其日ヨリ起算シテ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シタルコト 故ニ刑ノ執行
ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ起算シテ五年ヲ經過シタルトキ

即チ學說ノ所謂累犯時效成就シタルトキハ其後ニ更ニ罪ヲ犯スモ再犯
ヲ以テ論スルコト能ハス蓋シ慣行性ノ犯人ト認ムヘカラサルヲ以テ再
犯例ヲ適用シ之ヲ加重スルノ必要ナキヲ以テナリ

再犯例ヲ適用スヘキ期限ヲ定ムルニ付テハ或ハ初犯ノ裁判確定ノ日ヨ
リ起算シテ若干年ト爲ス立法例ナキニアラスト雖モ本法ハ裁判確定ノ
ミニテハ未タ犯人ノ再犯ヲ防クニ足ルヘキ實效ナキモノトシ其裁判ノ
執行ヲ終ルカ若クハ其裁判ノ執行ノ免除ヲ受ケ十分ニ裁判ノ實行ヲ生
シ得ヘシト認ムヘキ時期ヨリ起算スルコト、シ其期間ヲ斟酌シテ五年
ト定メタルモノナリ

四 後ノ罪ハ有期懲役ニ處スヘキモノナルコト 故ニ一度ヒ罪ヲ犯
シ懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ
五年内ニ更ニ罪ヲ犯スモ其罪カ有期懲役ニ處スヘキモノニアラスシテ
死刑無期懲役又ハ禁錮等ニ處スヘキモノナルトキハ再犯ヲ以テ論スル

コト能ハス之レ死刑ハ有期懲役ヨリ重キカ故ニ加重ノ必要ナク且ツ加重不能ナルカ爲メニシテ禁錮ニ處スヘキ罪質ハ再犯例ヲ適用スルノ必要ナシトシテ之ヲ除外シタルカ爲メナリ又初犯ノ刑ハ無期懲役タルト有期懲役タルト問ハサルニ反シ後ニ犯シタル罪ノ刑ヲ有期懲役ノ場合ニ限リタルハ初犯ノ場合ニ在テハ無期懲役ニ處セラレタル者ト雖モ執行ノ免除ニヨリ法定ノ期間内更ニ罪ヲ犯スコトアリ得ル爲メニシテ後ノ場合ニ在テハ前ノ刑カ有期懲役ニシテ後ノ刑カ無期懲役ナルトキハ後ノ刑重キヲ以テ加重ノ必要ナク又前ノ刑カ等シク無期懲役ナルトキハ之ヲ加重スル必要ナキニアラスト雖モ加ヘテ死刑ニ入ルカ如キハ酷ニ失シ本法ノ探ラサル所ナルヲ以テナリ

以上ノ條件ヲ具備シタルモノヲ再犯トシ第五十七條ノ規定ニ依リ加重スヘキモノトス

○本條第一項ノ規定ニ依レハ初犯ハ懲役ノ刑ニ處セラレタル者ニ限ル

ト雖モ懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得タル者若クハ死刑ヨリ懲役ニ減輕セラレタル者ニ付キテハ尙ホ一層之カ再犯ニ付キ加重スヘキ必要アリ此ヲ以テ此等ノ者カ第一項ノ期間内ニ更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯セハ之ニ再犯例ヲ適用セサルヘカラス是本條第二項ノ設ケアル所以ナリ而シテ條文懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者云々トハ例ヘハ第八十二條第二項ノ罪ヲ犯シ死刑ニ處セラレタル者ノ如キヲ云フ其他第八十三條第八十五條第百八條第百九十九條等其例甚タ多シ(死刑又ハ無期懲役ニ處ス、死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處スト云フ如ク死刑ト懲役ト撰擇刑タル場合)又減輕ニ因リ懲役ニ減輕セラレタル場合トハ例ヘハ第八十二條第一項ノ罪ヲ犯シ本刑タル死刑ヲ減輕シテ懲役ニ處セラレタル場合(死刑ニ處スト定メ撰擇ヲ許サス且減輕スヘキトキハ禁錮ニ處セスシテ懲役ニ處スヘキ場合)ノ如キヲ云フ

○本條第三項ニ依レハ併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處スヘキ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニアラサルカ爲メ他ノ重キ刑ニ處セラレタルトキト雖モ再犯ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做スヘキモノトス故ニ此場合ニ於テハ初犯ニ付キ現ニ懲役ノ刑ニ處セラレスト雖モ後ニ犯シタル罪カ法定ノ條件ヲ具備スルトキハ再犯ヲ以テ論セサルヘカラス

第五十七條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス

○本條ハ再犯加重ノ分量ヲ定メタルモノニシテ即チ再犯例ヲ適用シ刑ヲ加重スル場合ニハ其罪ニ付キテ定メタル懲役ノ長期ノ二倍ヲ限度トシ裁判官ニ於テ自由ニ加重ノ分量ヲ定ムルコトヲ得ルモノトス今之ヲ舊刑法ト比較スルニ舊法ニ於テハ再犯ノ刑ハ初犯ノ刑ニ一等ヲ加フト

定メタリ然レトモ其結果ハ重罪ニ付テハ多クモ三年ヲ超ユルコトナク輕罪違警罪ニ付テハ刑期又ハ罰金額ノ四分一ヲ加重スルニ過キス而シテ三犯以上ノ場合ト雖モ之ト異ナルコトナキ爲メ一般ニ加重ノ分量輕キニ失シ爲メニ累犯者ノ増加スルコト夥シク再犯ヲ防遏スル目的ヲ達スルコトヲ得サリシナリ是ヲ以テ本法ハ加重ノ分量ヲ増加シ其罪ニ付キ定メタル刑期ノ二倍以下ヲ以テ再犯ノ刑ト定メタリ此ノ如ク再犯ノ刑ヲ加重スル所以ハ一度ヒ罪ヲ犯シ既ニ懲役ニ處セラレタルニモ拘ラズ尙ホ懲役ニ該ル罪ヲ犯スカ如キ慣行性ノ犯人ニ對シテハ刑罰ニ加重シ苦痛ヲ大ナラシムルニアラスンハ到底刑罰ノ目的ヲ達スルコト能ハサルヲ以テナリ

條文長期ノ二倍以下トハ例ヘハ五年以下ノ懲役ニ處スヘキモノナルトキハ十年以下ト爲スカ如シ然ラハ二年以上ノ有期懲役ニ處スト定メタル罪ノ如キハ(第四百四十九條ノ罪)ノ如キ如何有期懲役ノ最長期ハ十五

年ナルヲ以テ十五年ノ二倍即チ三十年以下ト爲スヘキカ曰ク否有期ノ懲役ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得ルハ第十四條ノ規定スル所ナルカ故ニ二十年ニ至ルコトハアリ得ルモ二十年以上ノ有期懲役ハ我刑法ノ認メサル所ナリ從テ本條ノ所謂長期ノ二倍以下トハ第十四條ノ制限ヲ超エサル範圍内ニ於ケルニ倍以下ノ意ナリト解セサルヘカラス故ニ再犯ノ罪カ十五年以下ノ懲役ニ該ル罪ナルトキハ二十年ヲ以テ最長期ト爲スヘク決シテ三十年ニ至ルコトヲ得ス

第五十八條

裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルト

キハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス

○本條ハ裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタル場合ノ規定ナリ舊刑

法ハ再犯加重ノ分量輕キニ過キ再犯ヲ防遏スルニ足ラサルニモ拘ハラズ犯人ハ尙ホ刑ノ加重ヲ免レント計リ犯數ヲ隱蔽スルヲ以テ之ヲ發見スルコト容易ナラス改正刑法ニ於テハ加重ノ分量更ニ大ニ増加シタルカ爲メ犯數ヲ隱蔽スル者ノ増加ハ豫期シ難カラス然ルニ舊法ニ於テハ裁判ノ當時ニ於テ再犯者タルコトヲ發見セラレサルトキハ縱令其後ニ至リ再犯者タルコトヲ發覺シタリトスルモ其刑期ハ之ヲ加重シ得ヘカラサルヲ以テ犯人ハ其裁判ノ時ニ當リテ争フテ其再犯者タルコトヲ隱蔽シ萬一ヲ僥倖センコトヲ企ツ可シ之ヲ以テ本條第一項ニ於テ裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ムト規定シタリ然レトモ既ニ刑ノ執行ヲ終リ出獄シタル者ニマテ追及スルハ過當ナリト云ハサルヘカラス故ニ第二項ヲ設ケ懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セスト定メタリ

○本條第一項ノ規定ヲ適用セントセハ確定裁判ノ效力ヲ動カスニ至ルヘシ然モ現行刑事訴訟法ニハ此ノ如キ場合ニ處スヘキ規定ナシ故ニ刑法施行法ヲ以テ之ヲ補フニ非サレハ本條ノ適用ヲ見ルコト能ハス

○第二十六條第三號及ヒ第四十二條第一項ニ發覺ノ語アリ本條ニ發見ノ語アリ兩者ノ區別如何曰ク發見ノ語ハ同一犯人ニ對シテ尙ホ他ニ犯罪ノアルコトノ始メテ知レタル場合ニ用ヒ發覺ノ語ハ犯罪事實及ヒ其犯人ノ初メテ知レタル場合ニ用ヒタルモノナリ

第五十九條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ

○本條ハ累犯中ノ三犯以上ノ者ノ處罰規定ニシテ即チ三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ依ルモノトス故ニ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下ヲ以テ處斷スヘク三犯以上幾十犯ニ至ルモ再犯ニ對スル加重ノ分量ト異ナルコトナシ蓋シ本法ハ既ニ再犯ノ場合ニ十分ノ加重ヲ

爲シ得ル範圍ヲ設ケタルヲ以テ三犯以上ニ對スル特別ノ加重例ヲ設ケル必要ナキカ爲メナリ

第十一章 共犯

○共犯トハ二人以上共同シテ一罪ヲ犯スヲ謂フ故ニ共犯ノ成立ニハ左ノ條件ヲ要ス

- 一 行爲者二人以上ナルコト 犯罪ハ一人ニシテ之ヲ犯スコトアリ數人ニシテ之ヲ犯スコトアリ又一人ニシテ犯スコトヲ得ル罪アリ一人ニシテ犯スコトヲ得サル罪アリ例ヘハ一人ニシテ竊盜罪ヲ犯スモ之レ犯罪普通ノ狀態ニシテ共犯ニアラス二人以上共同シテ之ヲ犯シタルトキハ共犯ナリ又竊盜罪ノ如キハ一人ニシテ之ヲ犯スコトヲ得ルモ姦通罪ノ如キハ一人ニシテ之ヲ犯スコトヲ得ス故ニ姦通罪ヲ犯シタル者ハ常ニ共犯ノ關係ヲ有ス

二 共同シタルコト 二人以上ニシテ一罪ヲ犯スモ其間共同ノ關係ナクハ共犯ニアラス故ニ一人刀ヲ以テ一人銃ヲ以テ殺害行爲ヲ爲シタル場合ノ如キハ共同ノ有無ニ依テ共犯タルト否トヲ定ムヘキナリ而シテ共同シタリト云ハシニハ客觀的ニ共同ノ行爲アリタルノミナラス主觀的ニ共同ノ觀念即チ犯意ノ共通アルコトヲ要ス故ニ過失罪ニハ共犯ナク又責任能力ナキ者ハ共犯タル能ハス

三 一罪ヲ犯シタルコト 一罪トハ一個ノ罪ノ意ニアラス故ニ數人共同シテ數罪ヲ犯スモ共犯タルヲ妨ケズ只或ル罪ヲ犯セハ足レリ又罪ヲ犯ストハ罪ノ成立ニ加擔スルヲ云フ從テ犯罪ノ成立後ニハ共犯ナシ

共犯ニハ正犯準正犯(教唆者)從犯ノ三者ヲ包含ス正犯ハ第六十條ニ於テ之ヲ規定シ準正犯ハ第六十一條ニ於テ從犯ハ第六十三條ニ於テ規定シタリ

第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正

犯トス

○本條ハ共犯中ノ正犯ニ關スル規定ニシテ即チ二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタルモノヲ皆正犯トス舊刑法ニ於テハ二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科スト規定シ現ニナル文字ヲ以テ實行正犯ノ意義ヲ明カニシタレトモ其意義多少狹キニ失スル嫌ナキニアラサルカ故ニ本條ニ於テハ之ヲ修正シテ共同シテナル文字ヲ用ヒタリ又舊法ハ各自ニ其刑ヲ科スト規定スレトモ既ニ法律ニ於テ各正犯ト規定シタル上ハ各自正犯トシテ其刑ヲ科セラル、コトハ明文ヲ要セザルヲ以テ本條ハ皆正犯トスト規定スルニ止メ各自ニ其刑ヲ科スノ一句ヲ削除シタリ

○正犯ハ學說上之ヲ左ノ二種ニ區別スルコトヲ得ヘシ

- 一 直接正犯 直接正犯トハ犯罪行爲ノ全部ヲ單獨ニテ實行スルヲ謂フ例ヘハ強盜罪ニ於テ強制ト奪取ヲ一人ニテ實行シ強姦罪ニ於

ヲ強制ト姦淫ヲ一人ニテ實行シタルトキノ如キ然リ

二 間接正犯 間接正犯トハ責任能力又ハ責任條件ヲ缺ク者ヲ利用シテ犯罪行為ヲ爲サシメタル場合ヲ云フモノニシテ例ヘハ刑事未成年者ニ短銃ヲ與ヘ人ヲ銃殺セシメタルトキノ如キ又ハ他人ヲ強制シテ放火罪ヲ犯サシメタルトキノ如キ然リ

三 共同正犯 共同正犯トハ數人共同シテ犯罪行為ヲ爲シタル場合ヲ云フモノニシテ本條ノ規定スルモノ即チ之ナリ

然レトモ右ニ述ヘタル直接正犯及ヒ間接正犯ハ法律上單獨犯ニシテ共同正犯ニアラス法律上共同正犯ニ屬スル正犯ハ共同正犯(又ハ實行正犯)ノ一アルノミ

○正犯トハ二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタルモノヲ謂フ故ニ正犯タルニハ左ノ條件ヲ要ス

一 二人以上ナルコト 責任能力ヲ有スル者二人以上ナルコトヲ要

ス無能力者ト共ニ罪ヲ犯スモ單獨犯ニシテ共同正犯ニアラス

二 共同シタルコト 故ニ正犯タルニハ共同ノ犯意アルコトヲ要ス共同ノ犯意ナクンハ共同シタリト云フ能ハス共同ノ犯意トハ所謂共同ノ認識ニシテ即チ各行爲者ニ於テ自己ノ意思實行ト他ノ行爲者ノ意思實行ト相待テ共同ノ結果ヲ惹起スルコトヲ豫見シタルコトヲ云フ從テ共同ノ犯意タルニハ第一犯罪事實ノ認識アリ第二協力シテ罪ヲ犯スノ認識アルコトヲ要ス故ニ例ヘハ甲ハ乙カ如何ナル罪ヲ犯サントシテ人ノ邸宅ニ侵入スルヤヲ知ラサルニモ拘ラス乙ト共ニ侵入シタルトキ又ハ甲一人ニテ丙ヲ殺サントシ乙モ亦一人ニテ丙ヲ殺サント欲シ偶然時ヲ同ウシテ殺害行為ヲ爲シタルトキノ如キハ共犯ニアラス此ノ如ク二人共ニ罪ヲ犯スモ行爲者カ自己ノ行爲及ヒ他人ノ行爲間ニ共同實行ノ關係アル事實ヲ觀念セサルトキ即チ法律上其共同實行ノ關係ヲ認め難キモノハ學說ニ之ヲ副正犯ト名ケ共同正犯ト區別ス然レトモ正犯ノ條

件タル共同ノ認識ハ敢テ犯罪ノ實行以前ヨリ存在スルコトヲ要セス故ニ甲カ強姦罪ノ實行中乙偶然來會シテ其仲間ニ加ハリ共同シテ之ヲ犯シタルトキハ單獨犯ニアラスシテ共同正犯ナリ

三 犯罪ヲ實行シタルコト 故ニ假令共同ノ犯意アルモ罪ノ實行行爲ニ至ラサルモノハ共同正犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス實行シタルトハ各本條ニ列擧ノ犯罪行爲ノ要素即チ犯罪ノ特別構成條件ノ一又ハ二以上ニ加擔シタルコトヲ云フ然レトモ犯罪ノ實行ニハ着手行爲ヲ含ムヲ以テ共犯タルニハ犯罪ノ實行ニ着手スレハ足ル敢テ實行行爲ヲ終了シタルコトヲ要セス又犯罪ノ特別構成條件中ノ何レニ加擔シタルト其加擔ノ分量トハ之ヲ問フコトナシ例ヘハ強姦罪ノ場合ニ於テ婦女ヲ姦淫シタル者ト強制シタル者トハ均シク正犯ナリ從テ女子モ亦男子ト共ニ強姦罪ノ共同正犯タルコトヲ得ヘシ又殺人罪ノ場合ニ於テ甲ノ發射シタル銃丸カ致命傷ヲ與ヘ乙ノ發射シタル銃丸ハ只輕傷ヲ與ヘタルニ止

マルカ若クハ全く命中セザルトキト雖モ共同正犯タルヲ妨ケス以上ノ條件ヲ具備シタル者ヲ正犯トス而シテ正犯ハ他人ノ犯罪行爲ニ從トシテ加擔スルニアラス共同シテ一ノ犯罪ヲ遂行スルモノナレハ各自獨立シテ其結果ニ對シ全責任ヲ負擔セサルヘカラス加効ノ分量ニ因リテ責任ヲ分チ若クハ一刑ヲ分割シテ各其一部ヲ負擔スルカ如キハ固ヨリ法ノ許サ、ル所ナリ然レトモ爰ニ注意スヘキハ共同正犯(甲)ハ共同犯意ノ限界ヲ超過シタル他ノ共同正犯(乙)ノ動作ニ付テモ尙ホ其責任ヲ負フモノト誤解スヘカラス例ヘハ甲乙共同シテ丙ヲ毆打スルニ當リ甲獨リ共同ノ暴行ヲ利用シ丙ノ懷中ヨリ紙入ヲ奪取シタルトキノ如キ甲獨リ強盜罪タルヘク乙ハ強盜罪ノ共犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス何トナレハ毆打罪ニ付テハ犯意ノ共通アルカ故ニ甲乙共ニ毆打罪ノ正犯タルモ乙ハ強盜罪ノ犯意ヲ有セザルヲ以テナリ然レトモ少シク例ヲ異ニシ甲ノ毆打ノ結果丙ヲ死ニ致シタルトキノ如キハ共同犯意ノ範圍ヲ

脱セサルヲ以テ乙モ亦其致死ノ責ニ任セサルヘカラサルハ言フ俟タス

第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正

犯ニ準ス

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

○本條ハ犯罪ノ教唆ニ關スル規定ニシテ第一項ハ所謂共同正犯ヲ教唆シタル場合ノ規定ナリ舊刑法ニ於テハ教唆者ヲ正犯ト爲スト規定シタルモ本條ニ於テハ正犯ニ準スト改メタリ是教唆者ハ共同正犯ニ非サルモ其責任ニ於テハ正犯ト同一ナルコトヲ明カニシタルモノナリ

準正犯又ハ教唆犯トハ人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ヲ謂フ故ニ教唆者トシテ正犯ト均シキ刑ヲ科スルニハ左ノ條件ヲ要ス

一 人ヲ教唆シタルコト 教唆トハ故意ニ他人ヲシテ罪ヲ犯スノ決意ヲ生セシムル行爲即チ他人ノ犯罪決意ニ原因ヲ與フヘキ行爲ヲ謂フ

故ニ此條件ハ分テ二ト爲スコトヲ得ヘシ

(イ) 教唆ノ故意アルコト 教唆ノ故意トハ教唆行爲ヲ爲スノ意思及ヒ被教唆者ヲシテ特定ノ犯罪行爲ヲ爲サシムルコトノ認識ヲ云フ故ニ過失ニ因リ教唆スルコト即チ過失教唆犯ナシ又戰場ニ往來シタル日ヲ回顧スレハ人ヲ殺スホト愉快ナルコトナシト語ルカ如ク人ヲシテ罪ヲ犯サシメントスル故意ナキ場合ハ假令殺人ノ結果ヲ生スルモ偶然他人ノ故意ニ原因ヲ與ヘタルニ過キサルヲ以テ教唆犯成立セス又假令教唆ノ意思アルモ教唆者ノ認識シタル犯罪ト被教唆者ノ決意シタル犯罪ト一致セサルトキハ教唆犯成立セス

(ロ) 教唆ノ行爲アルコト 教唆ノ故意アルモ教唆行爲ナクハ教唆犯成立セサルコト犯意アルモ犯罪行爲ナクハ犯罪ノ成立セサルト異ナルコトナシ或ハ教唆ニ因ル共犯ノ場合ニ於テ犯意ハ教唆者之ヲ負擔シ行爲ハ被教唆者之ヲ負擔スト云フ者アルモ認レリ犯意ノミアリテ行

爲ナク若クハ行爲ノミアリテ犯意ナキモノハ原則トシテ犯罪ノ成立ヲ阻却ス從テ共犯アルノ理ナシ然レトモ教唆者ノ教唆行爲即チ教唆ノ手段ニ付テハ法律ニ制限ナシ故ニ贈與契約言語舉動其他人ヲ教唆スルニ足レハ足ル但強迫威權等ヲ以テスル場合ニ於テハ被教唆者ノ自由行動ヲ阻却スル程度ニ達セサルコトヲ要スルハ言ヲ俟タス

右イロノ條件ヲ具備シタルトキハ本條ニ所謂人ヲ教唆シタル者トス而シテ教唆ハ一人ニテ之ヲ爲スコトアリ數人ニテ之ヲ爲スコトアリ數人ニテ之ヲ爲ス場合ニ共同ノ作用ニ出ルコトアリ互ニ獨立シタル作用ニ出ルコトアリ又直接ニ之ヲ爲スコトアリ又間接ニ之ヲ爲スコトアリ被教唆者モ亦一人タルコトアリ數人タルコトアリ又特定ノ人タルコトアリ不特定ノ人タルコトアリ例ヘハ甲乙共同シテ乙ヲ教唆シ丙ヲ殺サシメタルトキノ如キハ共同教唆ニシテ甲ハ千圓ヲ贈與シ乙又獨立シテ千圓ヲ贈與スルコトヲ丙ニ約シ丁ヲ殺サンコトヲ依囑シタル場合ニ於テ

丙ハ千圓ノミヲ以テハ之ニ應セサルモ二千圓ヲ收得スルコトヲ得ルカ爲メニ之ヲ諾シ丁ヲ殺害シタルトキノ如キ其教唆ハ之ヲ副共同教唆ト云フ又甲カ乙ヲ教唆シ丙ヲ殺サシメタルトキハ直接教唆ニシテ甲カ乙ヲ教唆シ乙又丙ヲ教唆シテ丁ヲ殺サシメタルトキハ間接教唆ナリ間接教唆ハ之ヲ第二項ニ規定ス尙ホ後ニ述フヘシ又甲カ乙ヲ教唆シタルトキハ特定教唆ニシテ甲カ群集ニ對シ教唆シタルトキハ不特定教唆ナリ以上何レモ教唆ノ條件ヲ具備スルトキハ教唆犯タルヲ妨ケス

二 犯罪ヲ實行セシメタルコト 人ヲシテ犯罪ヲ實行セシムルニハ先ツ犯罪ノ實行ヲ決意セシメサルヘカラス故ニ又分テ二トス

(イ) 犯罪行爲ヲ爲スコトヲ決意セシメタルコト 教唆ハ被教唆者ニ犯罪實行ノ決意ヲ惹起セシムルコトニ依テ被教唆者即チ實行者ニ原因ヲ與フルモノナリ若シ何等原因ノ與フルモノナクハ教唆者トシテ之ヲ處罰スルノ理ナシ故ニ既ニ決意アル者ニ對シテハ教唆犯ナシ例ヘハ

甲カ乙ヲ殺サント決意シ好機會ノ來ルヲ待ツ、アル際丙アリ甲ニ乙ノ某所ヲ通行スルコトヲ告ケ之ヲ殺スヘシト教唆シタルトキノ如キ甲カ假令其場所ニ於テ乙ヲ殺害スルモ丙ハ只犯罪ノ實行ニ付キ機會ヲ與ヘタルニ止マリ殺人ノ犯意ヲ惹起セシメタルニアラサルヲ以テ教唆者トシテ之ヲ處斷スルコト能ハス

(口) 犯罪ノ實行行為ニ着手セシメタルコト 教唆犯ノ行動ハ教唆ヲ以テ終ル被教唆者ト共ニ犯罪ヲ實行スルニアラス實行者ノ行為ハ主ニシテ教唆者ノ行為ハ從ナリ教唆者ハ只他人ノ犯罪ニ附屬シテ加擔シタル者ナリ故ニ教唆者ハ自己ノ行為(人ヲ教唆シタル)ノ爲メニ罰セラル、ニアラスシテ被教唆者タル實行者ノ犯罪ノ爲メニ處罰ノ責ヲ引クモノト云ハサルヘカラス從テ被教唆者カ少クトモ犯罪行為ノ實行ニ着手シタルニアラスンハ(備豫ヲ罰スヘキトキハ豫備行為ヲ爲シタルトキ)教唆者ハ處罰セラル、コトナシ即チ教唆ニ基ク第一ノ結果發生シテ被

教唆者カ犯意ヲ惹起スルモ未タ第二ノ結果タル犯罪ノ實行々爲ナクンハ教唆犯成立セス又假令被教唆者カ犯罪行為ヲ實行スルモ其犯罪行為ト教唆者ノ犯意即チ教唆シタル所ト主要ナル點ニ於テ一致ヲ缺クトキハ教唆犯成立セス何トナレハ其犯罪ハ教唆ニ基クモノト云フコト能ハサレハナリ故ニ強盜罪ヲ教唆シタルニ殺人罪ヲ犯シ殺人罪ヲ教唆シタルニ強姦罪ヲ犯シタルトキノ如キハ教唆者ヲ處罰スルコト能ハス以上一二ノ條件ヲ具備シタル者ヲ教唆者トス教唆者ハ實行正犯ニ準メ處斷ス故ニ甲カ乙ヲ教唆シ丙ヲ殺サシメタルトキノ如キハ甲乙共ニ殺人罪ヲ以テ之ヲ論セサルヘカラス

○教唆ニ應シテ行ヒタル被教唆者ノ犯罪行為カ教唆シタル犯行ニ比シ輕重又ハ多寡ノ差異アルコトアリ此場合ハ學說ニ所謂被教唆者ノ過剩犯行ト稱スルモノニシテ被教唆者カ若シ教唆者ノ教唆シタル罪ヨリ數量ニ於テ多數ナル罪ヲ犯シタルトキ又ハ性質ニ於テ重キ罪ヲ犯シタル

トキハ教唆者ハ其教唆シタル罪ノ分量又ハ性質ニ於テノミ教唆者タルヘシ例ヘハ強盜罪ヲ犯スヘキコトヲ教唆シタルニ強盜罪ヲ犯シ併セテ強姦罪ヲ犯シタルトキノ如キ教唆者ハ只強盜罪ノ正犯ニ準シテ處罰セラルヘク強姦罪ニ付テハ責任ナシ又竊盜罪ヲ犯スヘキコトヲ教唆シタルニ強盜罪ヲ犯シタルトキノ如キ教唆者ハ只竊盜罪ノ準正犯トシテ處斷セラルヘク重キ強盜ヲ以テ論スルコト能ハス蓋シ教唆者ハ其犯意アル範圍内ニ於テノミ責任ヲ負フヘク超過ノ部分ニ對シテハ犯意ナキヲ以テナリ又被教唆者若シ數量ニ於テ少數ノ罪ヲ犯シタルトキ又ハ性質ニ於テ輕キ罪ヲ犯シタルトキハ教唆者カ爲シタル多數ノ罪又ハ重キ罪ニ對スル教唆ハ當然少數ノ罪又ハ輕キ罪ニ對スル教唆ヲ包含スヘキヲ以テ教唆者ハ被教唆者カ現ニ行ヒタル罪ノ分量又ハ性質ニ於テノミ教唆者タルヘシ例ヘハ甲ヲ毆打シ乙ヲ傷ケ丙ヲ殺スヘシト教唆シタルニ被教唆者カ乙ヲ傷ケタルノミナルトキハ教唆者モ亦傷害罪ノミニ依テ

處斷セラルヘク又強盜罪ヲ犯スヘシト教唆シタルニ被教唆者竊盜罪ヲ犯シタルトキハ教唆者モ亦竊盜罪ニ依リテ處斷セラルヘシ教唆アルモ犯行ナクンハ犯行ナキ部分ニ付テハ教唆犯成立スヘキモノニアラサレハナリ然レトモ前ニモ一言シタルカ如ク數量ノ多寡若クハ輕重ノ如何ニ關セス教唆者ノ犯意ト主要ナル點ニ於テ一致セサルトキ例ヘハ強盜罪ヲ犯スヘシト教唆シタルニ殺人罪ヲ犯シタルトキノ如キハ教唆者ニ強盜罪ノ犯意アルモ被教唆者ニ此犯意ニ應スル犯行ナク又被教唆者ニ殺人罪ノ犯行アルモ教唆者ニ之ニ應スル犯意ナキヲ以テ教唆者ハ被教唆者ノ犯行ニ付キ何等ノ責任ヲ有セサルモノトス然ラハ目的物ノ錯誤又ハ行爲ノ不奏功ノ場合ニ於テハ如何曰ク此場合ニ於テハ一般ノ元則ニ從ヒ或ハ罪アリトシ或ハ罪ナシトセサルヘカラス其詳細ハ未遂罪ノ下ニ於テ解説シタルカ故ニ再述セス

舊刑法ニ於テハ以上ノ法理ヲ明カニセンカ爲メ事ヲ指定シテ犯罪ヲ教

唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示シタル所ト殊ナル時ハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處斷ス、一所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止タ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス二所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科スト規定シタルモ其用語極メテ不當ナルノミナラス此ノ如キハ教唆ノ本質上當然ノ事項ニ屬シ別ニ明文ヲ以テ規定スルノ必要ナキカ故ニ本法ハ之ヲ削除シタリ

○教唆未遂ノ場合ニ於ケル責任如何曰ク犯罪ノ實行トハ既ニ述ヘタルカ如ク必スシモ其犯罪ヲ遂ケタル場合ノミヲ云フニアラサルカ故ニ被教唆者カ犯罪ノ實行ニ着手シ未タ遂ケサルカ爲メ未遂罪トシテ處斷セラル、場合ニ於テハ教唆者モ亦未遂罪ノ共犯トシテ處罰セラル、コト言フ俟タスト雖モ教唆者自身カ未タ遂ケサルトキ即チ教唆未遂ハ之ヲ處罰スルコト能ハサルモノトス何トナレハ教唆未遂ノ場合ニ於テハ被

教唆者ノ犯行ハ存在セサルヲ以テ人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ト云フ能ハス從テ條件缺欠ノ爲メ教唆ハ成立セサルヲ以テナリ然レトモ教唆ヲ獨立ノ一罪トシテハ之ヲ罰スルコトアリ自殺教唆ノ未遂ノ如キ然リ但シ本條ノ所謂教唆トハ其性質ヲ異ニスルヲ以テ混スヘカラス

○本條第二項ハ所謂間接教唆ニ關スル規定ニシテ即チ教唆者ヲ教唆シタル者モ亦正犯ニ準シテ處斷スヘキモノトス舊刑法ニ於テハ此規定ナキ爲メ實際上往々不良ノ徒ヲシテ其刑ヲ免レシメタルコトナキニアラス本法ハ此理由ニ因リ教唆者ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者モ亦實行正犯ヲ教唆シタルモノトシ準正犯ト爲スコトヲ規定シタルナリ
教唆者ヲ教唆シタル者トハ故意アル教唆者ヲ介シテ間接ニ正犯ヲ教唆スルコトヲ謂フ例ヘハ甲カ乙ニ殺人罪ヲ犯スヘキコトヲ教唆シタルニ乙自ラ之ヲ行フコトヲ欲セス更ニ丙ヲ教唆シテ之ヲ實行セシメタルト

キノ如キ又ハ甲カ乙ニ丙ヲ教唆シテ殺人罪ヲ犯スヘキコトヲ教唆シ乙之ニ應シテ第二ノ教唆者トナリ丙ヲ教唆シテ殺人罪ヲ犯サシメタルトキノ如キ然リ而シテ第一ノ教唆ノ成立ニハ第二ノ教唆カ曩ニ述ヘタル條件ヲ具備シ教唆犯ノ既ニ成立シタルコトヲ要スルハ言ヲ俟タス

第六十二條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス、 從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス

○本條ハ從犯ニ關スル規定ニシテ第一項ニ依レハ從犯トハ正犯ヲ幫助シタル者ヲ謂フ故ニ從犯タルニハ左ノ條件ヲ要ス
一 正犯アルコト 從犯ハ他人ノ犯罪ニ附屬シタル加擔ナルカ故ニ幫助ヲ受クル者即チ正犯ノ行為カ犯罪行為タルニアラスンハ從犯ナシ然レトモ正犯ノ犯行カ既遂タルト未遂タルトハ之ヲ問フコトヲ要セス只正犯ノ行為カ犯罪タレハ足ル又其正犯ハ直接正犯タルト共同正犯タ

ルトヲ問フコトナシ然ラハ教唆者モ亦本條正犯ノ語中ニ包含スルヤ否曰ク反對説ナキニアラサルモ余ハ包含セスト信ス其理由ハ第一前條ニ教唆者ハ正犯ニ準ストアリ故ニ教唆ハ準正犯ニシテ單ニ正犯トハ云フヘカラス第二正犯ハ犯罪ノ實行者ニシテ教唆ハ他人ノ犯罪行為ニ加擔シタルモノナルヲ以テ兩者ハ理論上ヨリスルモ之ヲ區別セサルヘカラス故ニ教唆ハ共犯ノ一種ナルモ正犯ノ一種ニアラス從テ本條正犯ノ語中ニ教唆者ヲ包含セスト解スルヲ至當トス

二 之ヲ幫助シタルコト 正犯ヲ幫助シタリト云フニハ幫助ノ故意ト幫助ノ行為アルコトヲ要ス

(イ) 幫助ノ故意アルコト 從犯ノ成立ニハ他人ノ犯罪ヲ幫助スルノ故意アルコトヲ要ス犯罪幫助ノ故意アリト云フニハ第一從犯者自己ノ行為ニ付テノ認識第二正犯ノ犯罪行為ノ認識第三正犯ノ犯罪行為カ自己ノ行為ニ依テ幫助セラル、コトノ認識ナカルヘカラス例ヘハ甲カ丙

ヲ殺サントスル乙ニ刀劍ヲ與ヘタルトキノ如キ自己ノ行爲即チ刀劍ヲ
 與フルコトノ認識正犯ノ犯罪行爲即チ乙カ殺人罪ヲ犯サントスルコト
 ノ認識及ヒ自己カ刀劍ヲ與フルニ依テ乙ノ殺人行爲ヲ容易ナラシムル
 ヲノ認識ヲ具備スルトキハ他人ノ犯罪ヲ幫助スルノ故意アルモノト云
 フコトヲ得ヘシ從テ此認識ヲ缺クトキハ故意ナキヲ以テ從犯成立セス
 偶然又ハ過失ニ因リ他人ノ犯罪ヲ容易ナラシムルモ從犯ニアラス然レ
 トモ共同正犯ノ場合ト異ナリ正犯カ從犯ノ幫助ヲ認識シタルト否トハ
 之ヲ問フノ要ナシ又必スシモ正犯者カ罪ヲ犯ス意思ノ確定シタル後ナ
 ルコトヲ要セス唯其意アルモノト察知シテ之ヲ幫助シタル場合ト雖モ
 爾後正犯者ノ犯罪遂行ノ幫助ト爲リタル以上ハ從犯タルニ妨ケナシ
 (ロ) 幫助ノ行爲アルコト 從犯タルニハ幫助ノ故意アルノミヲ以テ
 足レリトセス必ス其故意ノ外界ニ發現シタルモノ即チ行爲ナカルヘカ
 ラス舊刑法ニ於テハ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以

テ云々ト規定シタルモ本法ハ此ノ如キ例示規定ハ何等ノ實益ナシトシ
 テ之ヲ削除シタルヲ以テ苟モ幫助ノ行爲アレハ足ル其手段ノ如キハ器
 具給與等ノ如ク物理的タルト誘導指示ノ如ク精神的タルトハ之ヲ問フ
 コトナシ又犯罪實行前タルト犯罪實行中タルトヲ論セス然レトモ學說
 ニ所謂事後ノ從犯ハ之ヲ認メス彼ノ贓物ニ關スル罪ノ如キハ從犯ニア
 ラスシテ獨立罪ナリ

幫助ノ行爲トハ何ソキ犯罪ヲ容易ナラシムル行爲ニシテ犯罪組成ノ條
 件タル行爲ニアラサルコトハ何人モ爭ハサル所ナリト雖モ幫助ノ行爲
 ヲ爲シタル者ト協力シテ罪トナルヘキ事實ヲ發現セシメタル者トノ區
 別即チ從犯ト共同正犯トノ行爲ノ分界ニ至テハ學說一定セス客觀主義
 ニ依レハ動作ノ程度ヲ標準トシテ共同正犯ハ價值多キ同等ナル協力ヲ
 與ヘ從犯ハ價值少ナキ協力ヲ與ヘタルモノナリトシ主觀主義ニ依レハ
 動作ノ程度如何ヲ問ハス共ニ犯スル意思ナルカ將タ他人ノ犯罪ヲ助成

スルニ止マルノ意思ナルカニ依リテ之ヲ區別スヘシト爲ス余ハ寧ロ客
觀主義ニ從ヒ犯罪ノ完成ヲ容易ナラシムル行爲ニシテ而モ正犯カ之ヲ
行ヘハ豫備ニ屬スル行爲トシテ論セラルヘキモノト云フヲ至當ナリト
信ス

以上ノ條件ヲ具備スル者ヲ從犯トス從犯ノ正犯ニ對スル關係ハ教唆ト
正犯トノ關係ト異ナルコトナシ故ニ此點ニ付テハ前條ノ解釋ヲ參照ス
ヘシ

○第二項ハ從犯ノ教唆ニ關スル規定ニシテ即チ從犯ヲ教唆シタル者ハ
從犯ニ準シテ處斷スヘキモノトス蓋シ前條ニ於テ既ニ教唆者ノ教唆ヲ
準正犯ト爲ス旨ヲ規定シタル以上ハ從犯タルコトヲ教唆シテ幫助行爲
ヲ實行セシメタル者モ亦之ヲ準從犯ト爲スコト權衡上至當ナルヲ以テ
ナリ

第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

○本條ハ從犯ノ處分ヲ規定シタルモノニシテ即チ從犯ノ刑ハ正犯ノ刑
ニ照シテ減輕スヘキモノトス蓋シ從犯ハ正犯ト異ナリ犯罪ノ成立ヲ幫
助シタルニ止マリ其情狀ニ於テ大ニ正犯ヨリ輕キ所アリ而モ之ト同一
ノ刑ニ處スレハ重キニ失スルヲ以テナリ減輕ノ方法ハ第十三章加減例
ノ下ニ於テ解説スヘシ

第六十四條 拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及
ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セス

○本條ハ教唆者及ヒ從犯ノ處罰ニ關スル例外ヲ定メタルモノニシテ即
チ拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アル
ニアラサレハ之ヲ處罰セサルモノトス蓋シ拘留又ハ科料ノミニ處スヘ
キ罪ハ罪質輕微ナルヲ以テ實行正犯ノ外ハ一般ニ之ヲ處罰スルノ必要
ナキカ爲メナリ而シテ拘留又ハ科料ノミニ處スヘキ罪トハ例ヘハ第二

百三十一條ノ罪ノ如キヲ云ヒ第二百八條ノ罪ノ如ク一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ストアルヲ含マス

第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行為ニ加

功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ

通常ノ刑ヲ科ス

○本條ハ共犯者ノ身分關係ニ關スル規定ニシテ第一項ニ依レハ犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行為ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トシテ處斷スヘキモノトス舊刑法ニ於テハ此場合ニ關スル規定ナキ爲メ學說ニ派ニ分レ一ハ之ヲ以テ共犯ニアラスト爲セトモ本條ハ第二ノ主義ヲ採リ身分ナキ者カ身分ニ依リ構成スヘキ犯罪行為ニ

加擔スルモ共犯ハ成立スルモノトシタリ而シテ犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪トハ例ヘハ第九十三條以下ノ罪ノ如キヲ云フ第九十二條ニ曰ク公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ云々ト本條ハ即チ公務員タルノ身分ヲ有スル者ナルコトカ犯罪構成ノ一條件タルナリ又條文加功シタルトキトハ犯罪ノ決意ヲ與ヘ若クハ犯罪ヲ容易ナラシムル行為即チ教唆者若クハ從犯ノ成立スル行為ヲ云フ故ニ公務員タルノ身分ナキ者カ公務員ヲ教唆シテ第九十三條ノ罪ヲ行ハシメタルトキ又ハ其犯罪行為ノ完成ヲ幫助シタルトキハ教唆者又ハ從犯トシテ處斷セララルヘシ然ラハ共同シテ犯罪行為ヲ實行シタルトキハ如何曰ク職權ナキ者ハ職權ヲ濫用セント欲スルモ不能ナルカ故ニ共ニ之ヲ犯ス場合ナシ(本問ノ如キ法律上ノ基本ヲ缺ク場合ト事實上ノ基本ヲ缺ク場合例ヘハ婦人カ強姦罪ノ共同正犯タルコトヲ得ルトハ同一ナラス混スヘカラス)從テ條文加

功ノ語中ニ共同正犯ノ行爲ヲ含マス

○第二項ノ規定ニ依レハ身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科スヘキモノトス故ニ例ヘハ甲乙共同シテ甲ノ直系尊屬丙ヲ殺害シタルトキハ甲ハ直系尊屬ヲ殺害シタル罪ニ依リ乙ハ普通人ヲ殺害シタル罪ニ依リ處斷セラルヘク甲カ乙ヲ教唆シテ甲ノ直系尊屬丙ヲ殺害セシメタルトキ亦同シ又甲カ其父乙ヲ殺害スルニ當リ從犯丙アルトキハ丙ハ普通殺人罪ノ從犯トシテ處斷セラルヘク又心神耗弱者甲カ竊盜罪ヲ犯スニ當リ乙アリ之ヲ容易ナラシメタルトキハ乙ハ普通竊盜罪ノ刑ヲ標準トシテ減輕セラル、ニ過キス要スルニ身分カ刑罰輕重ノ原因タルトキハ正犯タルト教唆者タルト將タ從犯タルトヲ問ハス其身分アル者ニ付テノミ其刑ヲ加減スヘク身分ナキ者ニハ影響ヲ及ホスコトナシ

第十二章 酌量減輕

○減輕ニ法律上ノ減輕ト裁判上ノ減輕トノ二アリ前章ニ於テ述ヘタル從犯ノ減輕ノ如キハ法律上必ス減輕セサルヘカラサルヲ以テ前者ニ屬シ本章ニ規定シタルモノハ之ヲ爲スト否トハ裁判官ノ自由選擇ニ放任スルヲ以テ後者ニ屬ス

本法ハ舊刑法ノ刑ノ範圍狹キニ失シ實際上刑ノ權衡ヲ失スル弊アルヲ避クル爲メ刑ノ範圍ヲ濶クスルコトヲ目的ト爲シ各本條ニ於テ各罪ニ對スル刑ノ範圍ヲ廣クシ情狀ニ因リ裁判所ヲシテ自由ニ適宜ノ刑ヲ定メシムルコト、セリ故ニ舊法ニ比シ酌量減輕ノ必要大ニ減シタルモノト云フヘシ然レトモ或ル場合ニ在リテハ尙ホ刑重キニ失スト爲スヘキコトナシトセス是ヲ以テ更ニ酌量減輕制ヲ設ケ適當ノ刑ヲ科セシメンコトヲ欲シ本章ノ規定ヲ存シタルナリ

第六十六條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

○本條ハ酌量減輕ノ法則ヲ定メタルモノニシテ即チ犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得ルモノトス如何ナル場合ヲ以テ情狀憫諒スヘキモノト爲スヘキヤハ抽象的ニ決定スルコト能ハス犯罪事實自体ノミナラス此ニ前後シタル犯人ノ舉動等ヲモ斟酌シ裁判官ノ常識ニ訴ヘテ之ヲ判斷シ減輕スルト否トヲ決スヘキナリ例ヘハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ストノ規定アル場合ニ於テ酌量減輕ヲ適用シナカラ尙ホ一年ノ懲役ニ處スト宣告スルカ如キハ酌量減輕ノ制度ヲ設ケタル本旨ニ反スルヲ注意セサルヘカラス

第六十七條 法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

○本條ハ法律ノ規定ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ情狀憫諒スヘキモノアルトキハ仍ホ酌量減輕ヲ爲シ得ヘキコトヲ明カニシタルモノナリ蓋シ此規定ナクシテハ法律上刑ノ加減ヲ爲ス場合ニ於テハ更ニ酌量減輕ヲ爲スコト能ハサルヤノ疑ヲ生スヘキヲ以テナリ而シテ法律ニ依リ刑ヲ加重スヘキ場合トハ再犯ノ加重併合罪ノ加重ノ如キヲ云ヒ法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合トハ心神耗弱者ノ減輕自首減輕從犯ノ減輕ノ如キヲ云フ

第十三章 加減例

○一個又ハ數個ノ減輕原由アルトキハ如何ニ之ヲ減輕スルカ又同時ニ數個ノ加重又ハ減輕原由アルトキハ何レヲ先ニシ何レヲ後ニスヘキカ是本章ノ規定スル所ニシテ舊刑法ノ加減例及ヒ加減順序ノ二章ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

第六十八條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ
原由アルトキハ左ノ例ニ依ル

- 一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲
役若クハ禁錮トス
- 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以
上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス
- 三 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期
ノ二分ノ一ヲ減ス
- 四 罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減
ス
- 五 拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減
ス

六 科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減
ス

○本條ハ所謂法律上ノ減輕ノ場合ニ該當スルモノナリ本法ハ刑名ヲ減
少シ其範圍ヲ廣大ニシタル結果トシテ減輕ノ分量ヲ定ムル方法モ亦全
ク舊刑法ト異ナラサルヲ得ス舊刑法ハ第六十六條以下ニ於テ之カ爲メ
詳細ノ規定ヲ設ケタルモ本法ハ全ク之ヲ廢シ新ナル規定ヲ設ケタリ但
本條ニ於テハ唯法律上ノ減輕ノ場合ニ關シテノミ之ヲ規定シ法律上ノ
加重ノ場合ニ關スル規定ヲ設ケサルハ其場合タル再犯若クハ併合罪ノ
章ニ於テ既ニ之ヲ定メタルヲ以テナリ

又舊刑法ハ刑ノ種類ヲ細別シ多クノ階級ヲ設ケ加減ノ原因數個アル場
合ニ於テハ一個毎ニ之ヲ計算シテ加減スルコト、爲スト雖モ本法ハ前

ニ擧ケタル如ク刑ノ範圍極メテ大ナルヲ以テ之ヲ減輕スル結果ハ又頗ル刑ヲ輕クスルコト、爲ル可シ是ヲ以テ縱令數個ノ減輕ノ原由アルトキト雖モ之ヲ合シテ一ト爲シ一度ヒ刑ヲ減輕スルニ止ム是レ改正ヨリ生スル必然ノ規定ニシテ舊刑法ニ比シ敢テ減輕ノ利益ヲ縮少シタルニアラス酌量減輕ハ前條ニ規定スル如ク他ノ原因ト分離シ別ニ減輕スルモノナルヲ以テ其減輕ハ第七十一條ニ之ヲ定ムト雖モ減輕ノ方法ハ全然本條ニ規定シタル減輕ニ同シ

本條第一號乃至第六號ハ實際ニ於テ適宜ノ範圍ニ減輕ヲ施ス標準ヲ示シタルモノナリ以下各號ニ付テ其大要ヲ述フヘシ

一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス 一個又ハ數個ノ法律上ノ減輕ノ原由アルトキハ死刑ハ之ヲ減等シテ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處スヘキモノトス無期ニ處スルト十年以上ニ處スルトハ裁判官ノ自由ナルモ懲役ニ處スルト禁錮ニ

處スルトハ然ラス即チ犯シタル罪ノ性質ニ依リテ之ヲ定ムヘキナリ例ヘハ第七十七條ノ罪ヲ犯シタル者(内亂罪ノ首魁)ナルトキハ減輕ノ結果禁錮ニ處スヘク懲役ニ處スルコトヲ得ス又第八十一條乃至第八十三條ノ罪ヲ犯シタル者ナルトキハ減輕ノ結果懲役ニ處スヘク禁錮ニ處スルコトヲ得ス第二號以下又同一理ナリ

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス 前號ニ十年以上トアリ本號ニ七年以上トアリ故ニ何レモ第十二條及ヒ第十三條ニ定メタル長期即チ十五年マテバ之ヲ上スコトヲ得ヘシ從テ死刑ヲ減輕シテ十年ノ懲役若クハ禁錮トシ無期ノ懲役ヲ減輕シテ十五年ノ懲役若クハ禁錮トスルモ妨クル所ナシ

或ハ曰ク數個ノ原由アルトキハ既ニ減輕シタル刑ヨリ更ニ之ヲ減輕スヘシ例ヘハ死刑ニ處スヘキ者心神耗弱者ナルトキハ之ヲ減輕シテ無期ノ懲役若クハ禁錮トシ尙ホ自首減輕ノ原由アルトキハ更ニ減シテ七年

以上ノ有期ノ懲役若クハ禁錮トシ尙ホ減輕スヘキ原由アルトキハ更ニ其刑期ノ二分ノ一ヲ減スヘキカ如シト然レトモ此說認レリ前ニモ述ヘタルカ如ク本法ハ舊刑法ト反シ其原由ノ個數ニ應シテ減輕スルニ非ス法律上ノ減輕ノ原由數個アルモ之ヲ合シテ一トシ一度ヒ減輕スルニ止マル只酌量減輕ハ他ノ原因ト分離シ別ニ減輕スヘキノミ故ニ如何ニ法律上ノ原由多クトモ酌量減輕ヲ加ヘテ二回ノ上ニ出ルコトナキモノトス

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス 例ヘハ一年以上十年以下ノ懲役ナルトキハ六月以上五年以下ノ懲役トナルヘク又單ニ三年以上ノ懲役ニ處ストアル場合ニ於テハ懲役ノ最長期ハ(特別ノ場合ヲ除ク外)十五年ナルヲ以テ二年六月以上七年六月以下ノ懲役トナルヘク又單ニ一年以下ノ懲役ニ處ストアル場合ニ於テハ懲役ノ最短期ハ一月以上ナルヲ以テ半月以上六月以下ノ懲役トナ

ルヘキヲ以テ各其範圍内ニ於テ處罰スヘキカ如シ

四 罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス 例ヘハ千圓以下ノ罰金ニ處スヘキ場合ニ於テハ十圓以上五百以下ノ範圍ニ於テ其金額ヲ定ムヘキカ如シ

五 拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス 例ヘハ第二百三十一條ノ罪ヲ犯シ拘留ニ處スヘキモノナルトキハ一日以上十五日未滿ノ範圍内ニ於テ處スヘキカ如シ長期ノミヲ減シテ短期ヲ減セサルハ短期ハ一日ニシテ一日ニ滿タサル時間ノ執行ハ本法ノ認メサル所ナルヲ以テナリ

六 科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス 例ヘハ第二百三十一條ノ罪ニ依リ科料ニ處スヘキトキハ十錢以上十圓未滿ノ範圍内ニ於テ科スヘキカ如シ

第六十九條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本

條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

○本法ハ刑ノ範圍ヲ廣クシ其裁量ハ之ヲ裁判所ノ自由ニ任シタル場合多キヲ以テ各本條ニ於テ二個以上ノ刑名ヲ設ケ裁判所ヲシテ其一ヲ擇ハシムルモノ少ナカラス本條ハ此場合ニ於ケル法律上ノ減輕ヲ施ス方ヲ規定シタルモノニシテ即チ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕スヘキモノトス故ニ例ヘハ第二百八條ノ如ク一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ストノ規定アルトキハ先ツ適用スヘキ刑即チ懲役ニ處スヘキ科料金ニ處スヘキカ拘留ニ處スヘキカ將タ科料ニ處スヘキカヲ定メ然ル後其定メタル刑ヲ減輕スヘキナリ

第七十條 懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ

滿タサル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄ス

罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ

○法律上減輕ノ方法ハ第六十八條ニ規定シタリ同條ニ依レハ刑期金額ノ二分ノ一ヲ減スル場合アルヲ以テ或場合ニ於テハ減輕ノ結果一日未滿ノ時間又ハ一錢未滿ノ金額ヲ剩スコトナキニアラス此場合ニ於テハ此剩時間又ハ剩金額ノ刑ヲ科スルハ實際上便宜ナラサルノミナラス何等ノ必要ヲ見サルヲ以テ之ヲ除棄スルヲ妥當ナリトス是本條ノ規定アル所以ナリ

第七十一條 酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第六十八條及前條ノ例ニ依ル

○本條ハ酌量減輕ノ程度ヲ定メタルモノナリ酌量減輕ノ制度ハ第六十

七條ニ於テ規定シタルカ如ク法律上ノ減輕ニ拘ラス更ニ酌量シテ減輕
スルモノニシテ法律上減輕シタル刑ノ範圍カ尙ホ犯罪ニ比シ重キニ失
スル場合ニ適用スル趣旨ナリ故ニ法律上ノ減輕ナク酌量減輕ノミナル
トキハ其本刑ヨリ又法律上ノ減輕アルトキハ其減輕ヲ爲シタル刑ヨリ
第六十八條ノ例ニ從ヒテ更ニ其減輕ヲ爲スヘク又減輕ノ結果一日ニ滿
タサル時間又ハ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキハ前條ノ例ニ依リ之ヲ
除棄スヘキモノトス

酌量減輕ヲ爲スヘキ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ如
何ニスヘキカ本條ハ第六十九條ノ例ニ依ルヘキコトヲ定メサルヲ以テ
此場合ニ於テハ第六十九條ヲ適用スルコト能ハス先ツ適用スヘキ刑ヲ
定メ其刑ヲ減輕スルモ適用スルコト得ル凡テノ刑ニ付キ減輕ヲ爲シタ
ル後適用スヘキ刑ヲ定ムルモ結果ニ於テハ異ナル所ナシト雖モ實際上
便不便ノ差アルヲ免レス故ニ酌量減輕ノ場合ニ於テモ第六十九條ノ例

ニ依ラシムルヲ至當トス但シ他ニ法律上ノ減輕アル場合ニ於テハ法律
上ノ減輕ヲ爲シタル後其減シタル刑ヨリ更ニ酌量減輕ヲ爲スヘキヲ以
テ本問ノ如キ疑義ヲ生スルコトナシ

第七十二條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序

ニ依ル

- 一 再犯加重
- 二 法律上ノ減輕
- 三 併合罪ノ加重
- 四 酌量減輕

○本條ハ同時ニ刑ヲ加重減輕スヘキ場合ニ於ケル順序ヲ定メタルモノ
ナリ而シテ此順序ヲ定ムルニ付キ再犯加重ヲ先ニシタルハ若シ犯罪中

再犯ノモノアレハ其刑期ハ本刑ノ二倍以下トナルヲ以テ之ヲ第一ニ置ク必要アレハナリ次ニ法律上ノ減輕ヲ置キタルハ此減輕ハ亦各場合ニ於テ各犯罪ニ付キ減輕スヘク併合罪ヲ第三ト爲シタルハ前二ツノ加減ニ依リ各罪ニ付キ一旦刑ヲ定メ然ル後併合罪ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムル必要アルニ因ル最後ニ酌量減輕ヲ置キタルハ此減輕ハ其裁判所ノ任意ニ出ルモノニシテ法律ノ規定ニ因ル加重減輕ニ先タツヘキ性質ノモノニアラサレハナリ故ニ例ヘハ前ニ懲役ニ處セラレタル心神耗弱者カ其執行ヲ終リテヨリ五年内ニ贓物ヲ收受シタル罪ノ從犯トナリ尙ホ獨立シテ強盜ノ豫備罪ヲ犯シ而シテ酌量減輕ノ原由アルトキノ如キ先ツ再犯ナルヲ以テ贓物收受シタル罪ニ付テハ六年以下強盜豫備罪ニ付テハ四年以下ノ懲役トシ次ニ贓物ヲ收受シタル罪ニ付テハ從犯ナルヲ以テ減シテ三年以下トシ(從犯ハ法律上減輕ノ原由タルト同シタ心神耗弱者タルコトモ亦減輕ノ原因ナリ然レトモ合シテ一度ヒ減輕スル外二個

ノ法律上減輕ノ原由アルコトヲ理由トシテ二度ヒスルコトヲ得ス)次ニ贓物收受罪ト強盜豫備罪ハ何レモ未タ確定裁判ヲ經サルヲ以テ併合罪ノ規定ニ依リ重キ四年ニ二年ヲ加ヘテ六年以下トシ次ニ酌量減輕ヲ適用シ二分ノ一ヲ減シテ三年以下トシ結局一月以上三年以下ノ範圍内ニ於テ處罰スヘキナリ

第二編 罪

○前編ニ於テ述ヘタルカ如ク罪ノ成立ニハ第一ニ罪ト刑トヲ規定シタル法律ノ明文アルコトヲ要シ次ニ其法律ニ違反スル行爲アルコトヲ要シ次ニ其行爲ハ責任能力ヲ有スル者ノ故意又ハ過失ニ出タルコトヲ要シ又其行爲ハ不法行爲タルコトヲ要ス而シテ此等ノ條件ハ總テノ犯罪ニ具備スヘキ必要條件ニシテ若シ其一ヲ缺クハ犯罪成立セサルヲ以テ之ヲ犯罪ノ普通構成條件ト云フ此條件ヲ具備シタル上各種ノ犯罪ノ成立スルニハ更ニ特種ノ條件ヲ必要トス例ヘハ竊盜罪ニハ他人ノ財物ナルコト之ヲ竊取スルコトノ條件ヲ必要トシ殺人罪ニハ殺人ノ條件ヲ必要トスルカ如シ此等特種ノ條件ヲ犯罪ノ特別構成條件ト云フ本編ハ即チ各種ノ犯罪ノ特別構成條件ト之ニ對スル刑罰トヲ規定シタルモノナリ

○舊刑法ハ第二編ニ於テ公益ニ關スル重罪輕罪ヲ規定シ第三編ニ於テ身

體財産ニ關スル重罪輕罪ヲ規定セリ然レトモ此區別ハ刑法編纂上何等ノ實益ナキノミナラス却テ疑義ヲ醸生スルノ虞アルヲ以テ本法ハ此種ノ區別ヲ廢棄シタリ又舊刑法ハ第四編ニ違警罪ヲ規定シタルモ之レ多クハ地方ノ情況若クハ時急ニ應ジ規定スヘキモノナルヲ以テ本法ハ刑法ニ規定スルコトヲ要スルモノハ拘留又ハ科料ニ處スヘキ罪トシテ之ヲ本編ニ收容シ他ノ罪ト共ニ其種類ニ從テ各章ニ參配シ其他ハ悉ク特別ノ立法ニ讓ルコト、シタリ

舊刑法ノ罪目中他ノ法令ノ罰則ト相映ツテ行ハルヘキモノ少ナカラス此等ノ罪目ヲ刑法ニ規定スルハ實際上極メテ不便ナルノミナラス往々他ノ法令ノ罰則ト牴觸シ或ハ重複シテ解釋上ノ困難ヲ生スルコト敢テ少ナシトセス是ヲ以テ本法ハ他ノ法令ト相渉ルヘキモノハ成ル可ク之ヲ特別法ニ讓ル目的ヲ以テ刑法ノ罪目ヲ減少シタリ又舊刑法ハ重罪及ヒ輕罪ノ區別ヲ爲シ數多ノ刑名ヲ設ケ特ニ刑ノ範圍ヲ極メテ狹隘ニシタルヲ以テ裁

判所ハ其適用ヲ爲スニ當リ自由ニ判断ヲ爲ス餘地狹隘ナリトス故ニ情狀
輕キ罪ニ過重ノ刑ヲ科シ其重キモノニモ過輕ノ刑ヲ科スルノ止ムコトヲ
得サルニ至リ此點ニ於テ多大ノ害弊ヲ生シタリ本法ハ此害弊ヲ矯メ各罪
ニ付キ成ル可ク刑ノ範圍ヲ廣メ罪ノ情狀ハ一ニ之ヲ裁判所ノ認定ニ任シ
以テ力メテ罪刑ノ權衡ヲ保タシメント期セリ是ヲ以テ或ハ刑ノ最低
量ヲ定ムルコトヲ止メ或ハ擇一刑ヲ規定シ裁判所ヲシテ成ル可ク刑ノ適
用ノ宜シキヲ得セシムルコト、爲セリ

右ノ外新設削除又ハ變更ヲ加ヘタル重ナル點ヲ舉レハ第一舊刑法ニハ國
交ニ關スル罪ノ規定ヲ缺ク爲メ本法ハ本編第四章ニ之ニ關スル規定ヲ新
設シタリ第二舊刑法第二編第三章ハ靜謐ヲ害スル罪ト題シ數種ノ犯罪ヲ
包含セシムト雖モ本編ニ於テハ之ヲ第五章公務ノ執行ヲ妨害スル罪第六
章逃走ノ罪第七章犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪第八章騷擾ノ罪第九章放火
及ヒ失火ノ罪第十章溢水及ヒ水利ニ關スル罪第十一章往來ヲ妨害スル罪

第十二章住居ヲ侵スル罪第十三章秘密ヲ侵スル罪ノ九章ニ分テタリ第三本法
ニ舊法第二編第三章第四節附加刑ノ執行ヲ適カル、罪ニ相當スル罪目ヲ
設ケサリシハ剝奪公權及ヒ監視ノ制度ヲ廢止シタルカ爲メナリ第四舊刑
法ノ靜謐ヲ害スル罪ノ中第五節私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有ス
ル罪第九節公務ヲ行フヲ拒ム罪ハ共ニ皆他ノ法令ニ讓ルノ目的ヲ以テ之
ヲ刪除シタリ第五舊法第二編第四章中第七節度量衡ヲ偽造スル罪第八節
身分ヲ詐稱スル罪及ヒ第九節公選ノ投票ヲ偽造スル罪ハ共ニ皆他ノ法令
ニ讓ルノ目的ヲ以テ之ヲ刪除シタリ第六舊法第二編第五章中第三節傳染
病豫防規則ニ關スル罪第四節危害品及ヒ健康ヲ害スヘキ物品製造ノ規則
ニ關スル罪第五節健康ヲ害スヘキ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪第六節私
ニ醫業ヲ爲ス罪ハ亦前ト同一ノ理由ニ依リ之ヲ刪除シ其餘ハ本編第十四
章阿片煙ニ關スル罪及ヒ第十五章飲料水ニ關スル罪ノ下ニ規定シタリ第
七舊法第二編第六章ハ之ヲ擴張シ第三編第一章第十一節ノ規定ハ之ヲ本

編第二十二章猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪トシ又舊法第二編第七章死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪ハ本編第二十四章禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪トシタリ第八舊法第二編第八章商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪ハ或ハ其必要ナシトシ或ハ他ノ法令ニ讓ル目的ヲ以テ本編第三十五章信用及ヒ業務ニ對スル罪ノ下ニ於テ規定シタルモノ、外ハ之ヲ刪除シタリ第九舊法第二編第九章ハ之ヲ擴張シ公務員ニ關スル規定ト爲シ其第三節官吏財産ニ對スル罪ハ一般ノ財産ニ對スル罪ト共ニ規定シテ之ヲ刪除シ其餘ハ之ヲ本編第二十五章濫職ノ罪中ニ規定シタリ第十舊法第三編第一章中第三節殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪ハ前編總則ニ於テ其規定ヲ設ケタルヲ以テ之ヲ刪除シ其第一節第二節第四節第五節第八節及ヒ第九節ノ罪ハ之ヲ本編第二十六章乃至第三十章ニ於テ又第六節第七節及ヒ第十節ノ罪ハ之ヲ本編第三十一章乃至第三十三章ニ於テ規定シ第十二節中誣告罪ハ之ヲ本編第二十一章ニ規定シ誹毀罪ニ付テハ本編第三十四章ニ其規程ヲ設ケ第

十三節ハ尊屬親ニ對シ加重ヲ必要トスル場合ハ之ヲ各本條ニ規定スルヲ以テ刪除スルコト、爲シタリ第十一舊法第三編第二章中第一節第二節ノ罪ハ共ニ同質ノ罪ナルヲ以テ之ヲ併合シ竊盜及ヒ強盜ノ罪トシテ本編第三十六章ニ規定シ第四節ハ之ヲ他ノ法令ニ讓リ第五節ハ詐欺及ヒ恐喝ノ罪トシテ第三十七章ニ規定シ第五節中受寄財物ニ關スル罪及ヒ第三節ノ罪ハ之ヲ横領ノ罪トシテ第三十八章ニ第六節ノ罪ハ之ヲ三十九章ニ第十節ノ罪ハ之ヲ第四十章ニ規定シタリ又第七節第八節及ヒ第九節ハ前ニ舉クル如ク本編第九章乃至第十一章ニ規定シタリ其他外患ニ關スル罪ヲ舊法ニ於テ政事犯トシ定役ナキ刑ヲ科シタルモ本法ニ於テハ定役アル刑ヲ科シタルカ如キ舊法ハ金銀貨ヲ偽造シタル者ト銅貨ヲ偽造シタル者ト其刑ヲ異ニシタルモ本法ハ此區別ヲ廢止シタルカ如キ又賄賂者ヲ罰スル規定ヲ新設シタルカ如キ其差異甚タ多クシテ一々其異同ヲ此所ニ述フルノ暇マナシ諸子宜シク各本條ニ就テ比較研究スヘシ

第一章 皇室ニ對スル罪

○本章凡テ四條皇室ニ對スル危害罪及ヒ不敬罪ヲ規定シタルモノナリ單ニ皇室ニ對スル罪ト云ヘハ其語極メテ汎博ナルヲ以テ天皇以下皇族ノ御身体ハ勿論皇室ノ財産ニ對スル罪ヲモ尙ホ包含スヘキカ如シ然レトモ財産ニ對スル侵害行為ハ之ヲ含マス而モ汎博ナル語ヲ以テ本章ニ冠シタルハ立法者ノ苦心ノ存スル所ナルヘシ

第七十三條

天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇

太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

○本條及ヒ第七十五條ハ所謂皇室ニ對スル危害罪ヲ規定シタルモノニシテ本條ノ罪ノ構成條件ハ左ノ如シ

一 犯罪ノ客体ハ天皇太皇太后皇太后皇后皇太子又ハ皇太孫ナルコト
ト 天皇トハ皇室典範ノ規定ニ基キ皇位ヲ繼承シ憲法ノ規定ニ依リ大日本帝國ヲ統治シ賜フ御方ヲ奉稱ス故ニ外國ノ君主若クハ大統領ヲ包含セサルコト勿論ナリ太皇太后トハ先々帝ノ皇后タリシ御方ヲ奉稱ス故ニ天皇ノ御祖母君ハ必スシテ太皇太后タリト云フコト能ハス又皇太后トハ先帝ノ皇后タリシ御方ヲ奉稱ス故ニ天皇ノ御母君ハ必スシモ皇太后タリト云フコト能ハス又皇后トハ皇室典範ノ規定ニ基キ天皇ノ配偶者タル地位ニ立タセラレタル御方ヲ奉稱ス又皇太子トハ皇室典範ノ規定ニ依リ儲嗣タル地位ニ立タセラレタル御方ヲ奉稱ス又皇太孫トハ皇室典範ノ規定ニ依リ儲嗣タル地位ニ立タセラレタル皇孫ヲ奉稱ス舊刑法ニ三后トアルヲ太皇太后皇太后皇后ト改メ又皇太孫ヲ加ヘタルハ皇室典範ノ規定ニ準據シタルモノナリ

二 犯罪ノ内容ハ危害ヲ加ヘ又ハ危害ヲ加ヘントシタルヲ要ス

危害ノ語中ニハ生命身体自由及ヒ貞操ニ對スル侵害ヲ含ムモ名譽及ヒ財産ニ對スル侵害ヲ包含セス又危害ヲ加ヘタル者トハ既ニ犯意ヲ遂ケタルモノヲ云ヒ危害ヲ加ヘントシタル者トハ意思ハ危害ヲ加フルニ在ルモ所爲ノ未タ之ニ及ハサルモノ即チ豫備ヨリ未タ既遂ニ達セサルマテノ所爲ヲ云フ未タ舉動ニ現ハレサルモノ即チ意思ノミニテハ本條ノ罪ヲ構成セス又假令危害ノ結果アルモ犯意ナクンハ成立セス

以上二個ノ條件ヲ具備シタルモノハ既遂ト未遂トヲ問ハス死刑ニ處ス而シテ中止犯及ヒ從犯ト雖モ減輕セラレ、コトナシ何トナレハ豫備陰謀等ノ所爲ヨリ既遂ニ至ルマテ等シク死刑ヲ科スヘキモノナルヲ以テナリ

第七十四條

天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇

太孫ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ三月以上五年以下

ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者亦同シ

○本條及ヒ第七十六條ハ皇室ニ對スル不敬罪ヲ規定シタルモノニシテ本條ノ罪ノ構成條件ハ左ノ如シ

一 犯罪ノ客体ハ天皇太皇太后皇后皇太子皇太孫又ハ神宮若クハ皇陵タルコト 神宮トハ天照太神ヲ奉祀スル所即チ伊勢ノ大廟ヲ云ヒ皇陵トハ御歴代ノ天皇ノ御墳墓ヲ總稱ス

二 犯罪ノ内容ハ不敬ノ行爲タルコト 不敬ノ行爲トハ皇室ニ對スル尊敬ヲ汚瀆シ又ハ汚瀆スルノ恐レアル性質ノ所爲ヲ總稱ス而シテ法文何等ノ制限ナキヲ以テ言語文章形容等ノ何レヲ以テスルモ亦其行爲ノ積極的タルト消極的タルトヲ問ハス苟クモ不敬ノ行爲アレハ足ル又常人ニ對シテ誹毀侮辱等ノ程度ニ至ラサル行爲ト雖モ皇室ニ對スル不

敬罪成立シ得ヘシ但何レノ場合ニ於テモ故意アルコトヲ要ス偶マ過テ不敬ノ結果ヲ生スルコトアルモ本罪ヲ構成セス又未遂ヲ罰スル明文ナキヲ以テ本條ノ罪ニハ未遂罪ナシ
右ノ條件ヲ具備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス舊法ニ於テハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加シタルモ本法ハ罪ノ性質上單ニ懲役ノミヲ科スルヲ以テ足レリトシ罰金ヲ併科セス

第七十五條 皇族ニ對シテ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス

○本條ハ皇族ニ對スル危害罪ヲ規定シタルモノニシテ其成立條件ハ左ノ如シ

一 犯罪ノ客体ハ皇族ナルコト 皇室典範第三十條ニ曰ク皇族ト稱フルハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃

内親王王王妃女王ヲ謂フト然レトモ第七十三條ノ規定アルカ爲メ本條ニ所謂皇族トハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太孫ヲ除キタル以外ノ御方ヲ總稱スルモノト解セサルヘカラス

二 犯罪ノ内容ハ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタルコト

右ノ條件ヲ具備シタルトキ本條ノ罪成立スヘク而シテ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス

第七十六條 皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス

○本條ハ皇族ニ對スル不敬罪ヲ定メタルモノニシテ其構成條件ハ第一皇族ニ對スルコト第二不敬ノ行爲アリタルコトノ二トス不敬ノ行爲ノ何タルヤハ第七十四條ノ下ニ於テ述ヘタルカ故ニ再說セス

第二章 内亂ニ關スル罪

○内亂罪トハ國土ノ横領又ハ憲法ノ變更ヲ目的トシ暴動ヲ爲スノ罪ニシテ學說ニ所謂國事犯ト稱スルモノ是ナリ舊刑法ニ於テハ第二編第二章ヲ國事ニ關スル罪ト爲シ更ニ之ヲ内亂罪及ヒ外患罪ノ二ニ區別シタルモ此二罪ハ其性質同一ナラスシテ國事ニ關スルモノハ主トシテ内亂罪ノミナルカ故ニ本法ハ此二種ノ罪ヲ分チテ全ク別章ト爲シ内亂罪ヲ以テ國事ニ關スルモノナルコトヲ明カニシタリ

舊刑法ハ第二百二十三條ニ於テ政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ擧ルニ至ラスト雖モ内亂ト同シク論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處スト規定シタルモ新法ハ其必要ナシトシテ之ヲ刪除シタリ蓋シ施政上樞要ノ職ニ在ル人ヲ斃シテ政府ヲ變亂セントスルカ如キハ朝憲案亂ノ一種ニシテ殺人行爲ハ亦暴動ノ一種ナルカ故ニ當然第七十七條中ニ包含スヘキヲ以テナリ又舊法第二百二十八條ニ於テ内亂ニ乘シテ人ノ身体財産ニ對シ内亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照

シ重キニ從テ處斷スト規定シタルモ是亦必要ナキヲ以テ刪除シタリ蓋シ此ノ如キ場合ニ於テハ併合罪ノ規定ニ從ヒ處斷スルヲ以テ十分ナルカ故ナリ

第七十七條

政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ

紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ

罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス
- 二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス
- 三 附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年

以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

○本條ハ即チ内亂罪ヲ規定シタルモノニシテ其構成條件ニアリ左ノ如シ

一 朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシタルコト 此條件ハ細別シテ又ニト爲スコトヲ得ヘシ

(イ) 朝憲ヲ紊亂スルコト 朝憲ヲ紊亂スルトハ統治權ノ主体及ヒ統治權活動ノ大本ニ關スル憲法上ノ制度即チ國家ノ基礎的存在要件ヲ紊亂スルヲ云フ政府顛覆邦土僭竊ノ如キハ其一例ニ過キス故ニ此他統治權ノ主体タル皇位繼承ノ順位ヲ變更スルカ如キ天皇ノ大權ヲ變更スルカ如キ或ハ議會ノ組織權限ヲ變更スルカ如キハ皆朝憲ヲ紊亂スルモノ

ト云フヘキナリ然レトモ憲法ノ規定ヲ變更セントスルモノハ悉ク朝憲紊亂ナリト解ズヘカラス例ヘハ居住移轉ノ自由住所ノ安全信書ノ秘密所有權ノ安全信教ノ自由言論著作印行集會結社ノ自由ノ如キハ皆憲法ノ保障スル所ナリト雖モ此レ等ハ國家ノ基礎的存在要件ニアラサルヲ以テ此種ノ利益ニ對スル攻撃ハ朝憲紊亂ノ行爲ト云フ能ハス

本條ニ於テ例示シタル政府ノ顛覆トハ暴力ヲ以テ内閣ヲ更迭シ或ハ之ヲ廢滅ニ歸セシムルカ如キ又ハ帝國ヲ變シテ共和國ト爲スカ如キヲ云ヒ邦土ノ僭竊トハ領土ノ全部又ハ一部ヲ押領シ統治權ノ作用ヲ排斥スルヲ云フ

(ロ) 之ヲ目的トスルコト 故ニ其犯罪ノ遠因即チ犯意ノ理由カ朝憲ノ紊亂ヲ目的トスルコトヲ要ス此目的ナクンハ假令舉兵ノ行爲アルモ内亂罪成立セス

二 暴動ヲ爲シタルコト 暴動トハ多衆共同シテ暴行脅迫ヲ爲スヲ云フ舊刑法ニ内亂ヲ起シ云々トアルヲ改メ暴動ヲ爲シタル者ハ云々ト爲シタルハ内亂ナル語ハ往々國內ニ於ケル現實ノ戰爭ヲ意味スルヤノ疑義アレハナリ而シテ之ヲ避ケテ暴動ト爲シタルハ未タ戰爭ニ至ラサル狀況ニ在ルトキト雖モ既ニ暴動ヲ爲ストキハ本條ノ罪タルコトヲ規定シタルモノニシテ從テ舊刑法第二百二十四條ノ前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ストノ規定ノ如キ又第二百二十二條内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船舶金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ已ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シトノ規定ノ如キハ全ク無用ニ屬シタルモノナリ

暴動タルニハ多衆共同スルコトヲ要スルモ其人員ノ如キハ固ヨリ法律ヲ以テ之ヲ一定スルコト能ハス裁判官ニ於テ實際ノ事情ヲ斟酌シ之ヲ決スヘキナリ又如何ナル狀況ニ達シタルトキヲ以テ暴動ヲ起シタルモノナリ

ノ即チ本罪ノ既遂ト爲スヘキヤモ亦裁判官ノ判斷ニ任セサルヘカラス然レトモ朝憲紊亂ノ目的ヲ以テ暴動ヲ起セハ之ト同時ニ本罪ノ既遂タリ既ニ其目的ヲ達シタルト否トハ固ヨリ問フ所ニアラス

本條ノ罪ハ以上二個ノ條件ヲ具備スルニ依リテ成立ス然レトモ其刑罰ハ暴動ニ加効シタル者ノ地位如何ニ依リテ同シカラス即チ左ノ區別ニ從テ處斷スヘキモノトス

一 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス 首魁トハ暴動ヲ起シタル全團體ノ首領ニシテ其全體ヲ指揮統御スル指導者ヲ云フ自ラ企テタルト否トヲ問ハス又現ニ自ラ手下ノ放火殺人等ノ暴行ヲ爲スト否トヲ問ハス暴動ヲ起シタル者全體ヲ指揮統率スルノ任ニ當レハ足ル從テ必スシモ一人タルコトヲ要セス數人共同シテ指揮統率ノ任ニ當ルトキハ皆之ヲ首魁トシテ處斷セサルヘカラス而シテ首魁ハ其情最モ重キヲ以テ死刑又ハ無期禁錮トス懲役ニ處セスシテ禁錮ヲ科スル所以如何曰ク凡テ本

章ニ規定スル罪ハ國家ノ生存ヲ危クスルモノニシテ危險ノ程度極メテ重大ナリト雖モ其犯人タルヤ敢テ自己ノ私益ノ爲メニ之ヲ企ツルニ非スシテ多クハ公衆ノ利益ヲ目的トシテ之ヲ行ハントスルモノナリ此故ニ此等ノ犯人ニ對シ通常ノ犯人ニ科ス可キ懲役ノ刑ヲ科スルハ罪ノ性質ト刑ノ種類ト相應セスシテ殆ト科刑ノ趣旨ニ反スル嫌アルヲ以テ舊刑法ト等シク定役ナキ刑ヲ科スルコト、爲シタルナリ又死刑ヲ科スルハ國家ノ秩序維持上止ムヲ得サルカ爲メニシテ衆議院ニ於テハ一度ヒ國事犯ノ死刑廢止ヲ可決シタルモ兩院協議會ニ於テ貴族院ノ反對ノ爲メ讓歩シタル結果舊刑法ト等シク死刑ヲ存置スルコト、ナシタルナリ舊刑法ニ於テ首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處スト規定シタルヲ改メ死刑又ハ無期禁錮ニ處スト規定シ裁判官ヲシテ選擇スルコトヲ得セシメタルハ犯狀ニ應シ過不及ナカラシメンカ爲メナリ又教唆者ヲ除外シタルハ總則ノ規定ニ依リ首魁ノ教唆者其他第二號以下ノ教唆者ヲ罰シ得ヘキ

ヲ以テ特ニ内亂自体ノ教唆者ヲ罰スル必要ナキカ爲メナリ

二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス 謀議ニ參與シタル者トハ暴動ヲ計畫シ其方法手段ヲ講スル等所謂參謀ノ職ニ任シタル者ヲ云ヒ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者トハ一方ノ隊長ト爲リ一部ノ團體ヲ指揮命令シタル者ヲ云フ故ニ謀議ニ參與シタル者ハ着手以前ト雖モ存スルコトヲ得ヘク群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ着手以後ニアラスンハ存スルコトヲ得ス又其他諸般ノ職務ニ從事シタル者トハ例ヘハ醫務會計兵站運輸等ノ如キ要職ニ從事シタル者ニシテ即チ謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲ス等樞要ノ職ニ在ル者ト次號ノ者トノ中間ニ屬スル者ヲ云フ

三 附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以上ノ禁錮ニ處ス 附和隨行シタル者トハ朝憲紊亂ヲ目的トスル暴動ナルコトハ之ヲ

知ルモ特ニ一定ノ目的アルニ非ス唯犯人ノ使喚ニ煽動セラレテ之ニ隨行シタル兵卒ノ如キヲ云ヒ單ニ暴動ニ干與シタル者トハ同シク一定ノ主義目的ナク只指揮者ノ下ニ於テ雜役ニ服スル軍夫雇員ノ如キヲ云フ此等ハ其罪情最モ輕キ者ナルヲ以テ一月以上三年以下ノ範圍内ニ於テ禁錮ニ處スヘキモノトス

○本條第一項暴動ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ云々トセスノ特ニ内亂ノ罪ト爲シノ一句ヲ挿入シ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ云々トシタルハ立法上ノ便宜ノ爲メニシテ即チ次條ニモ内亂ノ豫備又ハ陰謀トアルカ故ニ内亂トハ如何ナルモノヲ指スカヲ本條ニ於テ示サンカ爲メニ殊更ニ此一句ヲ書キ加ヘタルモノナリ

○本條第二項ノ規定ニ依レハ前項第三號ニ記載シタル者ノ外前項ノ未遂罪ハ之ヲ處罰スヘキモノトス蓋シ未タ暴動ヲ爲スニ至ラストモ此種ノ罪ハ其危險甚シキヲ以テナリ

第七十八條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

○本條ハ前條ノ罪ノ豫備犯ヲ處罰スヘキコトヲ規定シタルモノニシテ犯罪ノ豫備行爲ハ普通之ヲ罰セストノ原則ニ對スル例外ヲ爲スモノナリ而シテ内亂ノ豫備トハ朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トスル暴動ノ豫備行爲ニシテ金穀ノ準備兵器ノ購入海陸ノ測量進軍沿道ノ經營等總テ内亂ニ着手スル以前ノ所爲ヲ云フ舊刑法ハ第二百二十五條ニ於テ兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ云々ト規定シ豫備ノ方法ヲ例示シタルモ新法ハ其必要ナシトシテ删除シタリ又陰謀トハ未タ豫備ニモ至ラサル行爲ニシテ即チ二人以上内亂罪ヲ犯スコトヲ決シ謀議計畫スル外形ノ動作ヲ云フ此等ノ者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處スヘキモノトス

第七十九條

兵器、

金穀ヲ

資給シ

又ハ其他ノ

行爲ヲ

以テ

前二條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

○本條ハ舊刑法第二百一十一條第三號ノ一部及ヒ第二百二十七條ヲ合シ概括的ニ一般ノ内亂ノ幫助ノ場合ヲ罰スル旨ヲ定メタルモノニシテ即チ第一兵器金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲（兵器金穀ノ資給ト殆ント同程度ノ行爲ヲ云フ内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與スルカ如キ然リ）アルコト第二故意ヲ以テ前二條ノ罪（内亂罪及ヒ豫備罪）ヲ幫助シタルコトノ二條件ヲ具備シタルトキハ七年以下ノ禁錮ニ處スヘキモノトス

本條ハ獨立ノ一罪ナルカ故ニ本條ノ罪ノ從犯アリ得ヘキカ如シ然レトモ本條ハ直接ニ兵器金穀等ヲ資給スルト他人ノ手ヲ經テ間接ニ資給スルトヲ問ハサルヲ以テ例ヘハ甲アリ乙カ内亂罪又ハ豫備罪ノ犯人ニ兵

器金穀等ヲ資給シテ之ヲ幫助セントスルコトヲ知リ乙ニ兵器金穀等ヲ支給シ其幫助ヲ容易ナラシメタルトキノ如キハ甲乙共ニ本條ノ實行正犯トシテ處斷セラルヘク從テ本條ノ罪ニハ從犯アルコトヲ得サルモノトス

第八十條

前二條ノ

罪ヲ

犯スト

雖モ未タ

暴動ニ

至ラサル

前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

○本條ハ内亂ノ豫備及ヒ幫助犯ノ自首ニ關スル規定ニシテ即チ内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ暴動行爲ニ着手前官ニ自首シタルトキ又ハ内亂ノ罪ヲ犯サントスルコトヲ知テ兵器金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ犯人ヲ幫助シタル者カ未タ暴動ノ起ラサル以前ニ官ニ自首シタルトキハ其刑ヲ免除スルモノトス蓋シ自首ノ效果ヲ大ニシ以テ實害ノ未タ生セサル間ニ之ヲ防止セントスル刑事政策上ノ理由ニ出テタルモ

第三章 外患ニ關スル罪

○外患ニ關スル罪ハ一國ノ對外的安固及ヒ軍備ニ對スル攻撃ニシテ内亂罪ト異ナリ犯人カ外國ニ與ミシ本國ニ抗敵シ若クハ不利ヲ加フルヲ以テ其特徴トス舊刑法ニ於テハ内亂罪ト等シク之ヲ國事犯ニ列シ刑罰モ亦定役ナキ流刑禁獄等ヲ科シタルモ新法ハ全ク之ヲ分離シテ非國事犯トシ刑罰モ亦定役アル懲役ヲ科スルコト、シタリ蓋シ社會公衆ノ利益ヲ増進セシカ爲メニ自己ノ身体生命ヲ犠牲ニ供シテ朝憲紊亂ヲ企ツル如キ愛國ノ至情多少恕スヘキモノナキニアラスト雖モ帝國臣民ノ本分ヲ忘レテ忠實ノ義務ニ違反シ或ハ外國ト通シテ本國ニ不利ヲ加ヘ或ハ敵國ニ與シテ本國ニ抗敵スルカ如キ神人共ニ容レサル大逆無道ノ罪ニ至テハ毫モ恕スヘキ所ナキカ故ニ常事犯ノ刑ヲ科スルハ却テ其罪狀ニ相應スルモノト云フ

ヘキナリ

然レトモ本章ハ主トシテ戰時ニ於ケル帝國ノ軍事上ノ利益ヲ保護スルコトヲ目的トスルモノナルカ故ニ犯罪ノ主体ハ必スシモ日本臣民タル身分ヲ有スル者ニ限ルニアラス帝國内ニ在住スル外國人ハ勿論外國ニ在ル外國人ト雖モ帝國ノ對外的存在ヲ侵害シ本章ニ觸ル、者アルトキハ外患罪トシテ之ヲ處斷セサルヘカラス是レ本法第二條ノ規定スル所ナリ

第八十一條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ

又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

○本條ハ舊刑法第二百二十九條ヲ修正シ之ニ第三百三十條ノ前段ノ罪ノ一部ヲ加ヘタルモノニシテ其同盟國ニ關スル規定ヲ除キタルハ第八十九條ニ於テ之ヲ規定シタルカ爲メナリ

本條ノ罪ハ之ヲ左ノ二種ニ區別スルコトヲ得ヘシ

第一 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメタル罪 此罪ノ成立條件ハ左ノ如シ

一 外國ニ通謀シタルコト 外國トハ日本ノ版圖以外ニ於テ別ニ一定ノ領土及ヒ人民ヲ有シ國際法上國家トシテ其存在ヲ認メラルヘキモノヲ云フ故ニ假令人類ノ團體タリトモ宣戰媾和ノ權力ヲ有セサル者例ヘハ宗教團體ノ如キ又ハ何レノ國籍ヲモ有セサル者ヨリ成ル軍隊ノ如キハ之ト通謀スルモ外國ニ通謀シタル者ト云フ能ハス又通謀トハ共同ノ意思ヲ以テ氣脈ヲ通スルヲ云フ而シテ外國ニ通謀シタルト云フニハ外國主權者又ハ主權者ヲ代表スル者ト通謀シタル場合ナラサルヘカラス主權者ヲ代表セサル外國ノ個人ト通謀スルモ外國ト通謀シタル者ト云フ能ハス但シ外國ノ臣民ト通謀スルハ外國ノ主權者ト通謀スルノ手段ナルトキノ如キ未タ主權者ト通謀スルニ至ラストモ豫備犯ヲ以テ論スヘキハ言ヲ俟タス

二 帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメタルコト 戰端ヲ開クトハ戰爭行爲ヲ開始スルヲ云フ故ニ戰爭行爲ニ着手スレハ足ル敢テ干戈ヲ交ヘタルコトヲ要セス又宣戰ノ布告アルコトヲ要セス然レトモ其戰端ハ帝國ニ對シテ開始シタル場合ナラサルヘカラス外國ニ通謀シ戰時同盟國以外ノ他國ニ對シ戰端ヲ開カシムルモ本條ノ關スル所ニアラス帝國ニ對セスシテ帝國臣民ノ或一部ニ對シ暴行々爲ヲ爲ス場合ノ如キ亦然リ

第二 敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル罪 此罪ノ成立ニモ亦二個ノ條件ヲ要ス

一 敵國ニ與シタルコト 敵國トハ帝國ニ對シ平和關係ヲ絶テ戰爭行爲ヲ開始シタル外國ヲ云フ故ニ戰爭行爲ナキ平時ニ在テハ敵國ナシ與シタルトハ加擔シテ利害關係ヲ一ニスルヲ云フ外國軍隊ト盟約シテ共同連合スルカ如キ然リ然レトモ敢テ自己ノ身體ヲ外國軍ニ投スルコトヲ要セス又敵國カ自己ニ與スルコトヲ承諾シタルト否トヲ問フコト

ナシ

二 帝國ニ抗敵シタルコト 帝國トハ日本帝國ヲ云フ舊刑法ニ於テハ外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ云々ト規定シタルカ爲メ本國人即チ日本臣民タル身分アル者ニ限り本罪ノ實行正犯タルコトヲ得ヘク外國人ハ教唆者又ハ從犯トシテ之ヲ處罰スルニ過キサリシモ新法ハ之ヲ改メテ帝國ニ抗敵シタル者云々トシタルカ故ニ内國人タルト外國人タルトヲ問ハス正犯者タルコトヲ得ヘシ次ニ抗敵シタルトハ敵對行爲ヲ爲スヲ云フ必スシモ武器ヲ執テ我軍ヲ攻撃スルコトヲ要セス又積極的行爲タルト消極的行爲タルトヲ問フコトナシ舊刑法ニ所謂本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者及ヒ交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメタル者ノ如キ皆敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ト云フコトヲ得ヘシ以上二個ノ犯罪ニ付テハ何レモ其犯人ヲ死刑ニ處スヘキモノトス

第八十二條 要塞陣營軍隊艦船其他軍用ニ供スル場所又

ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス
 兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者
 ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

○本條ハ軍用ニ供スル場所又ハ物等ヲ敵國ニ交付スル罪ヲ定メタルモノニシテ其目的物ノ比較的重要ナルト否トニ因リ之ヲ二種ニ區別シ其刑ヲ異ニシタリ

第一項ニ定メタル罪ノ成立要素ハ左ノ如シ

一 軍隊艦船軍用ニ供スル場所又ハ建造物ナルコト 軍隊トハ師團旅團聯隊等ノ如ク法規ニ依リ組成シタル軍ノ一團ヲ云ヒ艦船トハ軍艦及ヒ船舶ヲ云フ又軍用ニ供スル場所トハ軍事上ニ使用スル土地ノ一部(河川港灣等ヲ含ム)ヲ云ヒ建造物トハ軍事上ニ使用スル兵器庫砲兵工廠造船所等ノ如キ工作物ヲ云フ條文ノ所謂要塞(敵軍ノ追撃ヲ防禦ス

ル爲メ山河等ノ險阻ナル所ニ築キタル砦ノ如キ陣營（戰地ニ在テ軍隊ノ屯宿スル營舎ノ如キ）ハ要塞及ヒ陣營ノ在ル場所ハ即チ軍用ニ供スル場所ニシテ其工作物ハ即チ軍用ニ供スル建造物ナルヲ以テ一ノ例示ト見ルコトヲ得ヘシ然レトモ艦船ハ建造物ノ語中ニ包含セス（第三百三十條參看）又軍隊ハ土地物件ニアラス故ニ此二者ハ軍用ニ供スル場所又ハ建造物ノ例示ト見ル能ハス

二 敵國ニ交付スルコト 敵國即チ敵對行爲ヲ開始シタル外國ナルコトヲ要ス交戰國ニアラサル外國ニ交付スルモ本條ノ罪ナシ又交付トハ故意ヲ以テ之ヲ引渡スヲ云フ艦船ノ所持ヲ移スカ如キ然リ然レトモ敗軍ノ結果要塞陣營等ヲ拋棄シ敵ノ占領ニ放任スルカ如キハ交付ニアラス又軍隊ノ交付トハ陸軍刑法第五十三條ニ軍人敵ヲ利スル爲メ部下ノ兵隊ヲ敵ニ付スル者云々トアルカ如ク戰鬪方ヲ有スル軍隊ヲ敵ニ引渡シ其支配ノ下ニ立タシムルヲ云フモノニシテ或者ノ解スルカ如ク軍

隊ノ營舎ヲ交付スルヲ云フニアラス

右ノ條件ヲ具備シタル者ハ本條第一項ノ規定ニ依リ死刑ニ處ス

○第二項ニ規定シタル罪ノ成立條件ハ左ノ如シ

一 兵器彈藥其他軍用ニ供スル物ナルコト 兵器彈藥ハ軍用ニ供スル物ノ一例ナリ故ニ兵糧軍服其他凡テノ軍需品ヲ包含ス

二 敵國ニ交付シタルコト

右ノ二條件ヲ具備スル者ハ第二項ノ規定ニ依リ死刑又ハ無期懲役ニ處ス必スシモ死刑ニ處セザルハ前項ト異ナリ其目的物カ比較的重要ナラサルヲ以テナリ

本條ノ罪ノ成立ニ付テハ犯人ノ目的ハ其要件ニアラス故ニ自己ノ利ヲ圖ル爲メナルト帝國ニ不利ヲ與フル爲メナルトヲ問フコトナシ又其犯人ハ內國人ナルト外國人ナルトヲ問ハサルモ帝國ノ軍人軍屬ナルトキ及ヒ常人ト雖モ敵前軍中臨戰地合圍地ニ於テ之ヲ犯ストキハ特別法タ

ル陸軍刑法又ハ海軍刑法ニ依テ處斷セラレヘシ次條以下亦然リ

第八十三條

敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

○本條ハ陸軍刑法第五十八條及ヒ海軍刑法第六十一條ノ規定ヲ基礎トシテ設ケタルモノナリ蓋シ舊刑法ハ此規定ヲ缺クモ本條ニ列擧シタル物ヲ毀壞シ又ハ之ヲ使用不能タラシムル如キハ實際上頻繁ニ生スヘキ罪ナルヲ以テ刑法ニ之ヲ規定スル必要アルカ爲メナリ
本條ノ罪ノ成立要素ハ左ノ如シ

一 敵國ヲ利スル爲メナルヲ 故ニ敵國ニ利益ヲ與フルノ目的ナク
ンハ本罪ヲ構成セス而シテ敵國ヲ利セントスルノ原因ニ至テハ或ハ賄

賂ヲ受ケテ自ラ利セントスルカ爲メナルコトアルヘク或ハ要塞陣營等ヲ守ル人ノ名譽ヲ毀損シ私怨ヲ晴サントスル爲メナルコトアルヘキモ法律ハ之ヲ問ハス只帝國ニ損害ヲ與ヘテ敵國ヲ利セントスル爲メナルハ足ル然レトモ單ニ敵國ヲ利セントシタルニ止マラス更ニ進ンテ敵國ニ與シタル場合ナルトキハ第八十一條ノ犯罪ヲ構成スヘク從テ本條ノ犯罪タルコトナシ

二 軍用ニ供スル場所又ハ物ナルコト 犯罪ノ目的物ハ軍用ニ供スル場所又ハ軍用ニ供スル物ナルコトヲ要ス故ニ未タ軍用ニ供セサルカ或ハ嘗テ軍用ニ供シタルコトアルモ當時之ヲ廢棄シテ軍用ニ供セサル物ノ如キハ本條ノ罪ノ目的物タル能ハス軍用ニ供スル場所又ハ物トハ例ヘハ要塞陣營艦船兵器彈藥汽車電車鐵道電線ノ如キヲ云フ其他戰鬥ノ用ニ供スヘキ道路橋樑森林艦船屯營造船所糧餉ノ如キ亦然リ

三 之ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタルコト

犯罪ノ内容ハ右ノ場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタルコトヲ要ス損壞トハ放火其他ノ方法ニ依リ物質的損害ヲ與フルヲ云フ使用不能ニ歸シタルト否トヲ問ハス又使用スルコト能ハサルニ至ラシメタルトハ物質上ノ損害ヲ與ヘスシテ軍用ニ供スルコト能ハサルニ至ラシメタルヲ云フ

右ノ條件ヲ具備シタル者ハ本條ノ罪トシ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十四條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接

ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

○本條ノ罪ハ帝國ノ軍用ニ供セサル兵器彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ナルコト敵國ニ交付シタルコトノ二條件ニ依リテ成立ス前條ニ比シ其刑輕キハ情狀稍輕キヲ以テナリ

帝國ノ軍用ニ供セサル兵器彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物トハ如何ナル物ヲ云フカ余ハ軍事ニ疎ク且目下有馬ノ客舎ニ在リテ坐右參考書ニ乏キ爲メ適切ナル例ヲ示スコト能ハス故ニ假ニ之ヲ云ハンニ例ヘハ村田銃ニアラサル小銃下瀨火藥ニアラサル火藥ハ一切我帝國ノ軍用ニ供セストセハ村田銃以外ノ小銃下瀨火藥以外ノ火藥ハ即チ帝國ノ軍用ニ供セサル物ニシテ而モ直接ニ戰鬪ノ用ニ供スヘキ物ト云フヘキナリ維新前ニ使用シタル舊式ノ武器ノ如キ亦然リ而シテ之ヲ敵國ニ交付スルヲ禁スルハ敵國ノ戰鬪力ヲ増加スルヲ以テナリ但シ本條ノ罪ノ成立ニハ之ヲ交付スルヲ以テ足ル敵國カ之ヲ使用シタルヤ否ヤヲ問ハス又帝國ノ軍用ニ供スル物ヲ交付シタルトキハ第八十二條ニ依リテ處斷スヘク本條ノ關スル所ニアラス

第八十五條 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ

幫助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

○本條第一項ハ所謂間諜罪ヲ規定シタルモノニシテ其前段ノ場合ノ成立條件ハ左ノ如シ

一 敵國ノ爲メニスルコト 故ニ交戰中即チ敵對行爲開始後ニアラスンハ本罪成立セス又敵國ノ爲メニスルコトヲ要スルヲ以テ敵國及ヒ其戰時同盟國以外ノ外國ノ爲メニスル者ハ本罪成立セス然レトモ敵國ノ軍隊ニ在ル個人若クハ敵國ノ新聞社等ノ爲メニスル者ハ其情狀ニ依リ敵國ノ爲メニスタルモノト云フコトヲ得ヘシ

二 間諜ヲ爲シタルコト 間諜トハ公然戰鬥員ニ加ハルニアラスンテ敵情ヲ探知スルノ任ニ當ル者ヲ謂フ故ニ公然爲戰者ノ一人タル斥候

兵ノ如キハ間諜ニアラス然レトモ敵國ニ通報スルノ意思ヲ以テ各種ノ情報ヲ收集シ若クハ收集ニ着手スルヲ以テ足ル敢テ敵國ニ通知シタルコトヲ必要トセス又我作戰地帯内ニ於ケル情報探知ノ任務ニ服セハ足ル必スシモ我帝國内ニ入込ミタルコトヲ要セス

第一項後段敵國ノ間諜ヲ幫助スル罪ノ成立條件ハ左ノ如シ

一 敵國ノ間諜ナルコト 敵國ノ間諜トハ敵國ノ爲メニスル間諜ヲ謂フ敵國人ノ間諜ヲ云フニアラス故ニ帝國人ニシテ敵國ノ間諜タル者ヲ幫助スルモ本罪ヲ構成スヘシ

二 之ヲ幫助シタルコト 幫助トハ間諜ヲ援助シ便宜ヲ與フル所爲ヲ云フ其容貌服装ヲ變シテ自家ニ宿泊セシムルカ如キ然リ然レトモ法律ハ其方法如何ヲ問ハサルヲ以テ敵國ノ間諜ナルコトヲ知テ之ニ便宜ヲ與フレハ本罪成立セス但シ軍人ノ行爲ニ係ルトキハ軍律ニ依テ處斷セサルヘカラス

以上ノ罪ヲ犯シタルトキハ何レモ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處スヘキモノトス

○本條第二項ハ軍事上ノ機密ヲ漏泄スル罪ヲ定メタルモノニシテ其成立條件ハ左ノ如シ

一 軍事上ノ機密ナルコト 軍事上ノ機密トハ交戦上之ヲ秘密ニ付スルノ必要アルモノヲ云フ兵器ノ種類精粗兵員ノ多寡軍隊ノ進退増減戰闘ノ場所時日作戰方略ノ如キ然リ軍事上ノ機密ナルコトヲ要スルヲ以テ軍事ニ關係ナキ政治上ノ機密ヲ漏泄スルモ本罪ヲ構成セス又軍事上ノ事項ト雖モ例ヘハ單ニ日本帝國ニハ兵隊アリ兵器アリ軍艦アリト云フカ如キ機密ニ屬セサル事項ハ之ヲ漏泄スルモ本罪ヲ構成セス又軍事上ノ機密ト雖モ機密ニ屬スル事項ナルコトヲ知ラスシテ漏泄シタルトキノ如キ亦然リ

二 敵國ニ漏泄シタルコト 漏泄トハ權利ナクシテ之ヲ告知スルヲ

云フ其方法ハ書面口頭其他如何ナル手段ヲ採ルモ可ナリ然レトモ其告知ハ必ス敵國ニ爲スノ意思ヲ以テシタル場合ナラサルヘカラス但シ直接ニ之ヲ爲スト間接ニ爲ストヲ問ハス又敵國ノ既ニ探知シタル事項ナルト否トヲ問フノ要ナシ

右ノ條件ヲ具備シタルトキハ前項ノ場合ト同シク死刑又ハ無期懲役若クハ五年以上十五年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス

第八十六條 前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國

ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

○本條ハ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル場合ノ規定ニシテ假ニ前數條ニ於テ種々ノ場合ヲ想像シタリトスルモ尙ホ或ハ不備ノ點ナキヲ必スヘカラス且本章ノ罪ハ事体容易ナラサ

ルモノナルヲ以テ本條ニ於テ廣キ規定ヲ設ケ他ノ條文ニ缺ケタル場合ヲ網羅シタルモノナリ從テ其刑ニ至リテモ亦廣ク二年以上十五年以下ノ範圍ヲ有スル有期懲役ト爲シ裁判所ヲシテ事情ニ應シ適宜ノ刑ヲ科スルコトヲ得セシメント期シタルナリ

第八十七條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○本條ハ前六條即チ第八十一條乃至第八十六條ニ規定シタル罪ノ未遂罪ヲ罰スル旨ヲ定メタルモノナリ蓋シ外患罪ハ内亂罪ト同シク事態甚タ重大ナルヲ以テ未遂ト雖モ之ヲ不問ニ附スル能ハサレハナリ

第八十八條 第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

○本條ハ第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ

爲シタル者ヲ罰スル旨ヲ定メタルモノニシテ其理由ハ前條ヲ設ケタル理由ト異ナルコトナシ但シ刑罰ハ前條未遂罪ノ場合ニ於テハ各本條ニ記載シタル刑罰ヲ標準トシテ或ハ本刑ヲ科シ或ハ之ヲ減輕スヘキモ本條豫備犯ノ場合ニ於テハ其刑罰ハ一年以上十年以下ノ懲役トス

第八十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

○本條ハ本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニモ亦之ヲ適用スヘキ旨ヲ定メタルモノニシテ戰時同盟國トハ條約ニ依リ我帝國ト敵ヲ同フシテ共ニ戰爭行爲ヲ爲ス外國ヲ云フ敢テ主戰國タルト從戰國タルトヲ問ハス蓋シ敵國ニ與シテ我同盟國ニ抗敵スルカ如キ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄スルカ如キ其他本章ニ規定シタル行爲ヲ我同盟國ニ對シテ之ヲ爲スハ我國ニ對シテ之ヲ爲スト其被害ノ點ニ於テ異ナル所ナキ

第四章 國交ニ關スル罪

○舊刑法ハ國交ニ關スル罪ヲ設ケサル爲メ往々不備ヲ感シタルコトアルヲ以テ新法ハ新ニ帝國ニ現在スル外國ノ君主大統領又ハ使節ニ對スル暴行脅迫又ハ侮辱ノ罪及ヒ外國ニ對スル非禮ノ罪ヲ規定シ之ニ舊刑法第三百三十三條及ヒ第三百三十四條ノ規定ヲ加ヘ以テ本章ヲ設ケタルナリ

國交ニ關スル罪ヲ設ケルニ付キ立法例ニアリ一ハ相互主義ニ外國ノ刑法ニ於テ本章ノ罪ヲ設ケタル場合ニ限り内國ニ於テモ本章ノ規定ヲ適用スルモノ一ハ單獨主義ニ外國法ニ於テ本章ノ罪ヲ設ケルト否トヲ問ハス之ヲ罪ト爲スモノニ本法ハ實ニ此第二ノ主義ヲ採リタリ蓋シ單獨主義ハ近世文明國ノ一般ニ認ムル所ナルノミナラス他國ノ國法如何ニ關セズ國ノ交際上本章ノ特例ヲ設ケルヲ可トスルヲ以テナリ

第九十條 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

○本條ハ帝國ニ滞在スル外國ノ主權者ニ對シ暴行脅迫又ハ侮辱ヲ加ヘタル罪ヲ規定シタルモノニシテ第一項ノ犯罪ノ成立條件ハ左ノ如シ

一 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ナルコト 犯罪ノ客体ハ外國ノ君主又ハ大統領ニシテ帝國ニ滞在スル者ナラサルヘカラス故ニ現ニ帝國ノ領土内ニ在ラサル君主又ハ大統領ニ對シ暴行脅迫ヲ加フル

モ本罪成立セス又帝國ノ領土内ニ在ル者ト雖モ外國ノ君主又ハ大統領ニ對スルニアラスンハ本罪ヲ構成セス而シテ外國トハ條約國ナルト否トハ之ヲ問ハサルモ國際法上國家トシテ認メラル、モノナラサルヘカラス又君主トハ君主國ノ主權者ヲ云ヒ大統領トハ共和國ノ主權者ヲ云フ主權者ナルコトヲ要スルヲ以テ攝政ハ之ヲ含マス

外國ノ君主又ハ大統領ニ限ルカ故ニ皇族ハ本罪ノ客體タルコトヲ得ス蓋シ皇族ニ付テハ相互主義ヲ採リ外國ノ我ニ對スル特例ト權衡ヲ得セシメンカ爲メ殊更ニ之ヲ本條中ニ規定セサルナリ

二 之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコト 暴行又ハ脅迫ナル語ハ本條ノ外尙ホ第九十五條第百條第百七十六條第百七十七條第二百七條第百八條等其他之ヲ使用シタル條文甚タ多ク而モ之カ定義ヲ下シタル法文ナキヲ以テ其範圍極メテ不明ナリト雖モ要スルニ暴行トハ不法ニ體力ヲ使用スルヲ云フニ外ナラス然レトモ人以外ノ物ニ對スルト

キハ燒燬破壞損壞等ノ語ヲ使用スルヲ以テ暴行ト云フトキハ必ス人ニ對スル場合ナリト解スルヲ至當トス但シ敢テ直接ニ身體ニ對シテ行ハル、コトヲ要セス物ノ上ニ体力ヲ加フルニ依リテ間接ニ強制ヲ與フルモ暴行ナリ例ヘハ戸ヲ閉シ梯子ヲ外シ乘馬ヲ倒シ馬車ヲ毀ツカ如キ然リ又必スシモ人力ニ依リテ直接ニ與ヘラル、コトヲ要セス物ノ力ヲ利用シテ之ヲ與フルコトヲ得ヘシ例ヘハ犬ヲ使喚スルカ如シ又脅迫トハ人ヲシテ害ヲ受ケントノ畏怖心ヲ抱カシムヘキ害惡ノ通知ヲ云フ換言スレハ他人ニ對シ危害ヲ加フヘキコトヲ告知シ相手方ヲシテ之ヲ信用セシムルヲ云フ而シテ脅迫者ニ於テ眞實ニ傷害行爲ヲ實行スルノ意思アルコトヲ要セス故ニ人ヲ殺サント脅迫シ若クハ放火セント脅迫シタル場合ノ如キ被脅迫者ニ於テ之ヲ信用シ畏怖ノ念ヲ起セハ足ル敢テ脅迫者ニ放火殺人ノ眞意アルヤ否ヤヲ問フノ要ナシ又其手段ハ必スシモ危害ヲ加フルニ足ル能力アルコトヲ必要トセス故ニ彈丸ヲ込メサル短

銃ヲ擬シテ人ヲ殺サント脅迫シタルトキノ如キモ亦脅迫タルニ妨ケナシ又其危害ハ直接ニ被脅迫者自身ニ對スルコトヲ要セス第三者又ハ物ニ對シテ危害ヲ加フヘキコトヲ告知シタルトキノ如キ然リ要スルニ或危害ヲ加フヘキコトヲ告示シ相手方ニ畏怖心ヲ起サシメ其自由意思ノ實行ノ全部又ハ一部ヲ妨クレハ足ル其手段方法ノ如キハ法律之ヲ制限スルコトナシ

以上ノ條件ヲ具備シタルトキ（故意即チ外國ノ君主又ハ大統領ナルコトヲ知テ暴行脅迫ヲ加ヘタルコトヲ要スルハ言ヲ俟タス）ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス之ヲ通常ノ暴行脅迫罪ニ問擬セスシテ特ニ本條ヲ設ケタルハ此等ノ貴賓ヲ敬遇スルノ趣旨ニ出テタルモノナリ

○第二項ハ侮辱ヲ加ヘタル場合ノ規定ニシテ其成立要素ハ左ノ如シ

一 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ナルコト

二 之ニ對シ侮辱ヲ加ヘタルコト 侮辱トハ他人ノ威信ヲ毀損スル行爲ヲ云フ換言スレハ他人ノ價値ヲ認メサル意思ノ表示ニ依リテ名譽ヲ毀損スルヲ意味ス罵詈訕笑又ハ惡事醜行ヲ摘發スルカ如キ然リ然レトモ其方法手段ハ法律之ヲ問ハサルヲ以テ苟モ君主又ハ大統領ノ名譽ヲ毀チ尊嚴ヲ害スル行爲アレハ本罪成立スヘク惡事醜行ヲ摘發シタル場合ノ如キ其實ノ有無ヲ問フコトナシ又常人ニ對シテ侮辱タラサル行爲モ主權者ニ對シテハ侮辱タル場合アリ得ヘシ

右ノ條件ヲ具備シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス但シ此處分ヲ爲スニハ前項ノ場合ト異ナリ外國政府ノ請求ヲ待タサルヘカラス蓋シ通常ノ誹毀罪ト同シク本罪ノ性質上親告罪ニ屬スヘキモノニシテ特ニ其國風慣習ノ異ナルヤ往々我國ニ在テ侮辱ニ相當スルモノモ彼國ニ於テハ否ラサルモノアリテ起訴不起訴ヲ當該檢事ニ一任スヘカラサルモノアレハナリ又之ヲ告訴トセスシテ請求トシタルハ告訴ハ一

定ノ法式ヲ要スルヲ以テ之ヲ外國政府ニ命スルトキハ外國政府ヲシテ手續上ノ困難ヲ感セシムル煩累アレハナリ

第九十一條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

○本條ハ我帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル罪及ヒ侮辱ヲ加ヘタル罪ヲ規定シタルモノニシテ其趣旨ハ總テ前條ト同一ナリ只其客体カ帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節タルコトヲ要スルノミ而シテ帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節トハ全權大使公

使代理公使等凡テ其國家ノ命ニ依リ職務ヲ帶ヒテ我帝國ニ派遣セラレタル使節ヲ云フ故ニ公使等ノ身分ヲ有スル者ト雖モ職務ヲ帶ヒテ來ルニ在ラサルトキハ本條ノ客体タルコトヲ得ス

第九十二條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞、除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

○本條ハ外國ヲ侮辱スル罪ヲ定メタルモノニシテ其成立條件ハ左ノ如シ

一 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テスルコト 故ニ此目的ナクハ本罪成立セス但シ之ヲ以テ唯一ノ目的ト爲スコトヲ要セス假令忠君愛國ノ至情ヲ表ハサンコトヲ目的トシ或ハ公使等ノ個人ニ對スル私

横ヲ洩スヲ目的トシテ國旗汚損等ノ行爲ヲ爲スモ外國ニ對シ侮辱ヲ加フル結果ヲ生スルコトヲ知リテ之ヲ爲シタル以上ハ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テシタリト云フヲ妨ケス

二 其國ノ國旗其他ノ國章ヲ毀損除去又ハ汚穢シタルコト 國章トハ其國家ヲ表示スル徽章ヲ謂フ英國ノ公使館門ニ掲ケアルモノ、如キ然リ損壞トハ物質的損害ヲ與フルヲ云ヒ除去トハ相當位地ヨリ他ニ移スヲ云ヒ汚穢トハ外形ヲ毀損セサル侵害ヲ云フ而シテ條文其手段ヲ制限シタルヲ以テ損壞除去汚穢以外ノ行爲ハ本條ノ間フ所ニアラス
右ノ二條件ヲ備具シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトス其本國政府ノ請求ヲ待ツハ前々條ト異ナルコトナシ

第九十三條 外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫

備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

○本條ハ外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス罪ヲ定メタルモノニシテ其成立要件ハ左ノ如シ

一 外國ニ對スルコト 外國トハ我國以外ニ於テ一定ノ土地人民ヲ有シ唯一主權ヲ以テ之ヲ統治スル主体ヲ云フコト曩ニ述ヘタル所ノ如シ而シテ外國ニ對スルコトヲ要スルヲ以テ單ニ外國ノ一村ヲ騷擾シ財物ヲ劫掠スルカ如キ或ハ某々ノ個人ヲ殺傷セントスルカ如キハ本條ノ關スル所ニアラス然レトモ外國ト戰鬪ヲ爲スノ目的ヲ以テ先ツ其一村ヲ攻撃シ占領セントスルトキノ如キハ假令第一着ニ外國ヲ代表スル軍艦又ハ軍隊ニ對シ戰爭行爲ヲ爲サントスルニアラストモ外國ニ對スルモノト云フヲ得ヘキハ言ヲ俟タス

單ニ外國ニ對シ云々ト云フトキハ我帝國ト交戰中ノ外國ナルト否トヲ問ハスト雖モ然レトモ本條ハ外國トノ和親ヲ破リ外患ヲ醸スノ誘引トナルヘキ行爲ヲ禁スルノ趣旨ナルヲ以テ既ニ我ト交戰中ノ外國ナルトキハ之ニ對シ私ニ戰闘ヲ爲スノ目的ヲ以テ其準備ヲ爲スモ本條ヲ以テ論スルコト能ハスト解スルヲ至當トス

二 私ニ戰闘ヲ爲ス目的ヲ以テスルコト 私ニトハ日本帝國ノ天皇ノ命令ヲ得スシテ爲スヲ云ヒ戰闘ヲ爲ス目的ヲ以テトハ犯人ノ目的カ外國ト戰爭行爲ヲ爲スニ在ルヲ云フ本條ニ相當スル舊刑法第三百三十三條ニ戰端ヲ開クトアリシヲ本條ニ於テ戰闘ヲ爲スト改メタル所以ハ戰端ハ即チ戰爭ヲ開始スルノ義ニシテ戰爭ナル用語ヲ實際ニ適用スルニ付キ又一私人カ戰爭ノ主体タルコトヲ得ルヤ否ヤニ付キ疑義ナキニアラサルヲ以テ寧ロ戰闘ト爲シ一私人カ武力ヲ以テ外國主權ニ抗敵スル場合ニ廣ク適用スルコトヲ便宜トスレハナリ

三 豫備又ハ陰謀ヲ爲シタルコト 如何ナル行爲ヲ以テ戰闘ノ豫備又ハ陰謀ト爲スヘキヤハ裁判官ノ判斷ニ任セサルヘカラス

右ノ條件ヲ具備シタルトキハ其犯人ノ日本人タルト否トヲ問ハス三月以上五年以下ノ禁錮ニ處スヘキモノトス然レトモ自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス蓋シ自首ヲ獎勵シテ大害ヲ未發ニ防カンカ爲メナリ豫備行爲ヨリ進ンテ既ニ戰闘行爲ニ着手シタルトキハ如何曰ク他ニ明文ナキヲ以テ均シク本條ニ依リ處斷セサルヘカラス但シ私ニ戰闘ヲ開始シタル結果我官命ヲ拒ミ政府ニ抗敵スル場合ノ如キハ内亂罪又ハ他ノ犯罪ヲ構成スルコトアルヘキハ言ヲ俟タス

第九十四條 外國交戰ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背

シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○本條ハ局外中立ノ命令ニ違反スル罪ヲ定メタルモノニシテ其構成條

件ハ左ノ如シ

四百九十二

一 外國交戦ノ際ナルコト 外國ノ交戦トハ外國ノ戰爭ニシテ我帝國ノ之ニ關セサル場合ヲ云フ即チ外國ト外國トノ間ノ戰爭及ヒ外國内ニ於ケル内亂ノ場合ニ於テ其叛徒ノ一團カ他國ヨリ國際公法上交戦主体タルノ承認ヲ受ケタルトキノ二者ヲ包含ス

二 局外中立ニ關スル命令ニ違背シタルコト 國家カ局外中立ノ義務ニ違反シタル場合ニ付テハ國際法ノ論スヘキ所ナリト雖モ國際法ハ國家ノ行動ヲ羈束スルニ止マリ直接ニ臣民ニ對シテ其効力ヲ有スルモノニアラス故ニ外國交戦ノ際國家カ局外ノ地位ニ立テ何レノ交戦主体ニモ加擔セサラントセハ局外中立ヲ宣言シ尙ホ臣民ニ對シ或ル義務ヲ負擔ニシメサルヘカラス之ヲ局外中立ニ關スル命令ト云フ兵器彈藥船舶其他ノ軍用品ヲ交戦國ノ一方ニ供給スルコトヲ禁止スルカ如キ然リ而シテ本罪ノ成立ニハ其命令ニ違背シタルコトヲ要ス然レトモ交戦國

ノ一方ヲ利シ若クハ害スルコトヲ知テ命令違反ノ行爲ヲ爲シタル以上ハ局外中立ノ布立及ヒ之ニ關スル命令ノ存否ヲ知ルト否トヲ問フコトナシ
右ノ條件ヲ具備シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトス

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

○本章凡テ二條公務ノ執行ヲ妨害スル罪ノ規定ニシテ公務トハ官吏公吏法令ニ依リテ公務ニ従事スル議員委員其他ノ職員カ其權限ニ基キテ行フ職務ヲ總稱ス

本章ハ舊刑法第二編第三章第二節及ヒ第八節ノ規定ヲ合シ之ヲ修正シタル者ニシテ其修正ノ主要ナル點ヲ擧レハ左ノ如シ

一 舊刑法ノ第二節ハ唯官吏ノ職務執行ヲ妨害スル罪ニ付テノミ其規

第二編第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

四百九十三

定ヲ設クルヲ以テ其保護ノ範圍極メテ狹ク其他公吏議員ニ關シテハ特別法アリ又議會并ニ議員ノ保護ニ關シテモ特別法アリト雖モ未タ一般ニ公務ノ執行ヲ保護スル法無キヲ以テ新法ハ廣ク公務員ノ職務執行ノ安全ヲ保護スル目的ヲ以テ舊刑法ノ不備ヲ補ヒタリ

二 舊刑法ハ第八節ニ於テ封印破棄罪ヲ認ムト雖モ是亦單ニ公務ノ執行ヲ妨害スル罪ノ一種ニ過キササルヲ以テ之ヲ本章ニ加フルコト、シタリ抑モ公務員ニ對スル侮辱罪ニ付テハ(一)總テ公務員ニ對スル侮辱ヲ特別ノ侮辱罪ト爲ス法制ト(二)職務ニ關スル侮辱ニ限リテノミ之ヲ特別ノ侮辱罪ト爲ス法制ト(三)特別ノ侮辱罪ト爲サスシテ普通人ト同一ノ規定ニ依ラシムル法制トノ三アリ舊刑法ニ於テハ第二ノ主義ヲ採用シ官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其目前ニ非スト雖モ

刊行ノ文書圖書又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シト規定シ又改正刑法草案ニ於テモ公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ其面前ニ於テ侮辱ヲ加ヘ又ハ其面前ニ非スト雖モ公然其職務ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス公務所ニ對シ公然侮辱ヲ加ヘタル者亦同シト規定シ貴族院ニ於テハ一度ヒ之ヲ可決シタルモ衆議院ニ於テ官吏ト雖モ其名譽傷害ニ關シテハ特ニ之ヲ通常人ト區別スヘキ理由ナキヲ以テ既ニ第二百三十一條ニ一般ノ侮辱罪ヲ規定シタル以上ハ公務員ニノミ適用スヘキ特別ノ侮辱罪ヲ設クルノ要ナシトノ理由ニ依リ之ヲ刪除シタル結果遂ニ本罪ノ廢止ヲ見ルニ至レリ然レトモ少クモ現時ニ在テハ公務員又ハ公務所ノ尊嚴ヲ保タシメ一私人ヲシテ妄リニ之ヲ凌辱品騰セシメサル爲メ特ニ此侮辱罪ヲ認ムルコト必要ナルカ如シ

第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ

暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲サ、ラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

○本條ハ公務員ノ職務執行ヲ妨害スル罪ヲ規定シタルモノニシテ分テ二項ト爲ス其第一項ニ定メタル罪ノ成立要素ハ左ノ如シ

一 公務員ノ職務執行ノ際ナルコト 公務員トハ官吏公吏法令ニ依リ公務ニ従事スル議員委員其他ノ職員ヲ謂フ第七條ノ規定スル所ナリ職務ヲ執行スルニ當リトハ法令ノ規定ニ依リ公務員ノ權限内ニ在ル職務ヲ適法ニ執行スル場合ヲ云フ例ヘハ司法警察官カ現行犯人ヲ逮捕シ執達吏カ財産ノ差押ヲ爲スカ如キ然リ而シテ職務ノ執行ナルコトヲ

要スルカ故ニ公務員タルノ身分ヲ有スル者ノ行爲ト雖モ私事ニ屬スルモノハ本條ノ規定外ナルコト言フ俟タス

本條ハ正當ナル職務ノ執行ヲ保護スル規定ナルヲ以テ其執行々爲カ公務員ノ權限内ノモノニアラサルトキ若クハ權限内ナルモ手續上適法ノモノニアラサルトキハ本條ノ保護ヲ受クルコト能ハス換言スレハ職務ノ執行ニ付テノ諸般ノ法定條件ヲ具備シ及ヒ法定ノ範圍ヲ超過セサル場合ニ限り本條ノ保護ヲ受クヘキナリ故ニ例ヘハ司法警察官カ令狀ニ依ラスシテ非現行犯人ヲ逮捕セントシ若クハ令狀ヲ有スルモ請求ヲ却ケ之ヲ示サスシテ逮捕セントスルトキノ如キ被告人ハ暴行脅迫ヲ加ヘテ之ニ抗拒スルモ本條ヲ以テ論スルコト能ハス然ラハ其所謂適法ナル職務ノ執行ナルヤ否ヤハ客觀的ニ之ヲ決スヘキカ將タ主觀的ニ之ヲ決スヘキカ曰ク此問題ニ付テハ三說アリ第一說ハ客觀的ニ適法ナル職務ノ執行タルニ要スル凡テノ條件ヲ具備スルコトヲ要ストシ第二說ハ主

觀的ニ此條件ヲ具備スルヲ以テ足レトシ又第三說ハ其條件ヲ事實ト
 法律トニ區別シ法律上ノ錯誤ナキ限リハ事實ニ錯誤アルモ適法タルヲ
 妨ケストス此三說中余ハ第一說ヲ可トス何トナレハ假令主觀的ニ適法
 ナリト認識スルモ客觀的ニ違法ナル以上ハ法律上違法ノ行爲ト云フヘ
 ク且ツ客觀的ニ違法ナル行爲ハ假令公務員カ適法ナリト信スルモ爲メ
 ニ違法行爲カ適法行爲ニ變スヘキモノニアラサレハナリ之ト反シ若シ
 主觀的ニ公務員カ適法ナリト信スルヲ以テ足レトセハ客觀的違法ノ
 行爲ノ遂行ヲ法ニ依テ保護スルカ如キ不當ノ結果ヲ生スルニ至ルヘシ
 故ニ例ヘハ司法警察官カ現行犯人ナリト信シ逮捕セントシタルニ對シ
 暴行脅迫ヲ加ヘタル場合ニ於テ審理ノ結果現行犯人ニアラサリシトキ
 ハ其嫌疑者ノ暴行脅迫ハ適法ナル職務ノ執行ニ對スルニアラサルヲ以
 テ本罪成立セス然レトモ司法警察官カ豫審判事ノ命ヲ受ケ令狀ニ依リ
 テ被告人ヲ逮捕シタルトキノ如キ假令法律上令狀ヲ發スヘキ者ニアラ

ストスルモ司法警察官ノ行爲ハ適法ナルヲ以テ暴行脅迫ヲ加ヘ令狀ノ
 執行ヲ拒ミタル被告人ハ本條ニ依リ之ヲ處斷セサルヘカラス蓋シ適法
 ノ形式ヲ備ヘタル上官ノ命令ニ職務上絕對的服從ノ義務アル下官カ上
 官ノ命令ヲ執行スル場合ニ於テハ假令其上官ノ命令ハ實質ニ於テ違法
 ナリトモ此命令ヲ執行スル下官ノ行爲ハ正當ナル職務ノ執行ト云フヘ
 キモノナルヲ以テナリ

職務ヲ執行スルト職務ヲ行フトハ其意義ヲ異ニスルヤ否第百九十五條
 ニ裁判檢察警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ
 云々トアリ本條ニ公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ云々トアリ又本條ニ
 相當スル舊刑法ニハ官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法
 官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ云々トアリ其節目ニハ官吏ノ職務ヲ行フ
 ヲ妨害スル罪トアリ抑モ執行トハ物又ハ人ニ對シテ確定シタル意思ヲ
 強制的ニ實行スルヲ云フ故ニ司法警察官カ令狀ニヨリ犯人ヲ逮捕スル

カ如キハ執行々爲ナルモ巡查カ市中ヲ巡回シ各省大臣カ諸般ノ命令ヲ發シ裁判官カ裁判ヲ爲シ議員カ議會ニ出席スルカ如キハ物又ハ人ニ對シテ意思ノ實行ヲ爲スニアラサルヲ以テ職務ノ執行ト云フ能ハス然レトモ大臣カ省令ヲ發シ裁判官カ裁判ヲ爲スカ如キ又議員カ會議ニ出席シテ辨論ヲ爲スカ如キハ其職務ナルヲ以テ職務ヲ行フモノト云フコトヲ得ヘシ若シ條文ノ所謂執行ハ單ニ職務ヲ行フノ意ニアラスシテ人又ハ物ニ對シ強制的ニ執行行爲ヲ爲スノ意ナリトセハ暴行脅迫ヲ加ヘテ巡查カ市中ヲ巡回スルヲ妨ケ裁判官カ裁判ヲ爲シ議員カ會議ニ出席スルヲ妨クルモ本條ノ罪ヲ構成スルコトナシト云ハサルヘカラス然レトモ此ノ如キハ甚タ不當ナルヲ以テ職務ヲ行フト云ヒ執行ト云ヒ又實行ト云フモ其意義同一ニシテ均シク職務行爲ヲ爲ス凡テノ場合ヲ包含スト解スルコト至當ナルカ如シ

二 之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコト 公務員ノ職務執行ヲ

妨害スル手段ハ暴行又ハ脅迫タルコトヲ要ス暴行脅迫ノ何タルコトハ第九十條ノ下ニ於テ解説シタルモ要スルニ暴行トハ不法ニ腕力ヲ云フルヲ云ヒ脅迫トハ害惡ヲ加ヘント通知シテ畏怖ノ念ヲ生セシムルヲ謂フ而シテ暴行脅迫ノ結果職務ノ執行ヲ爲シ得サリシト否トヲ問ハス又不法ノ腕力ニ因リ公務員ノ身体ヲ直接ニ強制シタルト間接ニ強制シタルトヲ問ハス又公務員ニ害ヲ加フル旨ヲ通知シタルト公務員ノ妻子等ニ害ヲ加フル旨ヲ以テ脅迫シタルトヲ問フコトナシ只公務員カ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ暴行脅迫ヲ加フレハ足ル然レトモ本條ハ職務行爲ヲ妨クル場合ナルヲ以テ輕微ナル腕力兒戲ニ類スル害惡ノ通知ノ如キハ本罪ヲ構成スルコトナシ

條文之ニ對シテトハ公務員ニ對シテノ意ナリ故ニ暴行脅迫ハ直接間接ニ公務員ニ對スルモノナラサルヘカラス從テ執達吏カ差押ヲ爲シ又ハ稅務吏カ調査ヲ爲サントスルニ當リ單ニ器物ヲ破壊シ若クハ藏匿シタ

ルトキノ如キハ本罪ヲ構成セス逮捕ヲ免レンカ爲メニ逃走シ或ハ地上ニ伏シテ動カサルカ如キ消極的抗拒ノ場合又然リ

右ノ條件ヲ具備シタルトキハ暴行脅迫者カ被執行者ナルト他人ナルトヲ問ハス本條第一項ノ規定ニ依リ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處スヘキモノトス懲役又ハ禁錮ト規定シタルハ公務ノ執行ヲ妨害スル罪ハ單純ナルカ如キモ實際ノ情狀ハ區々ニ涉ルヘク爲メニ被告人ノ身分犯因其他種々ノ事情ニ依リ定役ナキ刑ヲ科スルノ必要アルコトアルヘク從テ懲役ニ限ルハ穩當ニアラサルヲ以テナリ

○本條第二項ハ公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲サ、ラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行脅迫ヲ加ヘタル罪ヲ規定シタルモノニシテ其成立要素ハ左ノ如シ

一 公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲サ、ラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メナルコト 處分トハ特定ノ人ニ對シ特定ノ法律

關係ヲ定ムル權力ノ活動ヲ云フ或處分ヲ爲サシメトハ執達吏ヲシテ差押命令ナキニ他人ノ財産ヲ差押フルコトヲ強制シ又ハ巡查ヲシテ令狀ナキニ非現行犯人ヲ逮捕スヘキコトヲ強制スルカ如キヲ云ヒ或處分ヲ爲サ、ラシムル爲メトハ巡查令狀ニ依リ適法ニ被告人ヲ逮捕セントスル場合ニ之ヲ強制シテ逮捕ヲ爲サ、ラシメ又ハ執達吏カ適法ニ差押ヲ爲サントスル場合ニ之ヲ強制シテ差押ヲ爲サ、ラシムルカ如キヲ云フ又其職ヲ辭セシムル爲メトハ其意ニ反シ強制シテ公務員タル職ヲ退カシムルヲ云フ而シテ本罪ノ成立ニハ以上ノ目的ヲ以テ暴行脅迫ヲ加フレハ足ル敢テ暴行強迫ノ結果其目的ヲ達シ現ニ或處分ヲ爲サシメ又ハ爲サ、ラシメ又ハ辭職セシメタルコトヲ要セス

適法ニ爲スヘキ處分ヲ爲サシムル爲メ又ハ爲スヘカラサル處分ヲ爲サ、ラシムル爲メ暴行脅迫ヲ加ヘタルトキハ如何例ヘハ司法警察官カ現行犯人アルヲ知ルモ之ヲ逮捕セサルカ爲メ暴行ヲ加ヘテ逮捕セシメタ

ルトキ又ハ檢事カ起訴スヘキ事件アルモ起訴セサルカ爲メ脅迫ヲ加ヘテ起訴セシメタルトキノ如キ又司法警察官カ犯罪者ニアラサル者ヲ現行犯ト誤認シ之ヲ逮捕セントスルヲ以テ暴行ヲ加ヘ逮捕處分ヲ爲サ、ラシメタルトキ又ハ檢事カ起訴スヘカラサル事件ヲ起訴セントスルヲ以テ脅迫ヲ加ヘ起訴セサルニ至ラシメタルトキノ如キハ本項ニ依テ處斷スヘキヤ否曰ク本章ハ公務ノ執行ヲ妨害スル罪ニシテ本項ノ精神ハ暴行脅迫ヲ加ヘ公務員ヲシテ爲スヘカラサル處分ヲ爲サシメ又ハ爲スヘキ處分ヲ爲サ、ラシメントスル者ヲ罰スルニアルヲ以テ本間ノ如キハ本項ノ範圍外ナリト云ハサルヘカラス何トナレハ適法ニ爲スヘキ處分ヲ爲サシメ又法律上爲スヘカラサル處分ヲ爲サシメサルトキノ如キハ之ヲ爲サシメ又ハ爲サシメサル權利ノ有無如何ヲ問ハス職務ノ執行ニ何等ノ妨害ヲ與ヘサルヲ以テナリ故ニ以上ノ如キ場合ハ本項ノ罪ヲ構成セサルモノトス但シ普通ノ暴行脅迫罪トシテ處斷スヘキヤ否ヤハ

別問題ナリ

二 暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコト 故ニ他ノ手段例ヘハ賄賂等ニ依リテ前號ノ行爲ヲ爲サシムルモ本罪ヲ構成セス

右ノ條件ヲ具備シタルトキハ前項ノ場合ト同シク三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處スヘキモノトス

第一項ト第二項ト異ナル點ハ左ノ如シ

一 第一項ノ場合ハ暴行脅迫者ノ目的如何ヲ問ハサルモ第二項ノ場合ハ目的ニ制限アリ

二 第一項ノ場合ハ職務執行中ナルコトヲ要スルモ第二項ノ場合ハ職務執行中ナルト否トヲ問フコトナシ

第九十六條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損

壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効タラシ

ノタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

○本條ハ公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ無效タラシメタル罪ノ規定ニシテ其成立條件ハ左ノ如シ

一 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ナルコト 故ニ公務員ノ施シタルモノニアラサレハ之ヲ損壞スルモ本條ノ犯罪ヲ構成セス又假令公務員ノ資格アル者ト雖モ其職務ヲ以テシタルモノニアラスンハ本條ノ罪ヲ成サス執達吏カ差押命令ニ依ラスシテ差押處分ヲ爲シタルトキ司法警察官カ民事上ノ差押ノ爲メ封印ヲ爲シタルトキノ如キ然リ然レトモ職務ヲ以テ適法ニ爲シタルモノナル以上ハ法律關係ノ根基ニ於テ差押等ヲ爲ス必要ナカリシ場合（債務者トシテ差押處分ヲ爲シタルモ其實債務ハ既ニ消滅ニ歸シクルトキノ如キ）ト雖モ公務員ノ施シタ

ルモノトシテ效力ヲ有ス從テ之ヲ損壞シ若クハ無效ナラシメタルトキハ本罪成立スヘシ又假令差押ノ理由消滅シタル後（債務ヲ辨濟シタルトキノ如キ）ト雖モ適法ニ解除セラレサル以前ニ之ヲ損壞シ無效タラシメタルトキハ本罪成立スヘシ

封印トハ執達吏カ財産差押ノ爲メニ施ス封印又ハ稅務官吏カ酒造稅法違犯ノ場合ニ酒類ニ施ス封印ノ如キヲ云ヒ差押ノ標示トハ差押ノ方法トシテ付スル差押公示標目ノ如キヲ云フ而シテ之ヲ付スル所以ハ法律上家屋器具ヲ保管シ書類其他ノ物件ノ使用處分紛亂盜奪等ヲ豫防スルノ必要アル場合ニ一々之ニ看守者ヲ付シ現實ニ之ヲ保管スルカ如キハ到底其手數ト費用トニ耐ヘサルカ爲メ封印ヲ施シ又ハ標示ヲ付シテ之ニ代ヘ以テ保管ノ目的ヲ達センカ爲メナリ故ニ公務員カ單ニ發送ノ書狀ニ施シタル封印又ハ單ニ便宜ノ爲メ官署ノ倉庫金庫等ニ施シタル封印ノ如キハ一私人カ自己ノ私信又ハ器物ニ封印ヲ施スト一般敢テ公務

員カ職務ヲ以テ法律命令ノ規定ニ從ヒ施スモノニアラサルヲ以テ之ヲ損壞スルモ本條ノ犯罪ヲ構成スルコトナシ

二 之ヲ損壞シ若クハ無効ナラシメタルコト 損壞トハ物質的損害ヲ加フルヲ云フ封印又ハ差押標示ヲ破棄シ除去シ燒燬スルカ如キ然リ又無効ナラシムルトハ損壞以外ノ方法ヲ以テ封印標示ノ効ナカラシムルヲ云フ例ヘハ筆筒ノ引出ニ封印シ開閉ヲ禁シタルニ封印ヲ其儘ニシ筆筒ノ後ロヲ破リテ物品ヲ取出シ又ハ漁船ニ封印シテ其使用ヲ禁止シタルニ封印ノ儘出漁シタルトキノ如キ然リ然レトモ本罪ノ成立ニハ封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ若クハ無効タラシメ以テ公權ヲ侵害スルヲ以テ足ル敢テ差押物件ヲ損壞シ使用シ若クハ滅失セシメタルコトヲ必要トセス又其目的ノ如何ヲ問フコトナシ但シ公務員カ其職務ヲ以テ適法ニ施シタル封印又ハ差押ノ標示ナルコトヲ知テ之ヲ損壞シ若クハ無効ナラシメタル場合ナルコトヲ要スルハ言ヲ俟タス

以上ノ條件ヲ具備シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトス

第六章 逃走ノ罪

○本章凡テ六條囚人又ハ被拘禁者ノ逃走ニ關スル罪ヲ定メタルモノナリ舊刑法ニ於テハ唯囚徒ニ關スル罪ノミヲ認ムト雖モ其自由ヲ剝奪セラレテ一定ノ設備中ニ拘禁セラル、者ハ必スシモ囚人ニ限ラス故ニ新法ハ單純ノ逃走罪ハ囚人ニノミ之ヲ認ムト雖モ其他ノ罪ニ就テハ汎ク法令ニ依リ拘禁セラレタルモノニ付キ之ヲ認メタリ

第九十七條 既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以

下ノ懲役ニ處ス

○本條ハ囚人逃走ノ罪ヲ定メタルモノニシテ其成立條件ハ左ノ如シ

一 既決未決ノ囚人タルコト 既決ノ囚人トハ刑ノ執行ノ爲メ身体ノ自由ヲ奪ハレ當該法令執行者ノ監督ノ下ニ在ル者ヲ云ヒ未決ノ囚人トハ犯罪ノ嫌疑ノ爲メ自体ノ自由ヲ奪ハレ當該法令執行者ノ監督ノ下ニ在ル者ヲ云フ故ニ適法ノ手續ニ依リ一度獄舎ノ拘禁ヲ解カレ執行者ノ監督ヲ脱シタル者例ヘハ假出獄中ノモノ保釋責付中ノ者ノ如キハ囚人ニアラス舊刑法ニ於テハ囚徒ナル語ヲ用ヒタルモ囚徒ト云フトキハ二人以上ノ囚人タルコトヲ要スルカ如キ嫌アルヲ以テ本條ハ改メテ之ヲ囚人トシタリ又舊刑法ニ於テハ未決ノ囚人ニ付キ入監中ナル文字ヲ用ヒ未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ云々ト規定シタルモ本法ハ此文字ヲ删除シタリ蓋シ囚人トハ既決未決ヲ問ハス監獄ニ在ル可キ身分ノ者ヲ示ス意義ナルヲ以テ舊法ノ如ク未決ノ囚人ニ付キテ特ニ入監中ト云フノ必要ヲ認メサルノミナラス却テ入監中ニアラサル囚人アルカ如キ疑ヲ生スル虞アレハナリ

罰金又ハ科料ヲ納完セサル爲メ勞役場ニ留置セラレタル者ノ如クハ既決未決ノ囚徒ニアラス故ニ留置人自ラ逃走スルモ本條ヲ以テ處斷スルコト能ハス此場合ニ於ケル處分法ハ後日命令等ヲ以テ規定スルニ至ルヘシ

二 逃走シタルコト 逃走トハ囚人ヲ拘禁監督スル公力ノ區域ヲ不法ニ脱出スルヲ云フ故ニ獄内ノミナラス獄外ニ於テモ逃走罪成立シ得ヘシ外役先ヨリ逃走シタルトキノ如キ然リ

右ノ二條件ヲ具ヘタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス既決ノ囚人ト未決ノ囚人トニ因リ刑ノ輕重ヲ異ニセサル所以ハ本法ハ全体ニ亘ル主義トシテ細區別ヲ設ケス刑ノ範圍ヲ廣クシ裁判官ヲシテ適宜處分セシムルカ爲メナリ

第九十八條 既決、未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケ

タル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

○本條ハ加重ノ情狀アル逃走ノ罪ヲ規定シタルモノニシテ其成立條件ハ左ノ如シ

一 既決未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者ナルコト 勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者トハ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒ勾引セラレタル者ニシテ而モ未タ獄舎ニ拘禁セラレサル者ヲ云フ既ニ獄舎ニ拘禁シ當該官吏ノ監督ノ下ニ在ルモノハ未決ノ囚人ナルヲ以テナリ舊刑法ニハ之ニ相當スル規定ナカリシヲ以テ令狀ノ執行ニ依リ逮捕セラレタル者カ正當ノ手續ニ依リ未タ獄舎ニ拘禁セラレサル以前ニ於テ逃走スルモ未タ囚人タルノ身分ナキヲ以テ假令其護送者等ニ暴行脅迫ヲ加ヘテ逃走

スルモ逃走罪ヲ以テ論スルコト能ハサリシナリ本法ハ即チ其缺點ヲ補ハンカ爲メニ既決未決ノ囚人ノ外ニ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者ヲ加ヘタルナリ

二 拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルコト 本條ハ逃走ノ手段ヲ制限シタリ故ニ他ノ手段ヲ以テ逃走スルモ本罪ヲ構成セス而シテ拘禁場トハ囚人其他法令ニ因リ拘禁セラレタル者ノ自由ヲ拘束スル爲メニ設備シタル場所ヲ云ヒ械具トハ連鎖手錠等ノ如ク自由ヲ拘束スルノ用ニ供スル物ヲ云ヒ損壞トハ物質的損害ヲ加フルヲ云フ故ニ單ニ門戸ヲ明ケ放シ手錠ヲ取除ク如キハ損壞ニアラス又暴行トハ人若クハ物ニ對シテ不法ニ腕力ヲ加フルヲ云ヒ脅迫トハ害惡ヲ通知シ畏怖心ヲ生セシムルヲ云フ而シテ第九十條ノ如ク暴行又ハ脅迫ヲ加ヘト云ハスシテ暴行脅迫ヲ爲シ云々ト規定シタルハ本條ニ所謂暴行ハ必スシモ其對手人アルコトヲ要セサルヲ以

テナリ又二人以上通謀シタルトハ二人以上共同一致シテ逃走ヲ爲スヲ云フ此場合ハ暴行脅迫等ノ所爲アルヲ要セス通謀ノ一事ニ依リ嚴罰セラルヘシ是レ犯スニ易ク防クニ難キカ爲メナリ
右ノ條件ヲ具備シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス

第九十九條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

○本條ハ被拘禁者ヲ奪取スル罪ヲ規定シタルモノニシテ其成立條件ハ左ノ如シ

一 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ナルコト 法令ニ因リ拘禁セラレタル者トハ法律命令ノ規定ニ因リ適法ニ拘禁セラレタル者ヲ云フ既決未決ノ囚人罰金科料ヲ完納セサル爲メ勞役場ニ留置セラレタル者精神

病者看護法ニ依リ感化院ニ拘禁セラレタル者又ハ民法上ノ懲戒ニ依リ拘禁セラレタル者ノ如キヲ云フ故ニ既決未決ノ囚人ト云フヨリモ其範圍甚タ廣シ蓋シ感化院ニ拘禁セラレタル者懲戒處分ニ因リ拘禁セラレタル者等ハ犯人ニアラスト雖モ法律カ其必要ヲ認メ適法ニ拘禁シタルニモ拘ラス之ヲ奪取シ逃走セシムルカ如キハ囚人ヲ奪取スル場合ト犯情ニ於テ輕重ノ差コソアレ不問ニ附スヘキモノニアラサルヲ以テナリ
二 之ヲ奪取シタルコト 奪取トハ監督者ノ監督區域ヲ脱シ自己ノ勢力内ニ取り去ルヲ云フ敢テ強盜罪ノ場合ニ於ケル強取ノ如ク暴行脅迫ヲ以テスルコトヲ要セス然レトモ通常監督者ノ監督區域ヲ離脱セシムルニハ暴行脅迫ノ手段ニ出ツルモノナルヲ以テ此場合モ當然本條奪取ノ語中ニ包含スヘシ
右ノ條件ヲ具備シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス

第百條

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行為ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

○本條ハ被拘禁者ノ逃走ヲ補助スル罪ノ規定ニシテ第一項ノ成立條件ハ左ノ如シ

一 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ナルコト 此條件ハ前條ニ於テ説明シタルモノト異ナルコトナシ

二 之ヲ逃走セシムル目的ヲ以テシタルコト 故ニ此目的ヲ以テスルニアラスンハ器具ヲ給與スルモ本罪ヲ構成セス然レトモ此目的アレ

ハ足ル敢テ此目的ヲ達シ被拘禁者カ逃走シタルコトヲ要セス又假令逃走ヲ肯ンセサルトキト雖モ本條ノ行為アルトキハ本罪成立スヘシ蓋シ本條ハ被拘禁者自身ノ逃走罪ニ對スル從犯ニアラスンテ獨立ノ一罪ナルヲ以テナリ而シテ本條ノ補助ヲ得テ逃走シタル者カ既決未決ノ囚人ナルトキハ第九十七條又ハ第九十八條ニ依リ處斷セララルヘキハ言ヲ俟タス

三 器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシムヘキ行為ヲ爲シタルヲ器具ヲ給與シトハ合鍵鋸刀劍短銃等逃走ニ使用スヘキ相當器具ヲ與フルヲ云フ故ニ逃走ノ用ニ供スル能ハサル器具ヲ給與スルモ本罪成立セス但シ被拘禁者カ其器具ヲ使用シテ逃走ヲ企テタルト否トハ之ヲ問フコトナシ其他逃走ヲ容易ナラシムヘキ行為トハ破獄ノ方法手段ヲ指示シ若シクハ門戸ニ梯子ヲ掛ケ鎖鑰ヲ開ク等凡テ器具給與以外ニ逃走ノ便宜ヲ與フル行為ヲ云フ

右ノ條件ヲ具備シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス

○第二項ニ規定シタル罪ノ成立條件ハ左ノ如シ

一 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ナルコト

二 之ヲ逃走セシムル目的ヲ以テシタルコト

三 其手段トシテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルコト 若シ逃走セシムル

目的ニアラスシテ奪取センカ爲メニ暴行脅迫ヲ加ヘタル場合ナルトキ

ハ前條ニ依テ處分セララルヘシ

右ノ條件ヲ具備シタルトキハ前項ノ場合ヨリ其犯情重キヲ以テ三月以

上五年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス

第一百一條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送

スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年

以下ノ懲役ニ處ス

○本條ハ監督ノ職責アル者カ被拘禁者ヲ逃走セシメタル場合ノ規定ニシテ其成立要素ハ左ノ如シ

一 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ナルコト

二 之ヲ看守又ハ護送スル者ナルコト 看守スル者トハ職務上被拘

禁者ヲ監督スル者ヲ云フ看守ト名ケラル、職ニ居ル者ノミヲ云フニア

ラス故ニ法庭内ニ於テ監督スル巡查ノ如キモ此語中ニ包含ス又護送ス

ル者トハ監督シテ或場所ヨリ他ノ場所ニ送付スル者ヲ云フ巡查憲兵又

ハ看守ノ如キ然リ然レトモ看守又ハ護送スル者トハ現ニ看守又ハ護送

シツ、アル者ヲ云フ故ニ假令巡查看守等ノ身分アル者ト雖モ非當等ニ

依リ其職務ヲ行ハサル際ナルトキハ他人ノ看守護送スル被拘禁者ヲ逃

走セシムルモ本條ヲ以テ論スル能ハス

三 被拘禁者ヲ逃走セシメタルコト 故ニ過失懈怠ニ因リ逃走ヲ覺

ラサルトキノ如キハ本條ヲ以テ論スル能ハス然レトモ故意ヲ以テ逃走

セシムレハ足ル其手段ノ如何ヲ問フコトナシ從テ逃走セントスルヲ知
テ防止セサル場合ニ於テモ本罪成立スヘシ
右ノ條件ヲ具備シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處スヘキモノ
トス

第二百一條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○本條ハ逃走ニ關スル罪ハ其既遂ノミナラス未遂ヲモ罰スヘキ旨ヲ定
メタルモノナリ蓋シ本章ノ罪ノ如キハ公權ヲ維持シ社會ノ危險ヲ豫防
スル爲メ未遂ト雖モ之ヲ處罰スル必要アルヲ以テナリ
如何ナル程度ニ達スレハ既遂ニシテ如何ナル場合ハ未遂ナルヤハ各本
條ニ就テ之ヲ決セサルヘカラス今一々之ヲ解説スル暇マナキヲ以テ第
九十七條ニ規定シタル逃走罪ニ付テノミ云ハンニ逃走トハ曩ニ述ヘタ
ルカ如ク當該法令執行者ノ監督スル監督區域ヲ不法ニ離脱スルヲ云フ

故ニ監督力ノ區域ヲ脱シ終レハ既遂ニシテ脱セントシテ着手シタルモ
未タ脱セサレハ未遂ナリ例ヘハ獄舍外圍ノ保障物外ニ追跡セララル、コ
トナクシテ脱出シタルトキノ如キハ逃走ノ既遂ナリ然レトモ脱獄ノ着
手中當該官吏ノ知ル所トナリテ追跡セラレタルトキハ假令獄外ニ出ル
モ未タ既遂タル能ハス此場合ニ於テハ實際當該官吏ノ力ヲ以テ拘束ス
ル能ハサル地位即チ監督力ノ及ハサル場所ニマラ逃走シタルトキヲ以
テ既遂ト爲スヘキナリ外役先ヨリ逃走シタルトキノ如キ亦然リ

第七章 犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

○本章凡テ三條犯人ヲ藏匿シ又ハ証憑ヲ湮滅スル罪ヲ定メタルモノナリ
此等ノ行爲ハ犯罪ヲ補助スル行爲ナリト雖モ共ニ犯罪成立以後ノ補助ニ
シテ且ツ公權ノ執行ヲ阻害スル行爲ナルヲ以テ一個獨立ノ罪トシ本章ヲ
設ケタルナリ

舊刑法ニ於テハ本章ノ罪ニ對シ輕禁錮ヲ科シタルモ往々盜賊ヲ使役シ不法ノ利得ヲ圖ル如キ者アルヲ以テ新法ハ本章ノ罪ニ對シテハ懲役ニ處スコト、セリ然レトモ單ニ知己老幼ヲ庇護スル爲メ犯シタル者ノ如キハ其情狀極メテ輕キヲ以テ此等ノ犯人ニハ罰金ヲ科スルコトヲ得セシメタリ

第三百三條

罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者又ハ隱避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

○本條ハ犯人ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル罪ノ規定ニシテ其成立條件ハ左ノ如シ

一 罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ナルコト 罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者ナルコトヲ要スルカ故ニ拘留科料ノ刑ニ該ル者ヲ藏匿スルモ本罪ヲ構成セス之レ舊刑法ト異ナ

ル點ニシテ拘留又ハ科料ノミニ處スヘキ罪ノ如キハ事態極メテ輕微ナルヲ以テ其犯人ノ藏匿又ハ隱避ハ之ヲ所罰スル必要ナキヲ以テナリ然レトモ罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者ナルコトヲ知テ藏匿又ハ隱避スレハ足ル敢テ起訴後ナルコトヲ要セス又裁判ノ結果果シテ有罪トナリ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルコトヲ要セス又各本條ニ懲役又ハ罰金トアルカ若クハ罰金又ハ科料トアル者ハ常ニ罰金以上ノ刑ニ該ル者ト云フヘキナリ故ニ裁判言渡ノ結果無罪トナリ又ハ拘留若クハ科料ニ處セラレタルトキト雖モ本罪ノ成立ニ妨ケナシ要スルニ罰金以上ノ刑ニ該ル犯人ナリトノ嫌疑ヲ受ケ居ル者ナルトキハ本號ノ條件ヲ滿タスモノト云フヘシ

拘禁中トハ法令ノ規定ニ依リ拘禁セラレタル凡テノ者ヲ指スノ語ナルカ故ニ當ニ既決未決ノ囚人ノミナラス勞役場ニ留置セラレタル者感化院ニ拘禁セラレタル者懲戒處分ニ依リ拘禁セラレタル者ノ如キモ包含

スヘシ故ニ犯人ハ固ヨリ犯人ニアラストモ拘禁中逃走シタル者ナルトキハ本罪構成ノ條件タルコトヲ得罰金以下ノ刑ニ該ル者ト雖モ拘禁中逃走シタル者ナルトキ亦然リ又逃走シタル者トハ必スシモ自ラ進ンテ逃走シタル者ナルコトヲ要セス拘禁中奪取セラレタル者ノ如キモ亦本條逃走シタル者ノ語中ニ包含スヘシ

二 之ヲ藏匿シ又ハ隠避セシメタルコト 藏匿トハ犯人ニ對シ發見ヲ避クル場所ヲ給與スルノ義ニシテ即チ自己ノ監視内ニ置キテ官ノ檢舉ヲ免レシムル行爲ヲ云フ自己ノ家屋倉庫等ニ潜伏セシメタルトキノ如キ然リ又隠避トハ藏匿以外ノ方法ニ依リ發見又ハ逮捕ヲ妨害スルノ行爲ヲ云フ旅費ヲ與ヘテ他所ニ赴カシメ又ハ潜伏スヘキ方法場所ヲ指示スルカ如キ然リ而シテ藏匿隠避何レノ場合ニ於テモ罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ナルコトヲ知テ積極的ニ之ヲ爲スニアラサレハ本罪成立スルコトナシ

右ノ條件ヲ具備シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトス

第四百四條

他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造、變造シ若クハ偽造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

○本條ハ證憑湮滅又ハ證憑ノ偽造變造ニ關スル罪ノ規定ニシテ其成立條件ハ左ノ如シ

一 他人ノ刑事被告事件ニ關スルコト 他人ノ刑事被告事件トハ自己以外ノ者カ刑事被告人トシテ訴追セラレタル場合ヲ云フ故ニ自己ノ刑事被告事件ナルトキハ證憑湮滅等ノ行爲アルモ本罪ヲ以テ論スルコト能ハス蓋シ犯人自己ノ罪責ヲ免レントスルハ人性ノ至情ニシテ敢テ法律ヲ以テ防止スヘキ限リニアラサレハナリ然ントモ他人タレハ足ル

共犯ノ關係アルト否トヲ問フコトナシ但シ次條ニ例外アリ又他人ノ事件ト雖モ刑事被告事件ニ關スルニアラスンハ本罪成立セス本條後段偽造變造ノ場合ハ刑事民事其他事件ノ如何ヲ問ハサルカ如キモ然ラス

二 證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造變造シ若クハ偽造變造ノ證憑ヲ使用シタルコト 證憑トハ證據徵憑ノ謂ニシテ證據トハ被告人ノ自白公務員ノ作成シタル檢證調書證據物件證人鑑定人ノ供述等ヲ云ヒ徵憑トハ告訴狀盜難届被告人又ハ參考人ノ供述等ヲ云フ又證憑ノ湮滅トハ變形滅盡等凡テ證憑トナルヲ得サラシムルヲ云フ故ニ物件ノ形体ハ存スルモ證憑ノ實ナキニ至ラシメタルトキ例ヘハ被服器具ニ點シタル血痕ヲ拭ヒ去リタルトキノ如キモ證憑ノ湮滅ト云フヘキナリ又證憑ノ偽造トハ不實ノ證憑ヲ製作スルヲ云ヒ變造トハ眞實ノ證憑ヲ増減變更スルヲ云フ又偽造變造ノ證憑ヲ使用スルトハ偽造變造ノ證憑ナルコトヲ知リテ裁判上立證ノ用ニ供スルヲ云フ而シテ偽造變造ノ場合ハ偽造シ變造シタル

トキニ既遂ナルモ偽造變造ノ證憑ヲ使用シタル場合ニハ使用シタルトキニ既遂ナリ故ニ偽造變造ノ證憑ヲ使用シタル罪ハ主トシテ他人ノ偽造變造シタル證憑ヲ使用シタル場合ニ關スルモノト云フヘシ

故意ヲ以テ證憑ヲ湮滅シ偽造變造シ若クハ偽造變造ノ證憑ヲ行使シタルトキハ本罪成立スヘク敢テ其證憑ノ有罪ニ關スルモノナルト無罪ニ關スルモノナルトヲ問フコトナシ舊刑法ニ於テハ他人ノ罪ヲ免カレンシメシコトヲ圖リ云々ト規定シタルカ故ニ有罪ノ判決又ハ重キ刑ノ判決ヲ免カレンシメントノ目的ニ出テタルコトヲ要スルモ本法ハ其目的ヲ制限セサルヲ以テ有罪ノ判決又ハ重キ刑ノ判決ヲ受ケシメンカ爲メニ被告人ニ利益アル證憑ヲ湮滅シ若クハ被告人ニ不利益ナル證憑ヲ偽造シタル等ノ場合ニ於テモ本罪ヲ構成スヘシ

以上ノ條件ヲ具備シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトス

第五百五條 本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

○本條ハ前二條處罰ノ例外ヲ規定シタルモノニシテ即チ本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セサルモノトス故ニ本條ニ依リ無罪タルニハ犯人又ハ逃走者ノ親族ナルコト其利益ノ爲メニ犯シタルコトノ二條件ヲ具備スルヲ要ス從テ民法上親族關係ナキモノナルトキ又ハ其不利益ノ爲メニ犯シタルトキハ無罪タル能ハス但シ自己ノ親族タル犯人又ハ逃走者ノ利益ナリト信シテ爲セハ足ル果シテ利益トナルヘキ行爲ナルヤ否ヤ又後日果シテ利益トナリタルヤ否ヤハ之ヲ問フコトナシ而シテ本條ノ規定ヲ設ケタル所以ハ親族ヲ庇護セントスル自然ノ人情ヨリ來ル行爲ニシテ犯人カ自己ノ罪責ヲ免レントスルト同シク深ク咎ムヘキモノニアラサ

レハナリ

第八章 騷擾ノ罪

○本章凡テ二條多數聚合シテ暴行脅迫ヲ爲シ又ハ當該公務員ノ命令ニ背キテ解散ヲ爲サ、ル罪ヲ規定シタルモノナリ舊刑法ニ於テハ本章ノ罪ヲ兇徒聚衆ノ罪ト題シタルモ兇徒聚衆ト云フトキハ博徒惡漢ノ如キ當初ヨリ良民ヲ以テ目セラレサルノ徒ヲ嘯集スルカ如ク聞ヘテ用語甚タ穩當ナラス故ニ本法ハ之ヲ騷擾ノ罪ト改メ其趣旨ニ叶ハシムルコト、シタリ

第百六條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ一年以上以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル

者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

○本條ハ多數聚合シテ暴行脅迫ヲ爲シタル罪ノ規定ニシテ其成立條件ハ左ノ如シ

一 多數聚合シタルコト 多數聚合トハ多數ト認ムヘキ人員相集ルヲ云フ然レトモ人員ニ付キ豫メ制限ヲ設ケサルヲ以テ果シテ多數ト認ムヘキヤ否ヤハ裁判官ノ判定ニ任セサルヘカラス

二 暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルコト 例ヘハ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾スルカ如キ其他凡テ聚合シタル多數ノ共同力ニ依リ人又ハ物ニ對シ暴行脅迫ヲ爲シタルトキハ本罪成立ス兇器ヲ使用スルト否トヲ問ハス又其目的ノ如何ヲ問フコトナシ但シ爲メニ人ヲ殺傷シタルトキノ如キハ殺傷罪トノ併合罪ナルヘク又朝憲ヲ紊亂センカ爲メ

ナルトキハ騷擾ノ罪ニアラスシテ内亂罪ナルコト言フ俟タス故ニ例ヘハ水利其他ノ事件ニ付キ便宜ヲ得ントシ若クハ富豪ニ賂賂ヲ強要スルカ如ク内亂罪以外ノ目的ヲ以テスル場合ナラサルヘカラス彼ノ日比谷騷擾事件足尾及ヒ別子鑛山騷擾事件ノ如キハ本罪ノ好適例ナリ

以上ノ條件ヲ具備シタルトキハ首魁即チ騷擾ヲ起シタル原動力ニシテ多數ノ頭領タル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ他人ヲ指揮シタル者又ハ他人ヲ指揮セサルモ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ附加隨行シタル者ハ五十圓以上ノ罰金ニ處スヘキモノトス

條文騷擾ノ罪ト爲シノ一句ハ本章ノ題名ニ騷擾ノ罪トアルニモ拘ラヌ本條ニ於テ單ニ多數聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ云々ト規定スルキハ果シテ何レカ騷擾ノ罪ニ當ルヤ不明ナルカ如キ感アルカ爲メ騷擾ノ罪ト爲シノ一句ヲ加ヘタルモノニシテ之ヲ條文

ヨリ省クモ其意義ニ於テハ何等ノ支障アルコトナシ

五百三十二

第一百七條 暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

○本條ハ多數聚合シテ解散ノ命令ヲ受クルモ之ニ從ハサル場合ニ付テ規定シタルモノニシテ其成立條件ハ左ノ如シ

一 暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メナルコト 未タ暴行脅迫ヲ爲サ、ルコトヲ要ス既ニ爲シタルトキハ本條ノ罪ニアラスシテ前條ノ犯罪ヲ構成ス

二 多衆聚合シタルコト 暴行脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シタルコトヲ要ス然レトモ如何ナル目的ノ爲メニ暴行脅迫ヲ爲サントスルヤハ之

ヲ問ハス内亂罪以外ノ目的ノ爲メナル以上ハ本罪ノ成立ニ妨ケナシ

三 當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及ヒタルコト 當該公務員トハ解散ノ命令ヲ發スル權限ヲ有スル公務員ヲ云フ例ヘハ府縣知事警務長郡長警部ノ如キ然リ此權限ナキ公務員ノ命令ハ私人ノ忠告ト異ナルナシ之ニ從ハサルモ本罪ヲ構成セス又假令當該公務員ノ爲シタルモノト雖モ解散ノ命令ニアラスシテ單純ナル注意若クハ説諭ニ過キサルトキハ之ニ從ハサルモ本罪ヲ構成セス又其解散ノ命令ハ三回以上ニ及フコトヲ要ス故ニ一回ノ命令ニ從ハサルモ二回ノ命令ニ從テ解散シ若クハ二回ノ命令ニ從ハサルモ三回ノ命令ニ從テ解散シタルトキハ本罪ヲ構成セス而シテ條文命令ヲ受クルコト三回以上トアルカ故ニ命令ヲ發スルコト三回以上ニ及フモ未タ不可ナリ其命令ハ必ス首魁等ニ之ヲ傳ヘサルヘカラス換言スレハ聚合シタル多衆ノ一團カ三回以上適法ナル解散ノ命令アリタルコトヲ知リタリト認ムヘキ事實

アルコトヲ要ス改正草案ニ於テハ公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルト雖モ解散セサルトキハ云々ト規定シタルモ衆議院ニ於テ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フト雖モ云々ト修正シ可決確定スルニ至リシナリ其修正ノ趣旨ハ可成解散ノ命令ヲ徹底セシメ此種ノ犯罪ノ成立ヲ防止セントスルニ在リ

四 仍ホ解散セサルコト 解散トハ命令ニ服従シテ多衆聚合ヲ解クヲ云フ一度ヒ解散シ數日ヲ經テ更ニ多衆聚合シタルトキノ如キハ意思ノ連續ノ有無及ヒ其他ノ事情ニ依リ未タ解散セサリシモノナルヤ將タ全ク別個ノ行爲ナルヤヲ決スヘキナリ
以上ノ條件ヲ具備シタルトキハ首魁ハ三年以下ノ徵役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトス

第九章 放火及ヒ失火ノ罪

○本章ハ火ノ燃燒力ニ因リテ法律ニ規定シタル物件ノ全部又ハ一部ヲ毀壞スル罪ヲ定メタルモノニシテ其所爲故意ニ出ツルトキハ放火タルヘク過失ニ出ツルトキハ失火タルヘシ而シテ舊刑法ニ於テハ本章ノ罪ヲ以テ財産ニ對スル罪ト爲シ之ヲ其第三編第二章中ニ規定シタルモ放火失火ハ寧ロ靜謐ヲ害スル罪ニ屬スヘキモノナルヲ以テ本法ハ之ヲ第九章トシ騒擾ノ罪ノ次ニ規定シタリ

第百八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、瀛車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

○本條ハ火ヲ放テ人ノ住居又ハ現在スル建造物汽車電車等ヲ燒燬シタル罪ヲ定メタルモノニシテ其成立條件ハ左ノ如シ

一 火ヲ放テ燒燬シタルコト 火ヲ放ツトハ故意ニ放火ノ目的物自

体若クハ媒介物ニ火力ヲ發生セシムルヲ云ヒ燒燬トハ火力ニ依リテ目的物体ノ上ニ損害ヲ與フルヲ云フ然レトモ如何ナル程度ニ達スレハ目的物ノ燒燬ト云フコトヲ得ヘキカ即チ既遂未遂ノ分界如何ニ付テハ學說區々ニシテ一定セス今其最モ有力ナル說ノ一二ヲ擧クレン曰ク目的物タル家屋其他ノ物件カ火力ノ爲メ其原形ノ大部分ヲ失ヒタルトキ即チ目的物カ其用ヲ失フノ程度ニ達シタルトキヲ以テ既遂トスト他ノ說ニ曰ク犯人ニ依テ放タレタル火力其媒介物タル燃料ヲ離レテモ仍ホ獨立シテ其燃焼力ヲ繼續シ得ヘキ狀況ニ達シタル時ヲ以テ既遂トスト後ノ說最モ有力ナリ然レトモ余ハ尙ホ少シク異ナル意見ヲ有ス抑モ本法ニ於テ文書ノ外物件ニ損害ヲ加フル場合ニハ常ニ損壞ノ語ヲ用キタリ第八十三條第九十八條第一百十四條第一百七十七條第二百一十一條ノ如キ其他此語ヲ使用シタル個條甚タ多シ而シテ損壞トハ必スシモ其物ノ用法ヲ全部又ハ一部不能ナラシメタル場合ノミヲ云フニアラスシテ物質上ノ

損害ヲ加フル以上ハ假令尙ホ之ヲ使用スルコトヲ得ヘキ場合ト雖モ損壞ト云フヲ妨ケス例ヘハ第二百六十條ノ罪ヲ侵シ建造物ヲ損壞シタルトキノ如キ又第二百六十一條ノ罪ヲ犯シ机ヲ損壞シタルトキノ如キ損壞ノ程度甚シカラサルカ爲メ建造物トシテ又ハ机トシテ尙ホ使用シ得ヘキ場合ト雖モ苟クモ物質上ノ損害ヲ加ヘタル以上ハ既遂タルヘシ本條ニ所謂燒燬ノ語モ之ト異ナルコトナク只火力ヲ以テ損壞スル場合ナルカ故ニ燒燬ノ語ヲ使用シタルノミ然レトモ茲ニ注意スヘキハ建造物ノ燒燬ト云ヘハ必ス其建造物ヲ構成スル部分ノ燒燬タルコトヲ要シ又汽車ノ燒燬ト云ヘハ汽車ヲ構成スル部分ノ燒燬タルコトヲ要ス故ニ例ヘハ家具ヲ燒燬シタルノミニテ建造物ニハ何等ノ損害ナキトキ又ハ荷物ヲ燒燬シタルノミニテ汽車自体ニハ未タ何等ノ損害ヲ生セサルトキノ如クハ既遂ニアラスシテ未遂ナリ之ト反シ例ヘハ建造物ノ柱ヲ燒キ汽車ノ床板ヲ燒キタルトキノ如キ假令其程度甚シカラサル爲メ尙ホ柱

又ハ床板カ其效用ヲ失ハサル時ト雖モ既遂ヲ以テ論セサルヘカラス而
 ノ其目的物自体ニ火力ニ依リ損害ヲ與フル以上ハ其燃燒力カ繼續シ得
 ヘキ狀況ニ在ルト否トヲ問フノ要ナシ若シ論者ノ說ニ從ヒ犯人ニ依テ
 附ケラレタル火カ其媒介物タル燃料ヲ離レテモ仍ホ獨立シテ其燃燒力
 ヲ繼續シ得ヘキ狀況ニ達シタルトキヲ以テ既遂ナリトセハ例ヘハ葉ニ
 火ヲ附ケ家屋内ニ投ケ入レタル爲メ寢具ニ燃ヘ附キ葉ヲ離レテモ仍ホ
 獨立シテ其燃燒力ヲ繼續シ得ヘキ狀況ニ達シタル時ノ如キ建造物ヲ燒
 燬シタル罪ノ既遂ナリト云ハサルヘカラス然レトモ家屋自体カ未タ何
 等ノ損害ヲ蒙ラサルニモ拘ラス家屋放火罪ノ既遂ナリト云フハ其當ヲ
 得ス以上要スルニ燒燬トハ火力ヲ以テ物質上ノ損害ヲ與フルヲ云フモ
 ノニシテ其程度ノ如何ハ犯罪ノ成立ニ關係ナシ然レトモ必ス其目的物
 自体ニ損害ヲ加ヘタルコトヲ要ス然ラサレハ既遂タルコト能ハス

二 現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物汽車電車艦船若

クハ鑛坑ナルコト 現ニ人ノ住居ニ使用ストハ犯人以外ノ者カ現在其
 住居ニ使用スルヲ云フ其所有權ノ何人ニ屬スルヤハ之ヲ問フナシ故
 ニ假令犯人ノ所有ニ屬スルトキト雖モ他人カ現ニ住居ニ使用シ居ル建
 造物ナルトキハ本罪ノ目的物タルコトヲ得ヘク又人ノ住居即チ眠食ノ
 本據トシテ常住ノ用ニ供スル建造物ナル以上ハ放火ノ當時偶々住居人
 カ不在ナルモ本罪ノ成立ヲ妨クルコトナシ人ノ現在スルトハ一時人ノ
 其處ニ在ルヲ云フ神社佛閣其他說教禮拜ノ場所ノ如キ現ニ人ノ住居ニ
 使用セサルモ放火ノ當時人ノ現在スルトキハ本罪成立スヘシ又建造物
 トハ土地ニ定著シテ風雨ヲ凌クニ足ル設備ヲ有シ人ノ出入ニ適スル工
 作物ヲ云フ初ヨリ住居ノ目的ヲ以テ建築シタルモノナルト否トヲ問ハ
 ス又神社佛閣ノ如キ其一部ニ看守者ノ住居スルトキハ人ノ住居ニ使用
 スル建造物ト云フコトヲ得ヘシ又艦船トハ軍艦及ヒ船舶ヲ云ヒ鑛坑ト
 ハ鑛物ヲ採掘スル爲メニ穿チタル坑口ヲ云フ舊刑法ニ於テハ家屋船舶

及ヒ汽車ノ燒燬ニ付テノミ規定シタルモ本法ハ之ヲ擴張シ廣ク建造物
 汽車艦船トシ更ニ電車鑛坑ヲ加ヘタリ是レ汽車ノミヲ保護シテ電車ヲ
 保護セサルヘキ理由ヲ發見シ難キノミナラス鑛坑ニ至リテハ放火ノ危
 害即チ家屋ニ勝ルモノアルニ拘ラス不幸ニ往々實際ニ生スル事實ナ
 ルヲ以テ其ノ保護ハ刻下ノ急務タレハナリ但シ汽車電車艦船鑛坑何レ
 モ人ノ現在スル場合ニ非スンハ之ヲ燒燬スルモ本罪ヲ構成セス又汽車
 電車ハ類例ヲ示シタルニアラスシテ之ヲ制限シタルモノナルカ故ニ他
 ノ車例ヘハ人力車ノ如キハ固ヨリ本條ニ包含セス彼ノ自働車ノ如キハ
 將來或ハ汽車電車ト同様ニ規定スルノ必要ヲ生スルコトアランモ現時
 ニ在テハ自働車中ニモ僅カニ一二人ヲ運搬スルニ過キササルモノアルカ
 爲メ之ヲ除外シタルナリ
 右ノ條件ヲ具備シタルトキハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處
 スヘキモノトス舊刑法ニ於テハ單ニ死刑ニ處スト規定シタルモ其刑ノ

範圍狹キニ過キ從テ其情狀輕キモノニ對シテモ尙ホ無益ノ酷刑ヲ科ス
 ルカ如キ不當ノ結果ヲ生スルヲ以テ刑ノ範圍ヲ廣クシ情狀ニ應シ其刑
 ヲ定メシムルコト、爲シタルナリ又殺人罪ト比較シテ少シク説明セン
 ニ殺人罪ト放火ハ共ニ最重刑ハ死刑ナリ然ルニ殺人罪ノ刑ノ最短期ハ
 三年ナルニモ拘ラス本條放火罪ノ最短期ヲ五年トシタルハ聊カ權衡ヲ
 失スルカ如シ本來刑ノ程度ヲ定ムルニ付テハ確然タル標準ノ存スルニ
 アラス然レトモ通例最重刑カ死刑ナルトキハ最短期ハ五年トシ最重刑
 カ無期ノトキハ最短期ハ三年トスル方針ナルカ如シ而モ殺人罪ノ最短
 期ヲ三年トシタルハ殺人罪ノ内容ニハ種々ノ事情アルニヨリ最モ其刑
 ノ範圍ヲ廣クシ置ク必要アルカ爲メニシテ寧ロ例外ニ屬シ本條ノ五年
 カ却テ一般ノ例ニ從ヘルナリ

第百九條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現

在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危険ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス

○本條ハ人ノ使用セス又ハ現在セサル物ニ對スル放火罪ヲ規定シタルモノニシテ第一項ノ罪ノ成立要素ハ左ノ如シ

- 一 人ヲ放ツテ燒燬シタルコト
- 二 現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物艦船若クハ鑛坑ナルコト 故ニ住居ノ用ニ供スヘク建築シタル家屋ト雖モ現ニ住居ニ使用スル人ナキ空屋ニシテ且ツ人ノ現在セサルトキハ前條ノ目的物タルコトヲ得ス之ヲ燒燬シタルトキハ本條ニ依テ處斷スヘキナリ然レトモ前條ト反シ汽車電車ヲ除外シタルヲ以テ人ノ現在セサル汽車電

車ヲ燒燬スルモ本條ノ犯罪ヲ構成セス

人ノ住居ニ使用セストハ犯人以外何人モ住居セサルヲ云フ故ニ全クノ空屋ナルトキハ勿論犯人ノ住居スルモ本條ノ目的物タルコトヲ得ヘシ但シ犯人以外其家族モ共ニ住居スルトキハ人ノ住居ニ使用スル建造物ナルヲ以テ前條ニ依リ處斷スヘキコト言ヲ誤タス

三 他人ノ所有ニ係ルコト 前條ノ場合ニ於テハ他人ノ所有ニ係ルト否トヲ問ハサルモ本條ニ於テハ自己ノ所有ニ係ル場合ヲ第二項ニ規定シタルカ故ニ第一項ノ犯罪ノ目的物ハ自己ノ所有ニ屬セサルコトヲ要スルナリ

右ノ條件ヲ具備シタルトキハ二年以上ノ有期懲役ニ處スヘキモノトス

○第二項ニ規定シタル犯罪ノ成立條件ハ左ノ如シ

- 一 火ヲ放ツテ燒燬シタルコト
- 二 現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物艦船若クハ

鑛坑ナルコト

三 自己ノ所有ニ係ルコト

四 公共ノ危険ヲ生シタルコト 公共ノ危険トハ公衆ニ危懼ノ念ヲ抱カシムルヲ云フ此念ヲ抱カシメサルトキハ本罪成立セス例ハ自己ノ所有ニ係ル一小破船ヲ何等延焼ノ虞ナキ海岸ニ於テ燒燬シタルトキノ如キ然リ然レトモ條文ノ所謂公共ノ危険ヲ生セサル時トハ事後ノ結果他ニ延焼等ノ損害ヲ與ヘサル場合ヲ云フニアラサルカ故ニ假令延焼セスシテ鑛火シタルトキト雖モ延焼ノ虞アリト認ムヘカリシ場合ナルトキハ本罪ヲ以テ論セサルヘカラス

右ノ條件ヲ具備シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス

第一百十條 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬

シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

○本條ハ建造物艦船鑛坑及ヒ人ノ現在スル汽車電車以外ノ物件ヲ燒燬シタル罪ノ規定ニシテ其成立條件ハ左ノ如シ

一 火ヲ放テ燒燬シタルコト

二 建造物艦船鑛坑及ヒ人ノ現在スル汽車電車以外ノ物ナルコト

故ニ人ノ現在セサル汽車モ電車モ本條ノ物件タルコトヲ得ヘク其他自働車人力車山林ノ竹木露積シタル柴草等凡テ火力ヲ以テ燃燒シ得ヘキ物ハ本條ノ犯罪ノ目的物タルコトヲ得ヘシ

三 因テ公共ノ危険ヲ生セシメタルコト 故ニ前二條ニ記載シタル

以外ノ物ヲ燒燬スルモ爲メニ公共ノ危險ヲ生セシメサルキハ本罪ヲ構成セス然レトモ公共ノ危險トハ必スシモ他人ノ財産ニ害ヲ及ホシタル場合ヲ云フニアラサルヲ以テ煙草盆一個紙一枚ヲ燒キ他ニ何等ノ損害ヲ與ヘサルトキト雖モ公衆ニ危懼ノ念ヲ抱カシメタルトキハ本罪ヲ以テ論セサルヘカラス第百八條及ヒ第百九條第二項ニハ公共ノ危險ノ語ナシ而モ第百九條第一項及ヒ本條ニ於テ特ニ公共ノ危險云々ト規定シタル所以ハ家屋艦船ノ如キハ之ヲ燒燬スルト共ニ公共ノ危險ヲ生スルモノト推定シタルヲ以テ第百八條等ニ此語ヲ加フルノ要ナキモ之ト反シ事態其物カ當然公共ノ危險ヲ生スヘキモノト認ムヘカラサルトキ例ヘハ煙草盆一個紙一枚ヲ燒ク場合ノ如キ特ニ公共ノ危險ヲ生セシメタルコトヲ處罰ノ條件トスル必要アルヲ以テナリ

右ノ條件ヲ具備シタルトキハ本罪成立スヘク而シテ其燒燬シタル物カ他人ノ所有ニ係ルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處シ自己ノ所有ニ

係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトス

第百十一條 第百九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第百八條又ハ第百九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

○本條ハ自己ノ所有ニ係ル物ヲ燒燬シ因テ他人ノ物ニ延燒セシメタル場合ヲ規定シタルモノニシテ第一項ノ成立條件ハ左ノ如シ

- 一 第百九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シタルコト
- 二 因テ第百八條又ハ第百九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルコト

右ノ條件ヲ具備シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス

第二項ノ成立條件ハ左ノ如シ

一 第一百十條第二項ノ罪ヲ犯シタルコト

二 因テ第一百十條第一項ニ記載シタル物ニ延焼シタルコト

右ノ條件ヲ具備シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス
以上何レモ延焼シタルコトヲ條件トス而シテ延焼トハ火力カ燒燬セントシタル目的物以外ニ延ヒテ他ノ物件ヲ燒燬シタル場合ヲ云フカ故ニ若シ初メヨリ他人ノ物ヲ燒燬セントスル意思ヲ以テ自己ノ物ニ放火シタルトキノ如キハ其目的物ノ區別ニ從ヒ第一百八條以下ノ規定ニ照ラシテ之ヲ處斷セサルヘカラス

第一百十二條 第一百八條及ヒ第一百九條第一項ノ未遂罪ハ之

ヲ罰ス

○本條ハ火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物汽車電車艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル罪及ヒ火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル罪ノ未遂罪ハ之ヲ處罰スヘキ旨ヲ定メタルモノナリ蓋シ此種ノ放火罪ハ事態頗ル重大ニシテ社會ニ危險ヲ與フルコトヲ多キヲ以テナリ既遂未遂ノ區別ニ付テハ第一百八條ノ下ニ於テ述ヘタル所ヲ參照スヘシ

第一百十三條 第一百八條又ハ第一百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

○本條ハ第一百八條又ハ第一百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ヲ處罰スル旨ヲ定メタルモノナリ蓋シ建造物艦船鑛坑ノ如

キハ人ノ住居若クハ現在スル場合多キノミナラス假令住居若クハ現在セストスルモ此等ハ重要ナル財産ナルヲ以テ之ニ放火スルカ如キ重大ナル罪ハ其準備行為ヲ罰シテ其危害ヲ未然ニ防遏スルコトヲ必要トスレハナリ然レトモ離婚又ハ嫉妬ノ如キ其他事由ノ如何ニ依テハ情狀憐ムヘキモノアルヲ以テ但書ヲ設ケ情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得ルモノトシタリ

第百十四條

火災ノ際鎮火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

○本條ハ火災ノ際鎮火ノ妨害ヲ爲シタル罪ノ規定ニシテ其成立條件ハ左ノ如シ

一 火災ノ際ナルコト 火災ノ際トハ現ニ家屋其他ノ物件カ燒燬ス

ル時即チ火ノ燃エ初メタルトキヨリ消滅スル迄ノ間ヲ云フ其原因ハ放火ナトハ失火ナルト又天災地變ニ基クトヲ問フコトナク又火災ニ係リタル物カ第百八條第百九條等ニ記載シタル物件ナルト否トヲ問フコトナシ

二 鎮火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタルコト 鎮火用ノ物トハ消防用ノ機械其他ノ器具ヲ總稱ス隱匿トハ發見ヲ妨クル所爲ヲ云ヒ損壞トハ物質的損害ヲ加フルヲ云フ又其他ノ方法トハ消防夫ノ通行ヲ妨ケ若クハ水道ヲ堰キ止メテ水ヲ流下セシメサル等凡テ鎮火用ノ物ノ隱匿損壞以外ノ方法ヲ云フ又鎮火ヲ妨害シタルトハ鎮火ニ重大ナル不便ヲ與フルヲ云フ故ニ假令鎮火用ノ唧筒ニ物質的損害ヲ加ヘタルトキト雖モ其程度輕少ニシテ鎮火ノ爲メ何等ノ妨害トナラサルトキノ如キハ本罪ヲ構成セス本罪ノ成立ニハ方法ノ如何ヲ問ハス鎮火ヲ妨害シタルコトヲ要ス但シ重大ナル不便ヲ與フレ

ハ足ル取テ不能ニ歸セシメタルコトヲ要セス
以上ノ條件ヲ具備シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處スヘキ
ノトス

第一百五十五條 第九條第一項及ヒ第十條第一項ニ記載
シタル物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ
負擔シ又ハ賃貸若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタ
ルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

○本條ハ差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル自
己ノ所有物ヲ燒燬シタル場合ノ規定ニシテ其成立條件ハ左ノ如シ

一 火ヲ放ツテ燒燬シタルコト

二 第九條第一項及ヒ第十條第一項ニ記載シタル物ニシテ且犯
人自己ノ所有ニ係ルコト 第九條第一項ニ記載シタル物トハ現ニ人

ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物船舶若クハ鑛坑ヲ云ヒ第
百十條第一項ニ記載シタル物トハ建造物船舶鑛坑及ヒ人ノ現在スル汽
車電車以外ノ物ヲ云フ

三 差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル
差押ヲ受ケトハ民事訴訟法ノ規定ニ依リ差押處分(假差押ヲ含マス)ヲ
受ケタルヲ云ヒ物權ヲ負擔シトハ民法第二編第一章ニ規定シタル各種
ノ權利ヲ設定シタルヲ云フ抵當權ノ目的物タルトキノ如キ然リ又賃貸
シトハ賃金ヲ得テ他人ニ物ノ使用收益ヲ許シタルヲ云ヒ保險ニ付シタ
ルトハ損害保險(當事者ノ一方カ偶然ナル一定ノ事故ニ因リテ生スル
コトアルヘキ財産上ノ損害ヲ填補スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬
ヲ與フルコトヲ約スル契約)ニ付シタルヲ云フ

保險ニ付シタル自己ノ所有物ヲ自ラ燒棄シタル場合ニ於テハ犯人ハ保
險金ヲ得ルノ權利ナク亦燒棄シタル物体ハ事實自己ノ所有ニ屬スルヲ

以テ之ヲ嚴罰スルノ必要ナキカ如シ然レトモ犯人ノ意思ハ全ク不慮ノ
火災ニ罹リタリト云フ名義ノ下ニ保險金ヲ詐取セントノ手段ニ外ナラ
サルヲ以テ事後ニ於ケル審理ノ結果犯人ニ保險金ヲ受取ルノ權利ナク
從テ保險者ニ何等ノ損害ヲ與ヘサルコトヲ理由トシテ不問ニ附スル能
ハス且實際上保險金ヲ詐取センカ爲メニ放火罪ヲ犯ス者尠ナカラサル
ヲ以テ之ヲ嚴罰スル必要アリトシ此場合モ物權ヲ負擔シ賃貸シタル等
ノ場合ト同シク本條ニ加ヘタルナリ

以上ノ條件ヲ具備シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ照シテ
處斷スヘキモノトス故ニ第九條第一項ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル
トキハ自己ノ所有ニ係ルト雖モ同條第二項ニ依ラスシテ一年以上ノ有
期懲役ニ處スヘク又第一百條第一項ニ記載シタル物ナルトキハ一年以
上十年以下ノ懲役ニ處スヘシ蓋シ自己ノ所有ニ屬スルモ本條ノ場合ノ
如キハ之ニ因リテ他人ノ權利ヲ害シ之ニ損害ヲ加フルコト殆ント他人

ノ物ヲ燒燬スルニ均シキヲ以テナリ

第一百六條 火ヲ失シテ第八條ニ記載シタル物又ハ他
人ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル
者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物
又ハ第一百條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危険
ヲ生セシメタル者亦同シ

○本條ハ失火ノ場合ヲ規定シタルモノニシテ第一項ノ罪ノ成立條件ハ
左ノ如シ

一 火ヲ失シタルコト 火ヲ失シタルトハ過失ニ因リ發火セシメタ
ルヲ云ヒ過失トハ豫見シ得ヘキ結果ヲ豫見セシコト即チ行爲者カ豫見

セサルヘカラサル結果ニシテ而モ行爲者カ豫見シ得ヘカリシニモ拘ラ
ス之ヲ豫見セサリシヲ云フ故ニ到底豫見シ得ヘカラサルトキハ爲ニ火
ヲ發スルモ失火ニアラス又發火ヲ豫見シタルトキハ放火ニシテ失火ニ
アラス然レトモ過失行爲モ亦行爲ノ一種ナルヲ以テ行意者ノ任意ナル
意思ノ實行ニ基クモノナラサルヘカラス故ニ他人ノ強制ヲ受ケ已ムヲ
得スシテ爲シタル行爲ノ結果火ヲ發シタルトキノ如キハ被強制者ニ失
火ノ責任ナシ

二 第八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第九條ニ記載
シタル物ヲ燒燬シタルコト

右ノ條件ヲ具備シタルトキハ三百圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトス

第二項ニ規定シタル罪ノ成立條件ハ左ノ如シ

- 一 火ヲ失シタルコト
- 二 自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物又ハ第一百條ニ記載

シタル物ヲ燒燬シタルコト

三 因テ公共ノ危険ヲ生セシメタルコト

右ノ條件ヲ具備シタルトキハ前項ノ場合ト同シク三百圓以下ノ罰金ニ
處スヘキモノトス

第十七條

火藥、

汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメ

テ第八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第九
條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ
自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物又ハ第十
條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメ
タル者亦同シ

前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ

○本條ハ放火及ヒ失火ニ準スヘキ犯罪ヲ規定シタルモノニシテ其成立條件ハ左ノ如シ

一 火藥汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメタルコト 其他激發スヘキ物トハ點火又ハ發熱作用ニ依リ瓦斯又ハ水蒸氣ニ激烈ナル膨脹力ヲ惹起シ爆發スル物ヲ云フ

二 第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタルコト
右ノ條件ヲ具備シタルトキハ放火ノ例ニ倣ヒテ處斷スヘキモノトス蓋シ危險發生ノ手段ニ差異アルノ外放火ノ場合ト異ナル所ナキヲ以テテ左ノ條件ヲ具備シタル場合ニ於テモ亦放火ノ例ニ倣ヒ處斷スヘキモノトス

一 火藥汽罐其他激發スヘキ物ヲ破裂セシメタルコト

二 自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シタルコト

三 因テ公共ノ危險ヲ生セシメタルコト
以上ハ凡テ故意ニ出テタル場合ナルカ若シ其行爲過失ニ出テタルトキハ前條ノ例ニ倣ヒテ之ヲ處罰スヘキモノトス

第百十八條

瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ

重キニ從テ處斷ス

○本條ハ瓦斯電氣又ハ蒸汽ノ漏出等ニ因リテ人ノ生命身体財産ニ危険ヲ生セシメタル場合ノ規定ニシテ第一項ノ罪ノ成立條件ヲ舉レハ左ノ如シ

一 瓦斯電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シタルコト 瓦斯電氣又ハ蒸汽ノ流通スル管線貯藏ノ器具等ヲ毀損シ又ハ其他ノ方法ニ因リ之ヲ外界ニ放散スルニ當リ其分量多キトキハ流出ト云ヒ少キトキハ漏出ト云フ又器具毀損其他ノ方法ニ依リ流通ヲ途絶スル行爲ヲ遮斷ト云フ

二 因テ人ノ生命身体又ハ財産ニ危険ヲ生セシメタルコト 故意ヲ以テ前號ノ行爲ヲ爲セハ足ル人ノ生命身体又ハ財産ニ危険ヲ生セシメントスル意思アルコトヲ要セス
右ノ條件ヲ具備シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處

スヘキモノトス

第二項ノ罪ノ成立條件ハ左ノ如シ

一 瓦斯電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シタルコト

二 因テ人ヲ死傷ニ致シタルコト 死傷ニ致スノ故意ナキコトヲ要ス若シ人ヲ殺シ若クハ傷ケントスル故意ヲ以テ前號ノ行爲ヲ爲シタルトキハ當然殺人若クハ傷害ノ罪タルヘシ

右ノ條件ヲ具備シタルトキハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷スヘキモノトス蓋シ其情狀重クシテ之ヲ過失傷害罪ト爲スハ輕キニ失スルヲ以テ特ニ傷害罪ニ問フコトトナシタルナリ

第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

○本章ハ水力ニ依リテ危険ノ状態ヲ發生セシメタル罪ヲ規定シタルモノ

第二編第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

ニシテ前章ノ放火及ヒ失火ノ罪ト同シク靜謐ニ關スルモノナルカ故ニ本章ニ規定シタリ而シテ舊刑法ニ決水ノ罪トアルヲ改メ溢水及ヒ水利ニ關スル罪トシタルハ用語穩當ヲ缺クヲ以テナリ

第百十九條

溢水セシメテ現ニ二人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建築物、汽車電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

○本條ハ溢水ニ依リテ人ノ住居シ又ハ現在スル物件ヲ浸害セシメタル罪ノ規定ニシテ其成立條件ハ左ノ如シ

- 一 溢水セシメタルコト 溢水トハ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞スル等ノ所爲ニ依リ水ヲ漲溢汎濫セシメタルコト即チ水ノ自然力ニ加ヘタル制限ヲ排除シテ洪水ト爲ラシメタルヲ云フ其方法手段ニハ制限ナシ
- 二 現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建築物汽車電車若クハ

鑛坑ヲ浸害シタルコト 浸害トハ水ヲ浸入セシメテ損害ヲ與フルヲ云フ必スシモ流失破壞等ノ結果アルコトヲ要セス其他本號ニ付テハ第百八條放火罪ノ下ニ於テ述ヘタル所ヲ參照スヘシ
第百八條ニ建築物汽車電車等ノ外艦船ヲ加ヘタルモ本條ハ之ヲ除斥シタリ是レ軍艦船舶ノ如キハ其性質上溢水ノ爲メ浸害ヲ被ルヘキモノニアラサレハナリ然レトモ船舶ハ溢水ノ爲メニ浸害ヲ被ムルコト絶無ナリト云フヘカラス此場合ニ於テハ次條ニ依リテ處分スルノ外ナシ
右ノ條件ヲ具備シタルトキハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處スヘキモノトス

第二十條

溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物
權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限
リ前項ノ例ニ依ル

○本條ハ溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シタル罪ノ規
定ニシテ其成立條件ハ左ノ如シ

- 一 溢水セシメタルコト
 - 二 前條ニ記載シタル以外ノ物ニシテ他人ノ所有ニ屬スル物ヲ浸害
シタルコト 現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物汽車
電車若クハ鑛坑ノ如キハ其重モナルモノナリ
 - 三 因テ公共ノ危險ヲ生セシメタルコト
- 右ノ條件ヲ具備シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處スヘキモノ
トス

第二項ノ規定ニ依レハ浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ其罪ヲ論
セサルモ若シ差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタ
ル物ナルトキハ此場合ニ限り前項ノ例ニ依リ處斷スヘキモノトス仍ホ
第百十五條ノ說明ヲ參照スヘシ

第二百一十一條 水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若
クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上
十年以下ノ懲役ニ處ス

○本條ハ水害ノ際防水ヲ妨害シタル罪ノ規定ニシテ其成立條件ハ左ノ
如シ

- 一 水害ノ際ナルコト 水害ノ際トハ洪水ノ爲メ公共ノ危險ヲ生ス
ル虞アル場合ヲ云フモノニシテ其原因ノ天災地變ニ在ルト前數條ノ罪
ヲ犯シ溢水セシメタル者アル場合ナルトヲ問フコトナシ

二 防水用ノ物ヲ隠匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタルコト 本號ハ第百十四條ノ下ニ於テ述ヘタル所ト異ナルコトナシ只鑛火ト防水トノ差アルノミ
右ノ條件ヲ具備シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス

第百二十二條 過失ニ因リ溢水セシメテ第百十九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第百二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

○本條ハ過失ニ因リ溢水セシメタル場合ノ規定ニシテテ其成立條件ハ左ノ如シ

一 過失ニ因リ溢水セシメタルコト 過失ノ何タルヤハ第百十六條

ノ下ニ於テ説明シタリ参照スヘシ

二 第百十九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタルコト又ハ第百二十條に記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタルコト 第百十九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル場合ニ公共ノ危険ヲ生セシメタルコトヲ條件トセザルハ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物汽車電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタルトキハ當然公共ノ危険ヲ生セシメタルモノニシテ特ニ之ヲ條件トスルノ必要ナキヲ以テナリ
右ノ條件ヲ具備シタルトキハ三百圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトス

第百二十三條 堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又二百圓以下ノ罰金ニ處ス

○本條ハ水利ノ妨害ト爲ルヘキ行爲又ハ溢水セシムヘキ行爲ヲ爲シタル者ノ罪ヲ定メタルモノニシテ其成立條件ハ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ破壊シ其他水利ノ妨害ト爲ルヘキ行爲又ハ溢水セシムヘキ行爲ヲ爲シタルニアリ堤防トハ水ノ自然的流出ヲ防遏スル爲メニ施シタル工事ヲ云ヒ決潰トハ物質的ニ毀損シテ堤防ノ全部又ハ一部ヲ無効ナラシムルヲ云フ又水閘トハ水ヲ適宜ニ導引スル爲メニ施シタル工作物ヲ云ヒ破壊トハ其全部又ハ一部ノ效用ヲ失ハシムルヲ云フ又其他水利ノ妨害ト爲ルヘキ行爲トハ例ヘハ新タニ工事ヲ起シテ自己ノ田畑ニノミ多量ノ水ヲ引キ爲メニ他人ノ田畑ニ水ノ灌漑スルコトヲ妨クルカ如キ凡テ水力ノ利用ヲ妨ケテ他ヲ害スル行爲ヲ云フ面シテ堤防ノ決潰モ水閘ノ破壊モ水利妨害又ハ溢水行爲ノ一例ナルカ故ニ決潰及ヒ破壊ノ程度ハ水利妨害又ハ溢水セシム得ヘキ程度ニ達シタルコトヲ要ス然ラサルハ本罪成立セス然レトモ水利ノ妨害ト爲ルヘキ行爲又ハ溢水セシムヘキ行爲ア

レハ足ル必スシモ現ニ水利妨害ノ結果ヲ生シ若クハ溢水ノ結果ヲ生シタルコトヲ要セス又溢水ノ結果家屋等ヲ侵害シタルトキハ第百十九條又ハ第百二十條ニ依テ處斷スヘク本罪ヲ以テ論スル能ハス
以上ノ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトス此ノ如ク刑ノ範圍ヲ廣クシ又其最短期ヲ限定セサルハ此犯罪ハ旱魃ノ際農業ニ從事スル者ノ間ニ屢々生スル所ニシテ其情狀誠ニ憫諒スヘキモノ尠ナカラサルヲ以テナリ

第十一章 往來ヲ妨害スル罪

○海陸往來ノ便不便ハ一國ノ政治上經濟上社交上ニ至大ノ影響ヲ及ホスヲ以テ之ヲ妨害スル行爲ハ社會ニ對シテ實ニ尠ナカラサル危害ヲ加フルモノト云フヘシ故ニ國家ハ此等ノ行爲ヲ禁スルニ刑罰ノ制裁ヲ以テシ以テ往來ノ安全ヲ保護セサルヘカラス是本章ノ規定アル所以ナリ而シテ舊刑

法ニ於テハ往來通信ヲ妨害スル罪ト題シ其節目中ニ偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタル罪及ヒ電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル罪ヲ規定シタルモ新法ハ特別法ニ讓ル目的ヲ以テ之ヲ削除シタルカ故ニ章名ヲ單ニ往來ヲ妨害スル罪ト改メタリ又舊刑法ニ於テハ船舶覆没ノ罪ヲ以テ單ニ財產ニ對スルモノトシタルモ放火及ヒ失火ノ罪溢水及ヒ水利ニ關スル罪ト均シク寧ロ靜謐ヲ害スル罪ト見ルコト至當ナルカ故ニ新法ハ之ヲ本章中ニ規定シタリ

第二百二十四條

陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

○本條ハ道路橋梁ヲ損壞壅塞スル罪ヲ定メタルモノニシテ其成立條件ハ左ノ如シ

一 陸路又ハ水路若クハ橋梁ナルコト 陸路水路トハ水陸ノ公道ヲ云ヒ橋梁トハ水上ニ架設シタル道路ヲ云フ而シテ制限的ニ列記シタルカ故ニ此以外ノ場所ニ關スルトキ本罪成立セス又布設者ノ私人タルト否トヲ問ハス公衆ノ使用ニ供セラレタル往來ノ機關ナルトキハ本條ニ包含スルモ一私人ノ便宜ノ爲メニ設ケタル私有通路ノ如キハ包含セサルヲ以テ之ヲ妨害スルモ本罪ヲ構成セス

二 損壞又ハ壅塞シタルコト 損壞壅塞ノ程度ハ往來ノ妨害ヲ生セシメ得ヘキ程度ニ達シタルコトヲ要ス而シテ損壞トハ道路等ノ實質ヲ害スルヲ云ヒ壅塞トハ物質上ノ損害ヲ與ヘスシテ通路ヲ遮斷スルヲ云フ道路橋上ニ岩石竹木ヲ横タヘ往來ノ作用ヲ妨ケタルモノ如キハ即チ壅塞ノ適例ナリ本條ハ犯罪ノ手段ヲ損壞又ハ壅塞ノ二種ニ制限シタル

ヲ以テ例ヘハ路傍ニ虚偽ノ揭示ヲ爲シ以テ其方向ヲ誤ラシメタルトキ
ノ如キハ本條ヲ以テ論スル能ハス

三 往來ノ妨害ヲ生セシメタルコト 妨害ヲ生セシメタルトハ通行
ヲ不能ナラシメ又ハ通行ニ不便ナラシメタルヲ云フ敢テ現實ニ其禍ヲ
受ケタル者アルコトヲ要セス故ニ損壞又ハ壅塞後未タ一人ノ通行者ナ
キ場合ト雖モ本罪成立スヘシ

右ノ條件ヲ具備シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ
處スヘキモノトス

第二項ノ規定ニ依レハ右ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ傷
害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷スヘキモノトス是レ第百十八條第二項
ノ趣旨ト同一ナリ曩ニ述ヘタル所ヲ参照スヘシ

第二百二十五條 鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法

ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危険ヲ生セシメタル者ハ
二年以上ノ有期懲役ニ處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往
來ノ危険ヲ生セシメタル者亦同シ

○本條ハ汽車電車又ハ艦船ノ往來ヲ妨害スル罪ノ規定ニシテ第一項ノ
成立條件ハ左ノ如シ

- 一 鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テシタルコト 鐵
道トハ汽車電車ノ往來スル一定ノ軌道ヲ云ヒ其標識トハ安全又ハ危険
ヲ認識セシムル一定ノ設備ヲ云フ又其他ノ方法トハ損壞以外ノ方法ニ
シテ例ヘハ鐵道ニ木石ヲ横ヘ若クハ虚偽ノ標識ヲ掲クルカ如キヲ云フ
- 二 汽車又ハ電車ノ往來ノ危険ヲ生セシメタルコト 危険ヲ生セシ
メタルトハ危険ヲ生スルノ狀況ニ至ラシメタルヲ云フ現ニ其往來ヲ妨

害セラレタルコトヲ要セス又舊刑法ニ於テハ往來ヲ妨害スルノ目的ヲ以テシタルコトヲ必要トシタルモ本法ハ目的ノ如何ヲ問ハサルヲ以テ必スシモ往來ノ危険ヲ生セシメントスル意思アルコトヲ要セス只故意ヲ以テ前號ノ行爲ヲ爲シタル結果往來ノ危険ヲ生セシメタルトキハ本罪ヲ構成スヘシ故ニ例ヘハ汽車ノ進行シ來ルマテニ取除クノ意思ヲ以テ鐵道ニ大木大石ヲ横タヘタルトキノ如キ其狀態ニシテ往來ノ危険ヲ生セシメタル者ト認め得ヘクンハ本罪ヲ以テ論セサルヘカラス
右ノ條件ヲ具備シタルトキハ二年以上ノ有期懲役ニ處スヘキモノトス
○第二項ニ定メタル罪ノ成立條件ハ左ノ如シ

一 燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テシタルコト 燈臺又ハ浮標トハ何レモ航海ノ安全ヲ保護スル爲メノ標識ニシテ點火スルモノヲ燈臺ト云ヒ海上ニ浮ヘタルモノヲ浮標ト云フ又其他ノ方法トハ損壞以外ノ方法ニシテ詐偽ノ標識ヲ點示スルカ如キ然リ

二 艦船ノ往來ノ危険ヲ生セシメタルコト 艦船トハ軍艦及ヒ普通ノ船舶ヲ云フ

右ノ條件ヲ具備シタルトキハ前項ノ罪ト同ク二年以上ノ有期懲役ニ處スヘキモノトス
以上ノ罪ヲ犯シタル結果汽車電車ノ顛覆破壊ヲ來シ若クハ艦船ノ覆没破壊ヲ來シタルトキハ第百二十七條ノ規定ニ依リ第百二十六條ノ例ニ照シテ處斷セサルヘカラス

第百二十六條 人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壊シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
人ノ現在スル艦船ヲ覆没又ハ破壊シタル者亦同シ
前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

○本條ハ人ノ現在スル汽車電車ヲ顛覆又ハ破壊シタル罪及ヒ人ノ現在スル艦船ヲ覆没又ハ破壊シタル罪ノ規定ニシテ第一項ノ罪ノ成立條件ハ左ノ如シ

一 人ノ現在スル汽車又ハ電車ナルコト 人ノ現在スルトハ犯罪ノ當時車内ニ人ノ存在スルヲ云フ乘客ナルト否トヲ問ハス又人ヲ殺傷スルノ意思アルコトヲ要セサルヲ以テ人ノ現在スルコトヲ知リタルト否トヲ問ハス

二 顛覆又ハ破壊シタルコト 顛覆トハ連結シタル車体ノ全部ナルト一部ナルトヲ問ハス之ヲ倒スヲ云フ單ニ軌道ヲ脱シタルノミニテハ顛覆ト云フコト能ハサルカ故ニ未遂犯タルヘシ又破壊トハ損壞ニ比シ其程度重ク全部又ハ一部使用不能ニ至ラシメタルヲ云フ

右ノ條件ヲ具備シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處スヘク若シ右ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處スヘ

キモノトス

○第二項ニ規定シタル罪ノ成立條件ハ左ノ如シ

一 人ノ現在スル艦船ナルコト

二 之ヲ覆没又ハ破壊シタルコト 覆没トハ轉覆又ハ沈没セシムルヲ云フ其手段ノ如何ヲ問ハス然レトモ暗礁又ハ淺瀬ニ乗リ上ケシメタルニ止マルトキノ如キハ覆没ト云フ能ハサルカ故ニ未遂ヲ以テ論セサルヘカラス

右ノ條件ヲ具備シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處スヘク因テ人ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處スヘキモノトス

前二項ノ場合ニ於テ人ヲ傷害シタルニ止マルトキハ如何曰ク第一項及ヒ第二項ハ傷害者アル場合ヲモ豫想シテ刑罰ヲ定メタルモノナルカ故ニ其範圍ニ於テ處分スヘキナリ然ラハ人ノ現在セサル汽車電車等ヲ顛覆破壊シタルトキハ如何曰ク本章ニ何等ノ規定ナキヲ以テ普通ノ毀棄

罪ニ依リ處斷スルノ外ナシ蓋シ放火矢火ノ罪及ヒ溢水水利ニ關スル罪ニ付テハ人ノ現在セサル場合ヲ豫想シ其規定ヲ設ケタルニモ拘ラス本章之ヲ缺クハ本章ハ往來ヲ妨害スル罪ナルカ故ニ何レモ人ノ現在スル場合ニ限ル必要アルヲ以テナリ

第二百二十七條 第二百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顛覆若クハ破壊又ハ艦船ノ顛覆若クハ破壊ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

○本條ハ第二百二十五條ノ罪ヲ犯シタル結果汽車電車等ノ顛覆若クハ破壊ヲ來シタル場合ノ規定ニシテ即チ鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメ因テ汽車又ハ電車ノ顛覆若クハ破壊ヲ致シタルトキハ前條第一項及ヒ第三項ノ例ニ依リテ處斷スヘク又燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往

來ノ危險ヲ生セシメタル結果艦船ノ覆没若クハ破壊ヲ致シタルトキハ前條第二項及ヒ第三項ノ例ニ照シテ處斷スヘキモノトス蓋シ直接ニ顛覆破壞等ノ行爲ヲ爲スト間接ニ其結果ヲ見ルニ至リタルトハ危害ノ點ニ於テ異ナル所ナキヲ以テナリ

第二百二十八條 第二百二十四條第一項、第二百二十六條、第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○本條ハ往來ヲ妨害スル罪ノ未遂犯ヲ罰スヘキ場合ヲ定メタルモノニシテ其理由ハ放火罪ノ未遂犯ヲ罰スルト同シク社會ニ危害ヲ及ボスコト重大ナルヲ以テ未遂ト雖モ不問ニ附スヘカラサレハリ但シ放火ノ場合ト異ナリ着手以前ノ行爲ハ之ヲ罰セス

第二百二十九條 過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメ又ハ汽車、電車ノ顛覆若クハ破壊又ハ

艦船ノ覆没若クハ破壊ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

其業務ニ従事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○本條ハ過失ニ出テタル場合ノ規定ニシテ其成立條件ハ左ノ如シ

- 一 過失ニ因リタルコト 過失トハ豫見シ得ヘキ結果ヲ豫見セサルヲ云フ仍ホ第百十六條ノ下ニ於テ述ヘタル所ヲ参照スヘシ
- 二 汽車電車又ハ艦船ノ往來ノ危険ヲ生セシメ又ハ汽車電車ノ顛覆若クハ破壊又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊ヲ致シタルコト 本號後段汽車電車及ヒ艦船ノ語中ニハ人ノ現在セサル汽車電車若クハ艦船ヲ包含スルヤ否余ハ包含セスト解スルヲ至當ナリト信ス何トナレハ本章ハ人ノ

現在セサル汽車電車等ヲ故意ヲ以テ顛覆破壊シタル場合ヲ規定セサルカ故ニ過失ニ出テタル時ノミヲ規定スルノ理ナク又本章ハ往來ヲ妨害スル罪ナルカ故ニ人ノ現在スルコトヲ必要トスルヲ以テナリ

右ノ條件ヲ具備シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處スヘク若シ其業務ニ従事スル者即チ汽車電車又ハ艦船ノ機關士運轉士其他ノ職員等凡テ營業又ハ職務トシテ其事務ニ當ル者之ヲ犯シタルトキハ普通人ノ之ヲ犯スヨリ其情狀重キヲ以テ此場合ニ於テハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトス

第十二章 住居ヲ侵ス罪

○本章凡テ三條所謂家宅侵入罪ヲ規定シタルモノナリ蓋シ人ノ邸宅其他法文ニ列舉シタル場所ニ立入ルカ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヲ退去セサルカ如キハ人ノ管理權ヲ害シ延テ生活ノ自由安全ヲ侵害スルモノナルヲ以

テ其犯人ヲ處罰シ人民ノ安寧幸福ヲ保護センカ爲メナリ

第三百三十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

○本條ハ人ノ住所ヲ侵ス罪ヲ規定シタルモノニシテ其成立條件ハ左ノ如シ

一 人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅建造物若クハ艦船ナルニ、人ノ住居トハ人カ住所又ハ居所ト定メタル場所即チ一時ナルト永久ナルトヲ問ハス人カ眠食ノ本據ト爲ス所ニシテ外界ヨリ區劃スル設備ヲ施シタル場所ヲ云フ其大小及ヒ區分ノ有無ハ之ヲ問ハス故ニ彼ノ下宿屋ノ客室ノ如キモ住居タルヲ妨ケス又苟クモ住居ニ供セラレタルモノナ

ル以上ハ一時不在ノ際侵入シタルトキト雖モ本罪ノ成立ヲ妨ケス人ノ看守スルトハ住居スル人ナキ爲メ之ヲ管理守衛スルヲ云フ又邸宅トハ人ノ家屋及ヒ之ヲ圍繞スル保障物内ノ地域ヲ云ヒ建造物トハ風雨ヲ凌クヘキ設備ヲ施シ地上ニ定著シタル工作物ニシテ邸宅ニアラサル物ヲ云フ邸宅ニハ人ノ住スル邸宅アリ又空屋ノ如ク人ノ住セサル邸宅アリ人ノ住スルトキハ之ヲ住居ト云フ又人ノ住セサル邸宅ニハ人ノ看守スル邸宅アリ看守セサル邸宅アリ又建造物ニハ人ノ看守スル建造物アリ看守セサル建造物アリ若シ人ノ住スルトキハ住居用ニ建造シタル物ニアラスト雖モ住居ト稱スヘキナリ又艦船トハ軍艦及ヒ船舶ヲ云フコト屢々述ヘタル所ノ如シ舊刑法ニ於テハ人ノ住居シタル邸宅云々ト規定シタルカ爲メ從來往々ニシテ狭ク其意義ヲ解シ人ノ住居トシテ借受ケタル室内ニ侵入セル場合ノ如キハ罪トナラスト云フ者ナキニアラス是ヲ以テ本法ニ於テハ之ヲ人ノ住居ト改メ其住居ノ場所ヲ問ハサルコト